

平成 15 年度

日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究

韓国アンケート調査集計結果報告書

平成 16 年 3 月

独立行政法人

国立国語研究所

本報告書について

学習目的、分野、母語等、学習者の特性や、各国・地域における日本語の社会的位置付け、日本語教育機関の設備・環境、教師の教育観や日本語能力等、日本語教育の多様性についての認識は定着しつつあり、それぞれの教育現場において独自の対応がなされてきている。一方、インターネットをはじめとする様々な情報流通の在り方の変化や、学習者及び教師の地球規模での移動・交流はますます加速しており、日本語教育の各領域全体の様相をとらえ、連携体制を整え、必要な支援を行うことが日本語教育推進のために求められている。そこで、日本語教育の振興を図るための適切な支援、連携体制整備を進めるためには、まず国内外で日本語を学習し、あるいは教えている人々がどのような環境で、さらにはどのような手段で日本語を学習し、あるいは教えているのかについて広く情報収集し、「多様化」と言われる現状を把握する必要がある。

このような必要にかんがみ、国立国語研究所日本語教育部門では、国内外の地域を対象に各地域と連携しながら平成12年度より5年計画で「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を実施している。その一環として、平成15年度は日本語教育支援のための基礎研究として、韓国での日本語教育の学習環境と学習手段に関する実態把握のための調査を行った。

本報告書は、その中の「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究：韓国アンケート調査」の集計結果について、その概略をまとめたものである。本集計結果については、現在本調査に併せて実施したインタビュー調査結果との関係等、様々な観点からの分析を進めている。その詳細な分析結果については「報告書：分析編」として、現在同時並行で調査を実施している他地域（タイ（バンコック）、オーストラリア（ヴィクトリア州・ニューサウスウェールズ州）、台湾、マレーシア）との比較を含め、改めて報告する予定である。

本報告書は、5章から構成されている。第1章で韓国アンケート調査の概要、第2章で機関調査票（アンケート協力機関における学習者数等の基礎的情報）の集計結果、第3章で学習者の集計結果、第4章で教師の集計結果、第5章で今後の「報告書：分析編」に向けた課題としてまとめを行った。なお、本報告書の中心である集計結果の概略について簡単に把握できるよう、第2・3・4章の最初の部分には要約を載せてある。本報告書の作成・編集には巻末に掲げた担当者のうち、主に石井恵理子（日本語教育部門第一領域長）・小河原義朗（日本語教育部門第一領域研究員）が担当した。

本調査は、巻末に掲げた協力機関や先生方の御協力なくしてはなし得なかった。ここに改めて深くお礼申し上げます。そして何より、本調査に御協力くださった現地の多くの日本語教育関係の方々に深くお礼申し上げます。

本報告書は、「集計結果報告書」として刊行するが、今後の日本語教育方策や日本語教育の内容・方法の検討に際しての一助となれば幸いである。

平成16年3月

独立行政法人国立国語研究所
日本語教育部門長 杉戸 清樹

目次

第1章 韓国アンケート調査実施概要	1
1-1. 「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」概要	1
1-2. 調査目的	2
1-3. 調査地域	2
1-4. 調査対象	3
1-5. 調査期間	3
1-6. 調査方法	3
1-7. 調査票（アンケート）	3
1-8. 調査票の配布・回収	5
1-9. 分析対象	5
第2章 集計結果：機関調査票	7
概要と要約	7
〔要約〕：2-1. 日本語教師数について	7
〔要約〕：2-2. 学習者数について	7
〔要約〕：2-3. 利用設備について	8
〔要約〕：2-4. 実施，または参加している日本語関係行事について	8
2-1. 日本語教師数について	9
2-1-1. 常勤教師数	9
2-1-2. 非常勤教師数	9
2-1-3. 常勤と非常勤の割合	9
2-2. 学習者数について	10
2-3. 利用設備について	11
2-3-1. コンピュータの利用	11
2-3-2. インターネットの利用	12
2-3-3. テレビ・ビデオ視聴	12
2-3-4. LL	13
2-3-5. OHP	13
2-3-6. テープレコーダー・CDプレーヤー	13
2-3-7. 日本語関係図書	14
2-4. 実施，または参加している日本語関係行事について	14

2-4-1. 交流会	14
2-4-2. 留学または交換留学制度	15
2-4-3. 短期語学研修制度	16
2-4-4. スピーチコンテスト	17
第3章 集計結果：学習者	18
概要と要約	18
〔要約〕：3-1. 学習者について	19
〔要約〕：3-2. 日本語を使つてのやりとりについて	19
〔要約〕：3-3. 日本語が使われているものとの接触について	20
〔要約〕：3-4. 授業時間外の教科書等の使用について	20
〔要約〕：3-5. 利用経験のある機会や場所について	21
〔要約〕：3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて	21
〔要約〕：3-7. 今後の充実を希望するものについて	21
3-1. 学習者について	22
3-1-1. 性別	22
3-1-2. 年齢	22
3-1-3. 母語	23
3-1-4. 日本語学習開始時期	23
3-1-5. 日本語の学習場所	23
3-1-6. 訪日経験	24
3-1-7. 訪日目的	24
3-1-8. 日本語学習動機	24
3-1-9. 日本語力（(1)「読むこと」(2)「書くこと」(3)「聞くこと」(4)「話すこと」）	25
3-2. 日本語を使つてのやりとりについて	28
3-2-1. 日本語を使つてのやりとりの有無	28
3-2-2. やりとりの相手とその方法	29
3-2-3. 最もよくやりとりをする相手	30
3-2-4. やりとりをする相手の国籍	31
3-2-5. やりとりをする相手の性別	31
3-2-6. やりとりを始めた頃の日本語力	31
3-2-7. やりとりをする頻度	32
3-2-8. やりとりをする手段	32
3-2-9. やりとりをするときの日本語の割合	33
3-2-10. やりとりの内容	33

3-2-11. 日本語でやりとりをする理由	33
3-2-12. 授業以外で日本語を使わない理由	34
3-3. 日本語が使われているものとの接触について	35
3-3-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無	35
3-3-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無	35
3-3-3. 見聞きするもの	36
3-3-4. 最もよく見聞きするもの	37
3-3-5. 見聞きする頻度	37
3-3-6. 見聞きするものの所有者	38
3-3-7. 見聞きするものの内容	38
3-3-8. 見聞きする理由	39
3-3-9. 授業以外で日本語のものを見聞きしない理由	40
3-4. 授業時間外の教科書等の使用について	41
3-4-1. 使用の有無	41
3-4-2. 授業時間外の利用方法	41
3-4-3. 授業時間外に教科書などを利用しない理由	42
3-5. 利用経験のある機会や場所について	42
3-5-1. 利用経験の有無	43
3-5-2. 利用経験のある機会や場所	43
3-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無	45
3-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所	46
3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて	47
3-6-1. 日本語学習のために現在使っている学習参考書・問題集	47
3-7. 今後の充実を希望するものについて	48
3-7-1. 今後の充実を希望する学習参考書・問題集	49
3-7-2. 今後の充実を希望する辞書	49
第4章 集計結果：教師	50
概要と要約	50
[要約]：4-1. 教師について	50
[要約]：4-2. 授業について	51
[要約]：4-3. 日本語を使ってのやりとりについて (以下, 韓国人教師対象)	53
[要約]：4-4. 日本語が使われているものとの接触について	54
[要約]：4-5. 利用経験のある機会や場所について	54
4-1. 教師について	56

4-1-1. 性別	56
4-1-2. 年齢	56
4-1-3. 母語	57
4-1-4. 日本語学習歴	57
4-1-5. 訪日経験	57
4-1-6. 訪日目的	58
4-1-7. 日本語教育経験	58
4-1-8. 日本語以外の教育経験の有無	59
4-1-9. 日本語力 ((1)「読むこと」(2)「書くこと」(3)「聞くこと」(4)「話すこと」)	59
4-1-10. 日本語教育を始めた理由	61
4-1-11. 日本語教育に関する学会等への参加について	62
4-1-12. 日本語教育に関する研修の経験について	62
4-1-13. 日本語教育に関する研修を受けた回数	63
4-2. 授業について	64
4-2-1. 授業で使うもの	64
4-2-2. 生教材について	65
4-2-3. 生教材を使う理由	67
4-2-4. 自作教材について	68
4-2-5. 授業での使用機材について	69
4-2-6. 授業での日本語の使用	71
4-2-7. 授業準備に利用するもの	73
4-2-8. 日本語教師としての能力に対する意識	75
4-2-9. 日本語教師の資質・能力向上のためにするもの	75
4-2-10. コンピュータの利用方法	76
4-2-11. 日本語教育へのコンピュータ利用の必要性	78
4-2-12. 日本語教師の資質・能力向上のために充実を希望するもの	78
4-2-12-1. 充実を希望するもの：文法解説書	80
4-2-12-2. 充実を希望するもの：辞書	81
4-2-12-3. 充実を希望するもの：漢字字典	81
4-2-12-4. 充実を希望するもの：教師用指導参考書	82
4-2-12-5. 充実を希望するもの：コンピュータソフト	82
4-2-12-6. 充実を希望するもの：Web 日本語学習プログラム	83
4-3. 日本語を使つてのやりとりについて (以下、韓国人教師対象)	84
4-3-1. 日本語を使つてのやりとりの有無	84
4-3-2. やりとりの相手とその方法	85
4-3-3. 最もよくやりとりをする相手	86

4-3-4. やりとりをする相手の国籍	87
4-3-5. やりとりをする相手の性別	87
4-3-6. やりとりを始めた頃の日本語力	88
4-3-7. やりとりをする頻度	88
4-3-8. やりとりをする手段	88
4-3-9. やりとりをするときの日本語の割合	89
4-3-10. やりとりの内容	89
4-3-11. 日本語でやりとりをする理由	90
4-3-12. 授業以外で日本語を使わない理由	90
4-4. 日本語が使われているものとの接触について	91
4-4-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無	91
4-4-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無	91
4-4-3. 見聞きするもの	92
4-4-4. 最もよく見聞きするもの	92
4-4-5. 見聞きする頻度	93
4-4-6. 見聞きするものの所有者	94
4-4-7. 見聞きするものの内容	94
4-4-8. 見聞きする理由	95
4-5. 利用経験のある機会や場所について	95
4-5-1. 利用経験の有無	96
4-5-2. 利用経験のある機会や場所	96
4-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無	98
4-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所	98
第5章 課題	100

資料

「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 —韓国アンケート調査—」調査票	
・機関調査票〈中等・高等教育機関用〉(日本語版・韓国語版)	5
・機関調査票〈学校教育以外機関用〉(日本語版・韓国語版)	7
・学習者用調査票(日本語版・韓国語版)	11
・教師用調査票(日本語版・韓国語版)	23

第1章 韓国アンケート調査実施概要

1-1. 「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」概要

学習目的、分野、母語等、学習者の特性や、各国・地域における日本語の社会的位置づけ、日本語教育機関の設備・環境、教師の教育観や日本語能力等、日本語教育の多様性についての認識は定着しつつあり、それぞれの教育現場において独自の対応がなされてきている。一方、学習者及び教師の地球規模での移動・交流はますます加速しており、日本語教育の各領域全体の様相を捉え、連携体制を整え、必要な支援を行うことが日本語教育推進のために求められている。

そこで、本調査研究では日本語教育の振興を図るための適切な支援、連携体制整備を進めるため、国内及び海外の各地域における多様化した日本語教育の実態を学習環境と学習手段の両側面から明らかにすることを目的とする。

本調査研究の特色は以下の3点である。

(1) 国内と海外の両方を視野においた調査研究である。

国内外の社会状況や教育制度、学習環境等の異なる地域を比較することで世界の日本語教育の状況全体を把握することができる。

具体的には、国外では学習者数・学習環境面での多様性や調査協力体制等の観点から、タイ（バンコック）、オーストラリア（ヴィクトリア州・ニューサウスウェールズ州）、韓国、マレーシア、台湾の5地域において、実施または実施中である。タイ（バンコック）調査に関しては、『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ（バンコック）アンケート調査集計結果報告書』を平成15年3月に刊行し、他地域についても順次刊行予定である。

国内では、山梨県全域を始め、全国調査についても着手している。

(2) 微視的・巨視的視野の両面からの研究である。

各国・地域の一般的な教育観、言語教育政策、日本との経済・文化等の交流関係等、それぞれの社会環境の中で日本語教育がどのような位置づけにあるかというマクロな視野を持ちつつ、同時に学習者・教師の具体的な行動や意識、教材等、個々の日本語学習／教育の実態というマイクロレベルでの調査を行う。

(3) 学習者と教師の両面からアプローチする研究である。

各国・地域における初・中・高等教育機関、民間日本語教育機関、ボランティア教室（国内）などにおける学習者及び教師を対象に、アンケートとインタビューの手法を用いて行う。

1-2. 調査目的

1-1で示した「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」の一環として、韓国での日本語教育の学習環境と学習手段に関する実態について、全体的な傾向を把握し、新たな観点から日本語教育の改善・支援のための基礎資料を作成する。あわせて、今後の学習環境と学習手段に関する調査研究における調査方法のあり方、アンケートやインタビュー調査の内容・技術に関する検討のための基礎資料とする。

1-3. 調査地域

タイ（バンコック）に続く国外第二調査地域として、学習者数が国外最大であり（国際交流基金日本語国際センター（2000）『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・1998年—』より）、日本語教育が非常に盛んである韓国、特に学習環境が一国の中でも地域によってかなり多様であることから、韓国全体を視野に入れ、ソウル、釜山、光州の3地域を核として調査を行った。調査地域ごとにアンケートの回答を得た学習者と教師の所属内訳数は以下の表1-1、1-2のとおりである。なお、中学校教師に対してはアンケートを行っていない。

〈表 1-1：地域別学習者数〉（ ）内は%

地 域	合 計	中 学 校	高 校	大学・大学院	学校教育以外
ソウル特別市	1,881 (26.7)	0 (0.0)	940 (30.0)	611 (25.3)	330 (30.3)
釜山広域市	773 (11.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	482 (20.0)	290 (26.6)
蔚山広域市	30 (0.4)	0 (0.0)	1 (0.0)	29 (1.2)	0 (0.0)
大邱広域市	679 (9.6)	0 (0.0)	544 (17.4)	134 (5.5)	1 (0.1)
光州広域市	246 (3.5)	1 (0.2)	35 (1.1)	210 (8.7)	0 (0.0)
大田広域市	226 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (0.2)	220 (20.2)
仁川広域市	187 (2.7)	0 (0.0)	9 (0.3)	167 (6.9)	11 (1.0)
江 原 道	41 (0.6)	0 (0.0)	1 (0.0)	40 (1.7)	0 (0.0)
京 畿 道	1,576 (22.3)	243 (58.0)	918 (29.3)	355 (14.7)	60 (5.5)
忠 清 北 道	36 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.0)	34 (1.4)	1 (0.1)
忠 清 南 道	33 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.0)	27 (1.1)	5 (0.5)
慶 尚 北 道	32 (0.5)	0 (0.0)	15 (0.5)	16 (0.7)	1 (0.1)
慶 尚 南 道	68 (1.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	46 (1.9)	21 (1.9)
全 羅 北 道	177 (2.5)	0 (0.0)	5 (0.2)	172 (7.1)	0 (0.0)
全 羅 南 道	919 (13.0)	175 (41.8)	658 (21.0)	86 (3.6)	0 (0.0)
済 州 道	149 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	149 (13.7)
無回答	109	4	47	41	17
合 計	7,162 (100.0)	423 (100.0)	3,177 (100.0)	2,456 (100.0)	1,106 (100.0)

〈表 1-2：地域別教師数〉（ ）内は%

地 域	合 計	高 校	大学・大学院	学校教育以外
ソウル特別市	172 (28.1)	61 (26.1)	81 (29.2)	30 (29.4)
釜山広域市	112 (18.3)	0 (0.0)	70 (25.3)	42 (41.2)
蔚山広域市	3 (0.5)	0 (0.0)	3 (1.1)	0 (0.0)
大邱広域市	58 (9.5)	43 (18.4)	15 (5.4)	0 (0.0)
光州広域市	35 (5.7)	11 (4.7)	24 (8.7)	0 (0.0)
大田広域市	16 (2.6)	0 (0.0)	2 (0.7)	14 (13.7)
仁川広域市	9 (1.5)	0 (0.0)	9 (3.2)	0 (0.0)
江 原 道	9 (1.5)	0 (0.0)	5 (1.8)	4 (3.9)
京 畿 道	113 (18.4)	77 (32.9)	33 (11.9)	3 (2.9)
忠 清 北 道	3 (0.5)	0 (0.0)	3 (1.1)	0 (0.0)
忠 清 南 道	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)
慶 尚 北 道	2 (0.3)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)
慶 尚 南 道	7 (1.1)	0 (0.0)	6 (2.2)	1 (1.0)
全 羅 北 道	22 (3.6)	0 (0.0)	22 (7.9)	0 (0.0)
全 羅 南 道	44 (7.2)	42 (17.9)	2 (0.7)	0 (0.0)
济 州 道	7 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (6.9)
無回答	18	2	5	11
合 計	631 (100.0)	236 (100.0)	282 (100.0)	113 (100.0)

なお、韓国国内における地域間の比較については本調査結果をもとに今後の課題とする。

1-4. 調査対象

韓国国内で日本語教育を実施している機関における日本語学習者と日本語教師を対象とした。

1-5. 調査期間

平成 15 年 3 月～9 月

1-6. 調査方法

アンケート調査票を用い、中等教育機関、高等教育機関、学校教育以外の機関に属する調査対象者に対しアンケート調査を行った。それと並行して同様の対象者に対するインタビュー調査も実施した。インタビュー結果については「報告書：分析編」にて報告する予定である。

1-7. 調査票（アンケート）

調査票（アンケート）は、学習者用と教師用があり、それぞれ韓国語版と日本語版のものを用意した。

学習者用では、学習者が日本語を学習する際には何らかの物、人、情報といった対象に接触すると考えられることから、学習者がどのような対象にどのように接触しているのかについて質問する項目が中心に

なっている。なお、これらの質問項目は比較のため、韓国人教師にも一部同様に尋ねている。教師用では、日本語の授業及び授業準備の際にどのような物、人、情報といった対象にどのように接触しているのかについて質問する項目が中心になっている。

また、それらの接触の対象や方法等に影響すると考えられる項目として、学習者については日本語学習歴、学習動機等、教師については日本語教育歴、日本語教育を始めた理由等の属性についてもあわせて尋ねている。

主な調査項目は以下のとおりである。詳細については、巻末資料の「学習者用調査票」「教師用調査票」を御覧いただきたい。

〔学習者用〕

属性

- ・ 性別、居住地域、年齢、母語、身分、日本語学習の開始学年、日本語学習の場所、訪日経験、日本語学習動機、4技能別日本語力自己評価等

質問項目

- ・ 日本語使用状況（相手、頻度、手段、内容、理由等）
- ・ 日本語接触状況（物、頻度、内容、理由等）
- ・ 授業で使用する日本語教材の授業外使用状況
- ・ 日本語接触状況（機会）
- ・ 日本語学習のためのリソース（物）
- ・ 日本語学習のために充実を希望するもの

〔教師用〕

属性

- ・ 性別、居住地域、年齢、母語、日本語学習歴、その他の外国語学習歴、訪日経験、日本語教育経験、日本語以外の教育経験、4技能別日本語力自己評価、日本語教育を始めた理由、学会・研究会への参加、日本語教育に関する研修等

質問項目

I：授業及び授業準備に関する質問（韓国人教師及び日本人教師対象）

- ・ 授業での使用教材、使用生教材の種類、使用自作教材の種類
- ・ 授業での使用機材
- ・ 授業での日本語使用状況
- ・ 授業準備のためのリソース（物、人）
- ・ 日本語教師に必要な能力に関する意識
- ・ 資質・能力向上のためにしていること、役に立つと思うこと
- ・ コンピュータ使用状況

- ・ コンピュータ使用に関する意識
 - ・ 資質・能力向上のために充実を希望するもの
- II：日本語力向上のための環境に関する質問（韓国人教師対象）
- ・ 日本語使用状況（相手，頻度，手段，内容，理由等）
 - ・ 日本語接触状況（物，頻度，内容，理由等）
 - ・ 日本語接触状況（機会）

1-8. 調査票の配布・回収

高等教育機関については日本語・日本語教育関連学会を通じて、中等教育については各地域の日本語教育研究会を通じて、調査協力校の選定、調査票の配布及び回収を行った。

学校教育以外の機関については調査協力機関を経て、教師及び学習者に調査票の配布、及び回収を行った。

回収結果は以下の表 1-3 のとおりである。なお、表 1-3 中、「フェイス数」とは「機関調査票」の回収部数を示す。「機関調査」は機関名、住所、日本語教師数、学習者数、使用設備等を把握するために各機関を対象に行った。調査票サンプルを巻末資料に示した。なお、以下の集計に際しては固有名詞や機関を特定する記述についてはすべて省略する。

〈表 1-3：回収結果〉

	合計	中学校	高校	大学・大学院	学校教育以外
機関数	97	3	45	38	11
学習者数	7,331	424	3,243	2,533	1,131
教師数	633	0	237	283	113
フェイス数	94	3	44	38	9

1-9. 分析対象

表 1-3 の回収結果から、調査票の一部が欠落している等、回答が明らかに不完全なものを除いた有効回答数は学習者 7,162 名、教師 631 名である。

本調査研究では、当該地域だけではなく、諸外国における学習手段・環境の比較検討までを視野に入れている。しかし、各国の教育制度・学校体系は国によって異なるため、第 2 章からの集計・分析には国際交流基金日本語国際センター（2000）『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・1998 年—』を参考に、調査対象機関を以下の 3 つに分類して、比較・集計を進める。

- ①「中等教育機関」：日本の高等学校にあたる学校教育機関
- ②「高等教育機関」：日本の大学院・大学・短期大学にあたる学校教育機関
- ③「学校教育以外の機関」：上記①②に含まれない機関

表 1-3 の「中学校」については、機関数が 3 校と少ないため、分析対象からは除外する。しかし、今後「中学校」においても日本語教育が盛んになることが予想されることから、第 3 章以降の集計結果本文の中に「参考」として大まかな傾向を一部載せた。

その結果、分析対象は、表 1-4 のとおりである。なお、調査項目によって、設問の意図を理解していないと思われる回答箇所は、集計上は無回答とした。そのため、第 2 章以降の集計結果では、調査項目によって回答者数に違いがある。

〈表 1-4：分析対象〉（ ）内は%

	合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
教 師 数	631 (100.0)	236 (37.4)	282 (44.7)	113 (17.9)
学 習 者 数	6,739 (100.0)	3,177 (47.1)	2,456 (36.4)	1,106 (16.4)

比較のために、前掲の国際交流基金日本語国際センター（2000）によれば、1998 年で韓国全体における学習者数、教師数は表 1-5 のようになっている。

〈表 1-5：韓国全体における教師数・学習者数〉（ ）内は%

	合 計	初等・中等教育	高等教育	学校教育以外
教 師 数	5,604 (100.0)	1,613 (28.8)	1,655 (29.5)	2,336 (41.7)
学 習 者 数	948,104 (100.0)	731,416 (77.1)	148,444 (15.7)	68,244 (7.2)

第2章 集計結果：機関調査票

概要と要約

本章では、「機関調査票」の集計結果について報告する。「機関調査」とは、前述のとおり、機関名、住所、日本語教師数、学習者数、使用設備等の情報を把握するために、アンケート調査協力機関を対象に行ったものである。本章の構成は4節からなるが、具体的な結果を報告する前に、ここでまず各節で取り上げる調査内容とその結果を要約してまとめ、本章全体の概要がわかるように示してある。各節の詳細については、2-1以降の各節を参照されたい。なお、各節の集計結果が、実際に使用した調査票（巻末資料）の中のどの項目に対応するかがわかるように、各節の最後に項目番号を入れた。例えば、「〈機関Q1〉」は「機関調査票の項目番号Q1」を示す。

本調査における機関調査票の所属別有効回答数とその内訳は表2-1のとおりである。上記のとおり、本調査対象機関は本アンケート調査協力機関のみであり、全数調査ではない。よって、以下のデータは本調査対象機関の範囲内に限定されるものであり、特に、学校教育以外の機関は7機関と少ないことから、以下のデータの解釈には注意を要する。

〈表2-1：回答数・内訳〉（ ）内は%

	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答数	89 (100.0)	44 (49.4)	38 (42.7)	7 (7.9)

〔要約〕：2-1. 日本語教師数について

- ・常勤教師数：中等教育では5人以下が97.7%、高等教育では10人以下が89.5%となっている。学校教育以外では6～10人が57.1%で最も多いが、11人以上も42.9%となっている。
- ・非常勤教師数：中等教育では「なし」が79.5%、高等教育では11人以上が50.0%、学校教育以外では6～10人が57.1%で最も多い。
- ・常勤と非常勤の割合：中等教育では、常勤は韓国人教師が95.2%と多く、高等教育・学校教育以外に比べると日本人教師は非常勤が33.3%と多い。逆に高等教育では、日本人の常勤も23.7%で、日本人の非常勤が6.7%と少ない。学校教育以外では日本人の常勤も非常勤も約30%いる。

〔要約〕：2-2. 学習者数について

- ・学習者数：
中等教育では、「500人以下」～「2,000人以下」までの間に分散している。高等教育では、「500人以下」が52.9%、「2,001人以上」が38.2%と多く、その中間が少ない。学校教育以外では、「500人以下」が57.1%と最も多く、全体でも「1,000人以下」が多い。

(要約)：2-3. 利用設備について

- ・コンピュータの利用：どの機関でもほぼ利用可能。
- ・コンピュータの利用台数：
教師用は「1～10台」が共通して多いが、中等教育では「すべて教師用」が30.2%で最も多い。学習者用は中等教育では「1～10台」が25.6%、高等教育では「51台以上」が32.4%、学校教育以外では「1～10台」が85.7%で最も多い。
- ・インターネットの利用：どの機関でもほぼ利用可能。利用者は、中等教育では「主に教師」が41.9%、高等教育・学校教育以外では教師と学習者の「両方が利用」が圧倒的に多い。
- ・テレビ・ビデオ視聴：どの機関でもほぼ利用可能。利用者は全体的に教師と学習者の「両方が利用」。
- ・LLの利用：全体的に利用できない機関が多いが、高等教育では利用可能が44.7%と比較的多い。
- ・OHPの利用：中等教育では50%、高等教育では利用可能が68.4%で多く、学校教育以外では14.3%と逆に利用できない機関が多い。
- ・テープレコーダー・CDプレーヤー：全体的にどの機関でもほぼ利用可能。
- ・日本語関係図書：中等教育では50%、高等教育・学校教育以外ではほとんど利用可能。

(要約)：2-4. 実施、または参加している日本語関係行事について

- ・日本人との交流会：
中等教育では「なし」が72.7%、高等教育・学校教育以外では「あり」が68.4%・57.1%。「あり」の場合、中等教育では「他機関が主催」が41.7%、学校教育以外では75.0%、高等教育では「自らの機関で主催」と「他機関が主催」の「両方」が42.3%で最も多い。
- ・留学または交換留学制度：
中等教育では「なし」が86.4%、高等教育・学校教育以外では「あり」が86.8%・85.7%。「あり」の場合、中等教育では「他機関が主催」と「両方」が50%、高等教育・学校教育以外では「自らの機関で主催」が48.5%・66.7%。
- ・短期語学研修制度：
中等教育・学校教育以外では「なし」が81.8%・71.4%、高等教育では「あり」が76.3%。「あり」の場合、中等教育では「他機関が主催」が87.5%、高等教育では「自らの機関で主催」と「他機関が主催」の「両方」が41.4%、学校教育以外では自らの機関で「主催」と「他機関が主催」が50%。
- ・スピーチコンテスト：
中等教育では「なし」が72.7%、高等教育では「あり」が63.2%、学校教育以外では「なし」が57.1%。「あり」の場合、中等教育では「他機関が主催」が75.0%、高等教育・学校教育以外では自らの機関で「主催」が58.3%・66.7%。

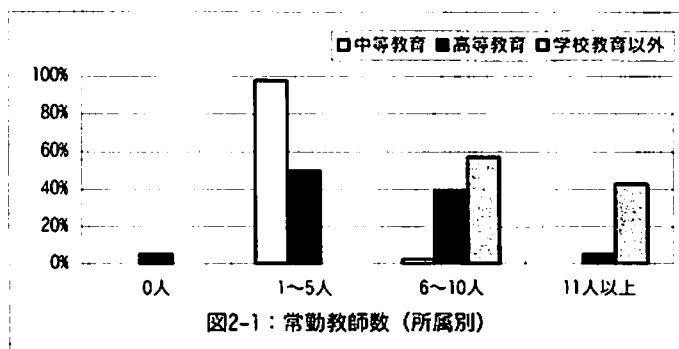
2-1. 日本語教師数について

ここでは、本調査に回答した機関の日本語教師数について尋ねた結果を報告する。

2-1-1. 常勤教師数

常勤教師数は、中等教育では「1~5人」が97.7%、高等教育では10人以下が89.5%となっている。学校教育以外では「6~10人」が57.1%で最も多いが、「11人以上」も42.9%となっている(図2-1)。

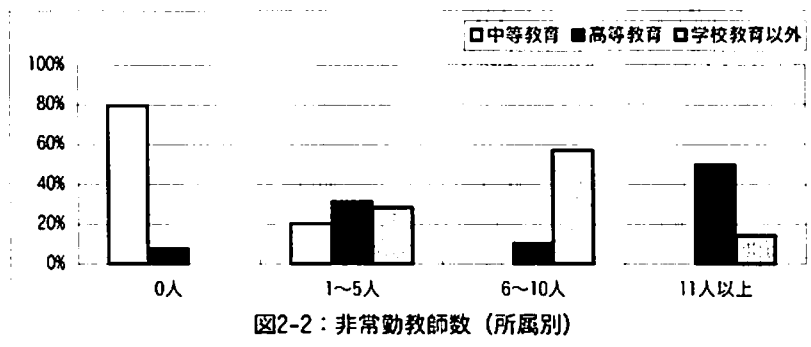
(機関 Q1)



2-1-2. 非常勤教師数

非常勤教師数は、中等教育では「0人」が79.5%、高等教育では「11人以上」が50.0%、学校教育以外では「6~10人」が57.1%で最も多い(図2-2)。

(機関 Q1)



2-1-3. 常勤と非常勤の割合

中等教育では、常勤は韓国人教師が95.2%と多く、高等教育・学校教育以外に比べると日本人教師は非常勤が33.3%と多い。逆に高等教育では、日本人の常勤も23.7%で、日本人の非常勤が6.7%と少ない。学校教育以外では日本人の常勤も非常勤も約30%いる(図2-3・2-4)。

(機関 Q1)

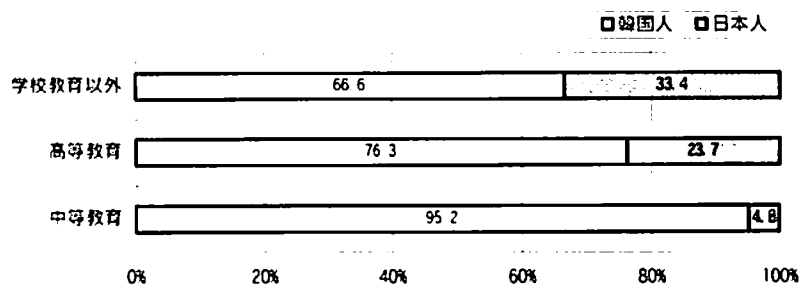


図2-3：韓国人と日本人の割合の平均値（常勤教師）

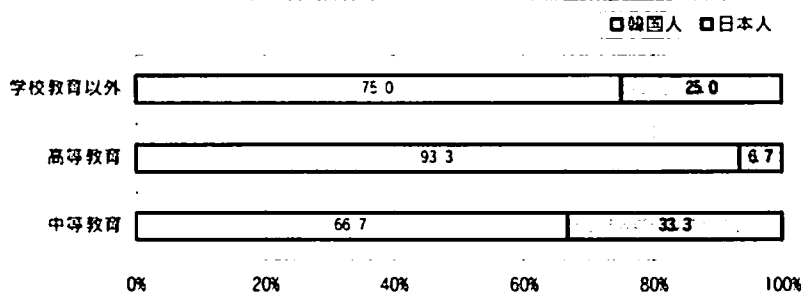


図2-4：韓国人と日本人の割合の平均値（非常勤教師）

2-2. 学習者数について

ここでは、学習者数について尋ねた結果を報告する。

中等教育では、「500人以下」が27.5%、「501～1,000人」が17.5%、「1,001～1,500人」が32.5%、「1,501～2,000人」が22.5%と分散している。高等教育では、「500人以下」が52.9%、「2,001人以上」が38.2%と多く、その中間が少ない。学校教育以外では、「500人以下」が57.1%と最も多く、全体的に「1,000人以下」の学習者数となっている（図2-5）。

（機関Q2）

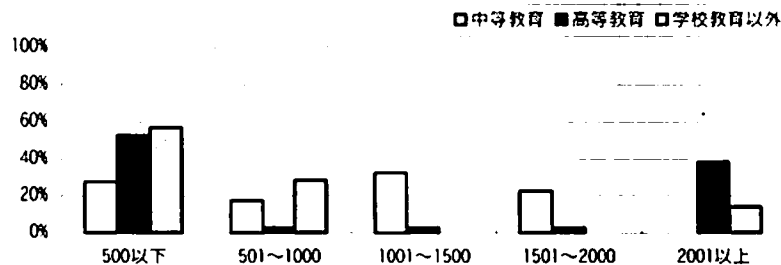


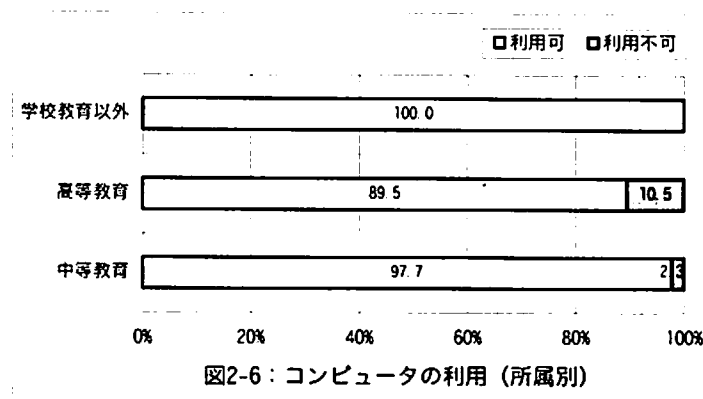
図2-5：学習者数（所属別）

なお、学習者の所属・学年等、詳しい内訳については、第3章表3-1（p.18）にまとめた。

2-3. 利用設備について

ここでは、コンピュータ等の利用設備について尋ねた結果を報告する。

2-3-1. コンピュータの利用

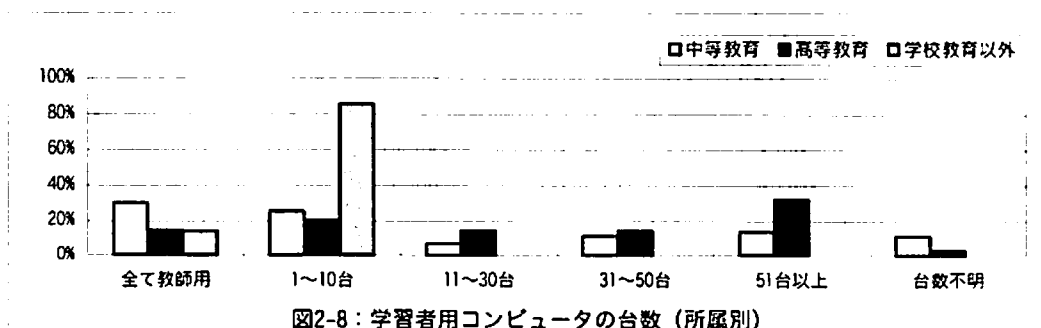
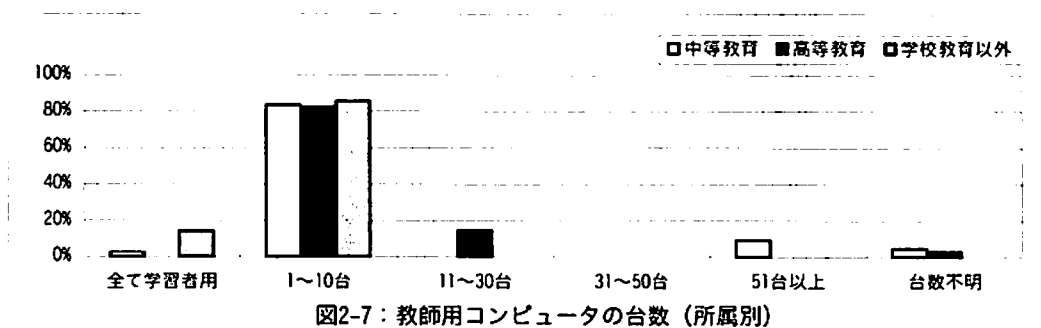


日本語教育のコースで日本語関係の教師や学習者がコンピュータを利用できるかどうかについて尋ねたところ、所属に関係なくどの機関でもほぼ利用可能となっている（図2-6）。

〈機関 Q3-1〉

利用台数について尋ねたところ、まず教師用としては「1～10台」が所属に共通して多い。学習者用としては、中等教育ではすべて教師用が30.2%で最も多く、学習者用は「1～10台」が25.6%で次に多い。高等教育では、「51台以上」が32.4%で最も多い。学校教育以外では「1～10台」が85.7%と圧倒的に多い（図2-7、2-8）。

〈機関 Q3-1〉



2-3-2. インターネットの利用

同様にインターネットを利用できるかどうかについて尋ねたところ、所属に関係なくどの機関でもほぼ利用可能となっている。

さらに、主な利用者について尋ねたところ、所属に共通して教師と学習者の「両方が利用」が多いが、中等教育では「主に教師が利用」が41.9%と比較的多くなっている。(図2-9)。 (機関 Q3-2)

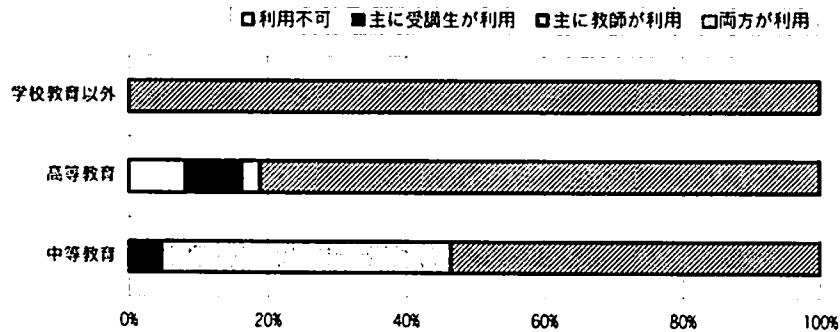


図2-9：インターネットの利用（所属別）

2-3-3. テレビ・ビデオ視聴

テレビ・ビデオ視聴について尋ねたところ、これも所属に関係なくどの機関でもほぼ利用可能となっている。

主な利用者について尋ねたところ、全体的に教師と学習者の「両方が利用」が多いが、中等教育では「主に教師が利用」が31.0%、高等教育では「主に学習者が利用」が26.3%と比較的多い(図2-10)。

(機関 Q3-3)

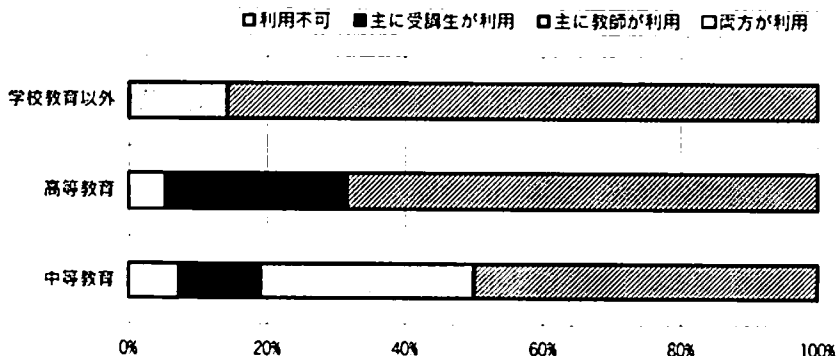


図2-10：テレビ・ビデオ視聴（所属別）

2-3-4. LL

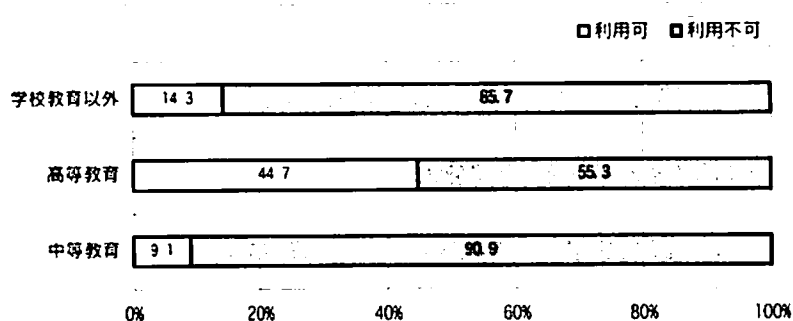


図2-11：LLの利用（所属別）

LLを利用できるかどうかについて尋ねたところ、全体的に利用できない機関が多いが、高等教育では利用可能が44.7%と比較的多い（図2-11）。

〈機関 Q3-4〉

2-3-5. OHP

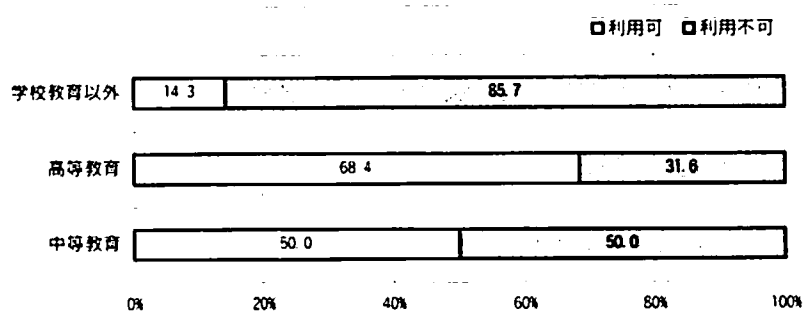


図2-12：OHPの利用（所属別）

OHPを利用できるかどうかについて尋ねたところ、中等教育では50%、高等教育では利用可能が68.4%で多く、学校教育以外では14.3%と逆に利用できない機関が多い（図2-12）。

〈機関 Q3-5〉

2-3-6. テープレコーダー・CDプレーヤー

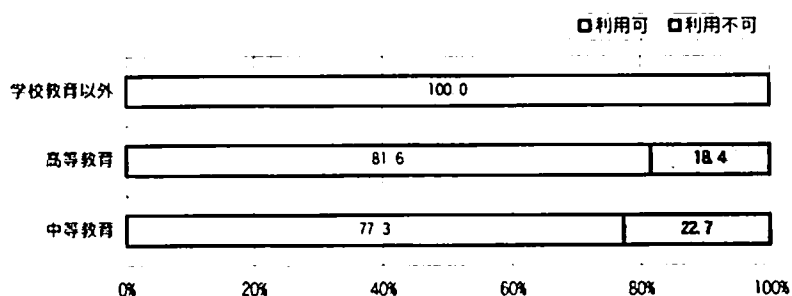


図2-13：テープレコーダー・CDプレーヤーの利用（所属別）

テープレコーダー・CDプレーヤーを利用できるかどうかについて尋ねたところ、所属に関係なく全体的にどの機関でもほぼ利用可能となっている（図2-13）。

〈機関 Q3-6〉

2-3-7. 日本語関係図書

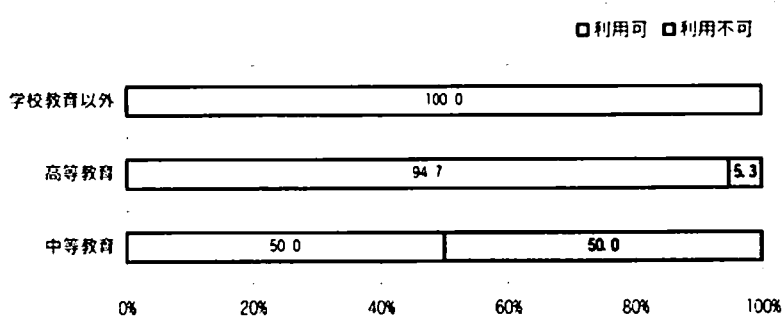


図2-14：日本語関係の蔵書（所属別）

日本語関係図書を利用できるかどうかについて尋ねたところ、中等教育では50%で、高等教育・学校教育以外ではほとんど利用可能となっている（図2-14）。

（機関 Q3-7）

2-4. 実施、または参加している日本語関係行事について

ここでは、留学制度等の実施、または参加している日本語関係行事について尋ねた結果を報告する。

2-4-1. 交流会

まず、日本人との交流会を機関で実施している、または参加しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「なし」が72.7%となっているのに対して、高等教育・学校教育以外では68.4%・57.1%と逆に「あり」が多くなっている（図2-15）。

（機関 Q4-1）

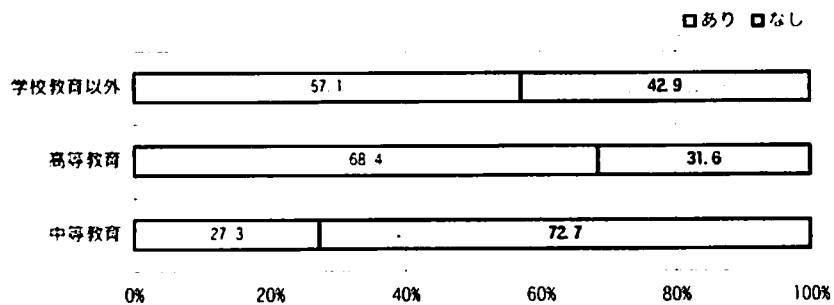


図2-15：「交流会」（所属別）

続いて、日本人との交流会を自ら主催しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「他機関が主催」が41.7%、学校教育以外では75.0%と多い。高等教育では、「両方」が42.3%と最も多い(図2-16)。

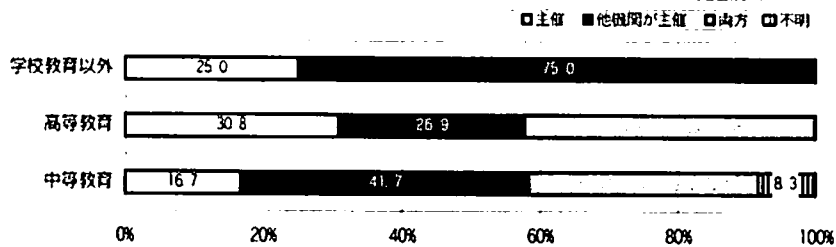


図2-16：主催者「交流会」(所屬別)

2-4-2. 留学または交換留学制度

日本への留学または交換留学制度を機関で実施している、または参加しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「なし」が86.4%となっているのに対して、逆に高等教育・学校教育以外では86.8%・85.7%と「あり」が多くなっている(図2-17)。 (機関 Q4-2)

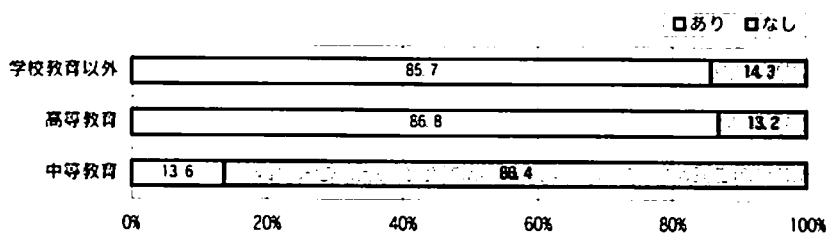


図2-17：「留学・交換留学制度」(所屬別)

留学または交換留学制度を自ら主催しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「他機関が主催」と「両方」が50%となっている。高等教育・学校教育以外では自らの機関で「主催」が48.5%・66.7%と比較的多くなっている(図2-18)。 (機関 Q4-2)

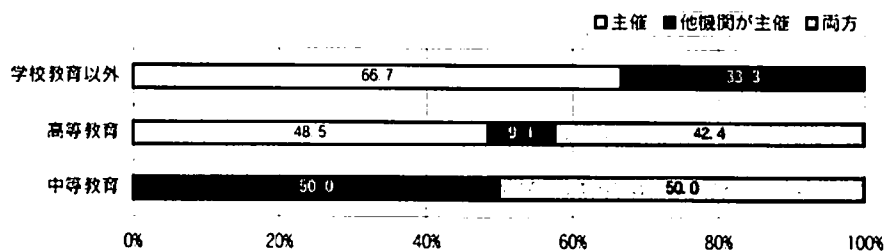


図2-18：主催者「留学・交換留学制度」(所屬別)

2-4-3. 短期語学研修制度

日本でのホームステイなど、短期語学研修制度を機関で実施している、または参加しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育・学校教育以外では「なし」が81.8%・71.4%となっているのに対して、高等教育では逆に「あり」が76.3%と多くなっている(図2-19)。 (機関 Q4-3)

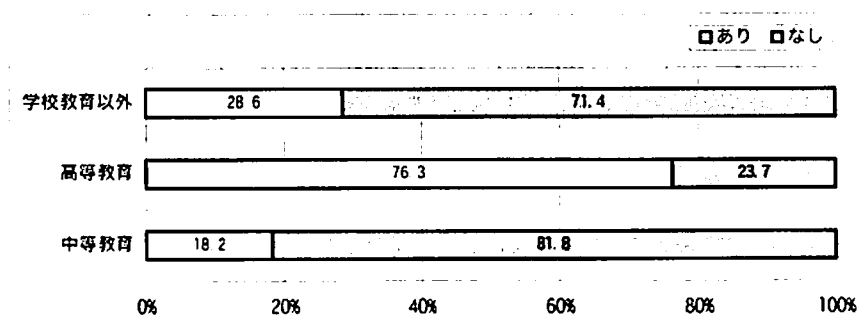


図2-19: 「短期語学研修制度」(所屬別)

短期語学研修制度を自ら主催しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「他機関が主催」が87.5%と多く、高等教育では「両方」が41.4%と最も多い。学校教育以外では自らの機関で「主催」と「他機関が主催」が50%となっている(図2-20)。 (機関 Q4-3)

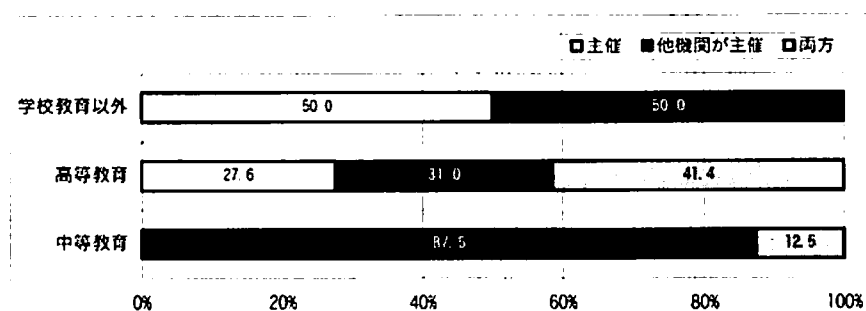


図2-20: 主催者「短期語学研修制度」(所屬別)

2-4-4. スピーチコンテスト

スピーチコンテストを機関で実施している、または参加しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育・学校教育以外では「なし」が72.7%・57.1%となっているのに対して、高等教育では逆に「あり」が63.2%と多くなっている（図2-21）。〈機関 Q4-4〉

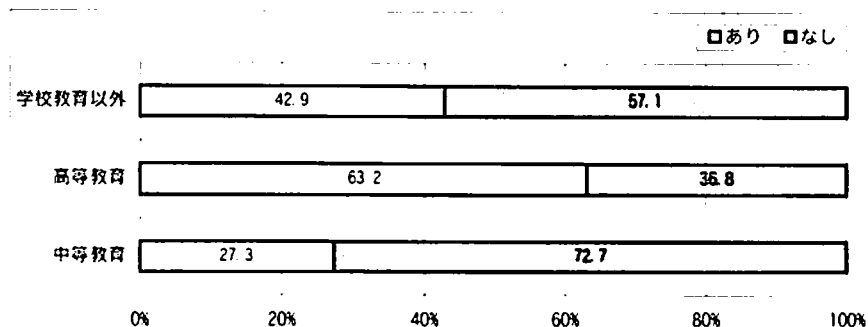


図2-21：「スピーチコンテスト」（所属別）

スピーチコンテストを自ら主催しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「他機関が主催」が75.0%であるのに対して、高等教育・学校教育以外では自らの機関で「主催」が58.3%・66.7%と多くなっている（図2-22）。〈機関 Q4-4〉

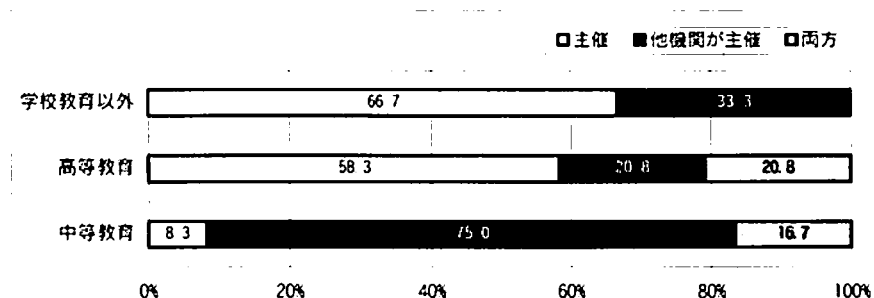


図2-22：主催者「スピーチコンテスト」（所属別）

第3章 集計結果：学習者

概要と要約

本章では、「学習者」の集計結果について報告する。本章の構成は7節からなるが、具体的な結果を報告する前に、ここでまず各節で取り上げる調査内容とその結果を要約してまとめ、本章全体の概要がわかるように示してある。各節の詳細については、3-1以降の各節を参照されたい。なお、各節の集計結果が、実際に使用した調査票（巻末資料）の中のどの項目に対応するかがわかるように、各節の最後に項目番号を入れた。例えば、「(学F1)」は「学習者用調査票の項目番号F1」を示す。

本調査における学習者の所属別有効回答数とその内訳は表 3-1 のとおりである。そのうち分析対象は1-9、表 1-4 (p.6) に示したとおりである。

〈表 3-1：回答者数・内訳〉（ ）内は%

	合 計	中学校	高 校	大学・大学院	学校教育以外
回答者数	7,162 (100.0)	423 (5.9)	3,177 (44.4)	2,456 (34.3)	1,106 (15.4)
〈内訳〉					
中学校	449 (6.3)	421 (100.0)			28 (2.5)
1 年	147 (32.8)	146 (34.8)			1 (4.0)
2 年	129 (28.8)	118 (28.1)			11 (39.0)
3 年	172 (38.4)	156 (37.1)			16 (57.0)
無回答	1	1			0
高 校	3,253 (45.9)		3,149 (100.0)		104 (9.4)
1 年	140 (4.3)		112 (3.6)		28 (28.9)
2 年	2,229 (69.2)		2,192 (70.1)		37 (38.1)
3 年	854 (26.5)		822 (26.3)		32 (33.0)
無回答	30		23		7
専門大学	423 (6.0)			352 (14.4)	71 (6.4)
1 年	163 (38.6)			148 (42.2)	15 (21.0)
2 年	257 (60.9)			203 (57.8)	54 (76.0)
3 年	2 (0.5)			0	2 (3.0)
無回答	1			1	0
大 学	2,302 (32.5)			1,909 (78.0)	393 (35.5)
1 年	534 (23.4)			504 (26.5)	30 (8.0)
2 年	537 (23.5)			446 (23.5)	91 (24.0)
3 年	640 (28.1)			536 (28.2)	104 (27.0)
4 年	570 (25.0)			416 (21.9)	154 (41.0)
無回答	21			7	14
大学院	220 (3.1)			181 (7.4)	39 (3.5)
その他	439 (6.2)			7 (0.3)	432 (39.1)
無回答	76	2	28	7	39

(要約)：3-1. 学習者について

- ・性別：女性 62.3% > 男性 37.7%
- ・年齢：中等教育では10代 (99.7%)、高等教育・学校教育以外では20代 (90.4%・63.9%) が最も多い。
- ・学習開始時期：中等教育・高等教育では高校 (91.8%・47.7%)、学校教育以外では大学 (33.2%) が最も多い。
- ・日本語学習場所：中等教育では高校 (98.7%)、高等教育・学校教育以外では各自の所属機関 (99.3%・86.5%) が多く、複数の機関で学習している学習者は少ない。
- ・訪日経験：学習者全体の75.2%は訪日経験がない。
- ・訪日目的：①「観光」(64.3%) が圧倒的に高く、②「短期留学 (6ヶ月以上1年未満)」(10.2%)、③「家族滞在」(9.9%) と続いている。
- ・日本語学習動機：中等教育では「学校の授業にある」、高等教育・学校教育以外では「日本語に興味がある」が最も多い。
- ・日本語力
 - 読むこと：中等教育では、「ひらがなが読める」(60.9%)、高等教育・学校教育以外では「簡単な文章ならだいたい理解できる」(54.5%・53.3%) が最も多い。
 - 書くこと：中等教育では「ひらがなで知っている言葉が書ける」(54.2%)、高等教育・学校教育以外では「簡単な短い文を書くことができる」(41.3%・47.6%) が最も多い。
 - 聞くこと：中等教育では「相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる」(45.5%)、高等教育・学校教育以外では「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(36.4%・40.2%) が最も多い。
 - 話すこと：全体的に「簡単な自己紹介ができる」が最も多い。

(要約)：3-2. 日本語を使ってのやりとりについて

- ・日本語を使ってのやりとりの有無：
全体で2,451人 (36.5%) が「はい」、4,258人 (63.5%) が「いいえ」。所属別に見ると、高等教育・学校教育以外ではそれぞれ53.5%・56.1%で、やりとりをしている学習者の方が多い。
- ・やりとりの相手：①「知り合い」(1,126人)、②「日本語の教師」(1,089人)、③「学校の友人」(916人)
- ・やりとりの方法：
所属に共通して相手が「日本語の教師」「学校の友人」の場合は、直接の「会話」によるやりとりが多いが、相手が「知り合い」の場合は「電子メール」など様々な方法でのやりとりが見られる。
- ・最もよくやりとりをする相手：
中等教育では「学校の友人」(26.2%)、高等教育・学校教育以外では「知り合い」と「日本語の教師」が同程度に多い。
- ・やりとりをする相手の国籍：
中等教育では韓国人 (57.2%)、高等教育・学校教育以外では日本人 (64.5%・66.7%) が多い。
- ・やりとりをする相手の性別：全体で女性が61.3%。
- ・やりとりを始めた頃の日本語力：
中等教育では「少しできた」(61.8%)、高等教育・学校教育以外では「少しできた」(44.2%・47.2%)、
「日常会話程度できた」(47.1%・41.1%) が同程度で多い。
- ・やりとりをする頻度：所属に共通して「週に2,3回」(26.9%) が最も多い。
- ・やりとりをする手段：直接相手と「会って話す」(58.0%) が共通して多い。

・やりとりをするときの日本語の割合：

「日本語と他の言語が半々」(38.6%)が共通して多い。高等教育・学校教育以外では「全部日本語」「主に日本語」も比較的多い。

・やりとりの内容：

「生活について」(65.5%)「勉強について」(21.9%)が共通して多い。続く内容として、中等・高等教育が「日本語について」(16.2%・16.2%)、学校教育以外が「仕事について」(19.1%)。

・日本語でやりとりをする理由：

全体的に「日本語を使うのは楽しいから」「日本語の母語話者と話したいから」「日本語能力向上や維持のため」が比較的高い。

・授業以外で日本語を使わない理由：

全体的に「自分の日本語力が充分ではないから」(44.2%)、「日本語を使う相手がいないから」(33.1%)が多い。

(要約)：3-3. 日本語が使われているものとの接触について

・身の回り日本語が使われているものの有無：「はい」5,230人(80.0%)、「いいえ」1,307人(20.0%)。

・日本語の授業以外での見聞きの有無：「はい」5,122人(97.9%)、「いいえ」108人(2.1%)。

・見聞きするもの：中等教育では「マンガ」(59.4%)、高等教育・学校教育以外では「ビデオ・DVD」(55.1%・50.1%)と「テレビ番組」(54.2%・54.2%)が比較的多い。

・最もよく見聞きするもの：中等教育では①「マンガ」、②「コンピュータ」、③「ゲームソフト」、高等教育・学校教育以外は①「テレビ番組」、②「コンピュータ」、③「ビデオ・DVD」。

・見聞きする頻度：

共通して「週2,3回」か「月に2,3回」が多いが、所属別で見ると、中等教育では「月に2,3回」(29.0%)、高等教育・学校教育以外では「毎日」(24.2%・28.4%)見聞きする学習者が多い。

・見聞きするものの所有者：共通して「自分」が55.5%で最も多い。

・見聞きするものの内容：共通して「文化・芸術」(40.2%)が多い。

・見聞きする理由：

共通して「楽しいから」が多い。所属別では、高等教育・学校教育以外では「日本語に触れたいから」「日本語能力の向上や維持のため」が比較的多い。

・授業以外で日本語のものを見聞きしない理由：

「自分の日本語力が充分でないから」が38.3%で最も多い。

(要約)：3-4. 授業時間外の教科書等の使用について

・使用の有無：

「はい」3,741人(56.6%)、「いいえ」2,868人(43.4%)。所属別で見ると、中等教育では60.5%が「いいえ」、高等教育・学校教育以外は67.8%・80.5%が「はい」。

・授業時間外の使用方法：①「暗記、暗唱する」(54.1%)、②「語句の意味を調べる」(48.8%)、③「漢字にふりがなをふる」(45.5%)。

・授業時間外に教科書などを使用しない理由：

全体で①「授業以外の時間に勉強をしないから」(56.7%)が最も多く、続いて②「どうやって使ったらいいかわからないから」(17.3%)。

(要約)：3-5. 利用経験のある機会や場所について

・利用経験の有無：

「はい」2,864人(44.4%)、「いいえ」3,593人(55.6%)。所属別では、中等教育では「いいえ」(71.8%)が多く、高等教育・学校教育以外では「はい」(58.3%・59.1%)が多い。

・利用経験のある機会や場所（韓国国内）：

全体では①「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(31.3%)、②「日本人との交流会」(27.8%)、③「その他」(23.7%)の順になっている。所属別では、中等教育では「その他」(38.2%)、高等教育では「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(34.5%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト」(35.1%)が多い。

・利用経験のある機会や場所（日本国内）：

①「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(55.4%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(49.4%)、③「日本人との交流会」(42.0%)。

・再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無：「はい」87.6%、「いいえ」12.4%。

・再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所：

①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(39.0%)、②「日本人との交流会」(17.1%)、③「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(12.8%)。

(要約)：3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて

・現在使っているもの：全体的に①「学習参考書・問題集」(74.1%)が共通して最も多い。続いて、②「日本語の歌」(51.2%)、③「日本語のマンガ」(37.5%)となっている。

・現在使っている学習参考書・問題集：①「文法」・「会話」(40.4%)、③「試験対策」(33.9%)。

(要約)：3-7. 今後の充実を希望するものについて

・充実を希望するもの：①「留学の機会」(38.9%)、②「日本語の映画」(37.7%)、③「学習参考書・問題集」(37.4%)、④「日本人との交流会」(34.1%)、⑤「日本語のテレビ番組、日本人家庭への訪問・ホームステイ」(32.5%)。

・充実を希望する学習参考書・問題集：共通して「会話」(49.9%)が多い。

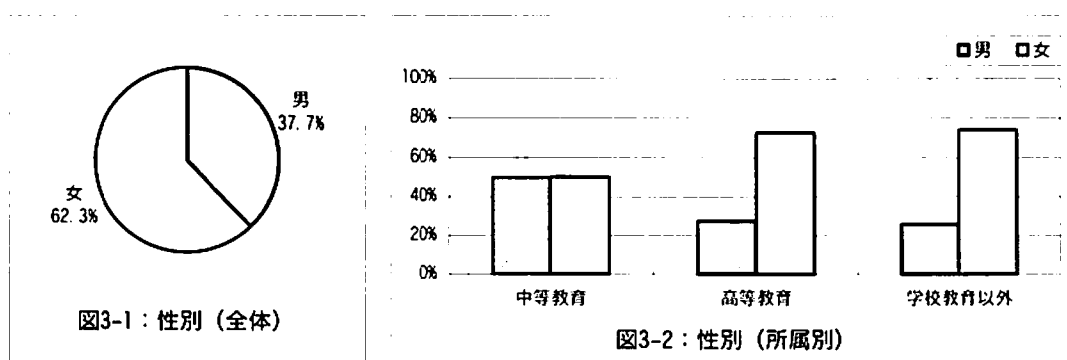
・充実を希望する辞書：中等教育では「韓日辞典」(66.7%)の方が「日韓辞典」よりも高く、高等教育・学校教育以外では「日韓辞典」「韓日辞典」が同程度となっている。

3-1. 学習者について

ここでは、本調査に回答した学習者の性別、年齢、訪日経験とその目的、日本語学習動機、日本語力等の基礎的情報について尋ねた結果を報告する。

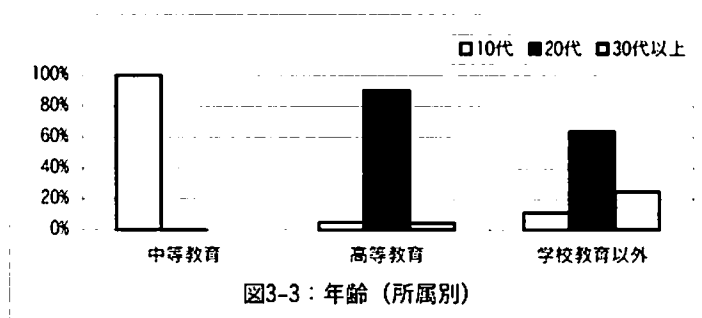
3-1-1. 性別

学習者全体の性別は、女性が62.3%、男性が37.7%で女性が多いが(図3-1)、所属別では中等教育で男性が49.8%とほぼ半数を占めている(図3-2)。 (学F1)



3-1-2. 年齢

学習者の年齢は、中等教育では10代が99.7%、高等教育・学校教育以外では20代が90.4%・63.9%と最も多い(図3-3)。 (学F3)



3-1-3. 母 語

調査対象となった学習者の母語は、全員韓国語であった。

〈学 F4〉

3-1-4. 日本語学習開始時期

中等教育・高等教育では「高校から開始」がそれぞれ91.8%，47.7%，学校教育以外では「大学から開始」が33.2%で最も高い（図3-4）。また学校教育以外の「その他」としては「社会人になってから」「就職してから」が多く挙げられた。なお、中学校では「中学校から開始」が97.4%となっている。（学 F6）

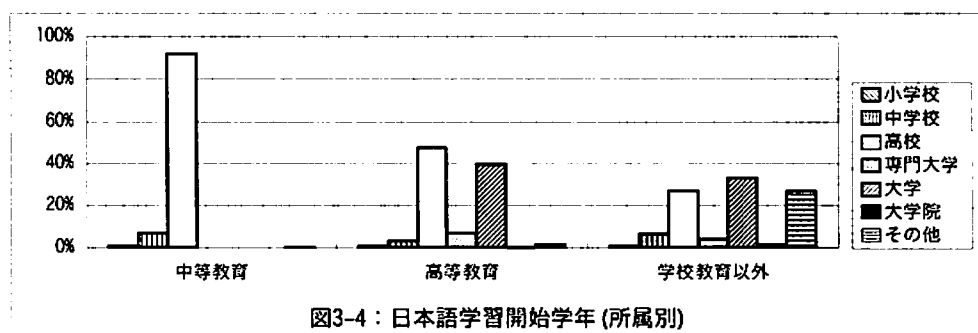


図3-4：日本語学習開始学年(所属別)

3-1-5. 日本語の学習場所

中等教育では「高校」が98.7%，高等教育では「大学」，「専門学校」，「大学院」の各自の所属する高等教育機関で学習する人が全体で99.3%，学校教育以外では各自の所属する学校教育以外の機関で学習する人が全体で86.5%と高く，複数の機関で学習している学習者は少ない（図3-5）。なお，中学校は，「中学校」で学習する人が100%となっている。（学 F7）

〈学 F7〉

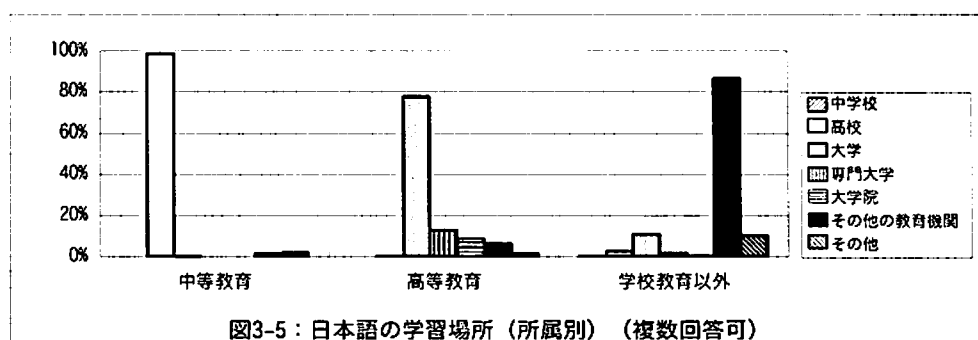
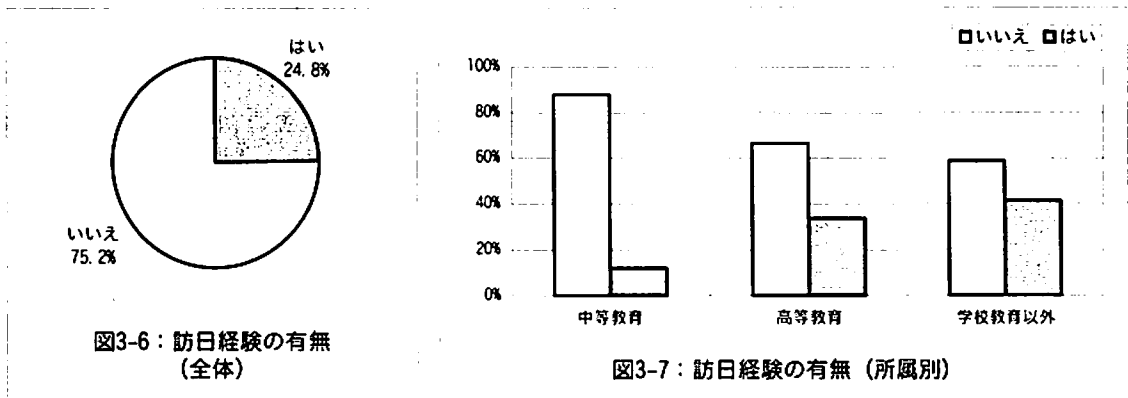


図3-5：日本語の学習場所(所属別) (複数回答可)

3-1-6. 訪日経験

学習者全体の75.2%は訪日経験がない(図3-6)。所属別に見ると、学校教育以外では訪日経験者が41.4%と比較的多い(図3-7)。なお、中学校では訪日経験のない学習者が92.2%となっている。(学F8)



3-1-7. 訪日目的

訪日の目的は、表3-2のとおりである。全体では、①「観光」(64.3%)が圧倒的に高く、②「短期留学(6ヶ月未満)」(10.2%)③「家族滞在」(9.9%)が続いている。所属別では、学校教育以外で「仕事」(12.0%)が2位となっている。「その他」の内容としては、中等教育では「語学研修」、高等教育では「ホームステイ」、学校教育以外では「出張」という回答が比較的多かった。なお、中学校では「観光」が89.7%であった。(学F8)

〈表3-2：訪日目的〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	観 光 (64.3)	観 光 (73.3)	観 光 (62.0)	観 光 (65.6)
2位	短期留学 (6ヶ月未満) (10.2)	家族滞在 (13.4)	短期留学 (6ヶ月以上1年未満) (16.6)	仕 事 (12.8)
3位	家族滞在 (9.9)	そ の 他 (9.5)	短期留学 (6ヶ月未満) (10.7)	家族滞在 (10.4)

(複数回答可)

3-1-8. 日本語学習動機

日本語学習を始めた理由や動機については、各項目について1位を3点、2位を2点、3位を1点として合計得点を順位付けしたところ、表3-3のようになった。中等教育では、「学校の授業にある」、高等教育・学校教育以外では「日本語に興味がある」が最も多かった。

「その他」としては、高等教育・学校教育以外で「留学したい」が比較的多かった。なお、中学校では①「学校の授業にある」、②「日本語に興味がある」、③「日本のものが好きだ」の順であった。（学F9）

〈表 3-3：日本語学習動機〉（ ）内は合計得点

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	学校の授業にある (6,741)	学校の授業にある (5,027)	日本語に興味がある (2,978)	日本語に興味がある (1,160)
2位	日本語に興味がある (6,055)	日本語に興味がある (1,917)	日本に興味がある (1,565)	日本に興味がある (684)
3位	日本に興味がある (3,523)	日本のものが好きだ (1,561)	学校の授業にある (1,505)	日本に行きたい (479)
4位	日本のものが好きだ (3,114)	学びやすそうだ (1,469)	日本のものが好きだ (1,124)	日本のものが好きだ (429)
5位	日本に行きたい (2,510)	日本に行きたい (1,355)	学びやすそうだ (689)	現在の仕事に必要なだ (420)

(複数回答可)

3-1-9. 日本語力

現在、どれくらい日本語力があると思うか、4技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）について6段階で自己評価してもらった。技能別全体の結果は図3-8のとおりである。数値の意味は各技能で異なるが、数値が高いほど、自己評価が高いことを示す（図3-9～3-12参照）。（学F10）

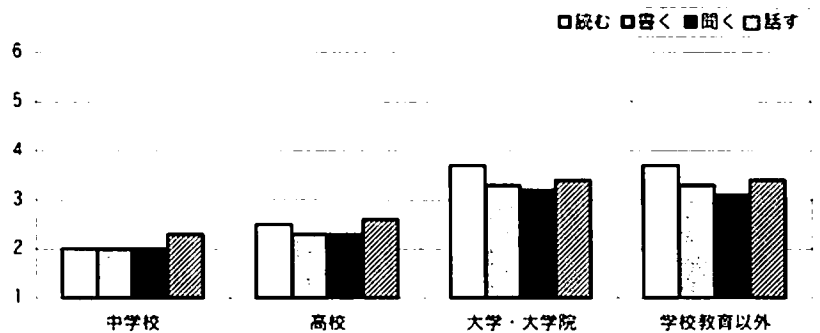


図3-8：日本語力（所屬別）（6段階評価平均値）

〈表 3-4：日本語力〉

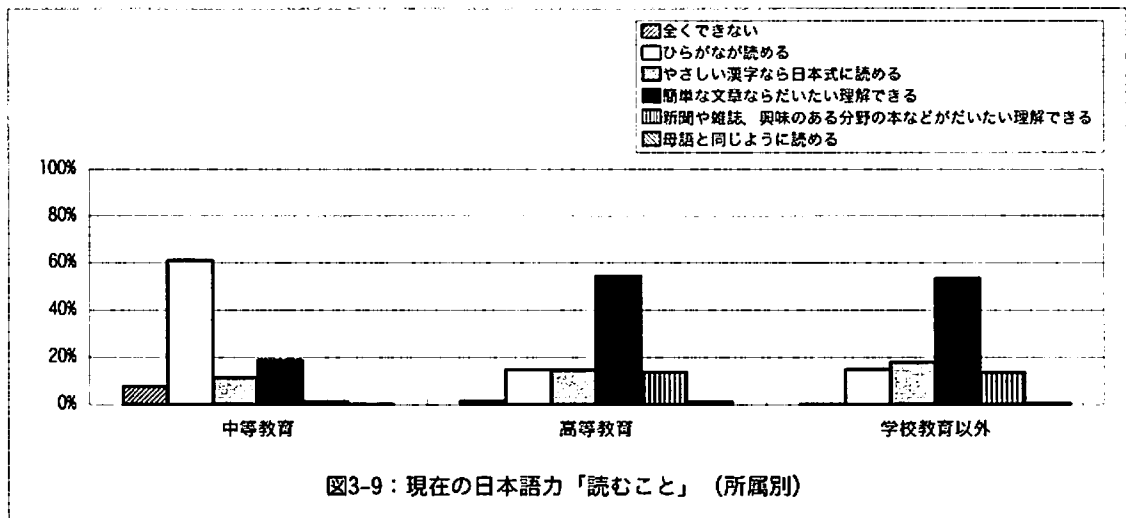
4技能	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
読 む	3.0	2.5	3.7	3.7
書 く	2.8	2.3	3.3	3.3
聞 く	2.7	2.3	3.2	3.1
話 す	3.0	2.6	3.4	3.4

(6段階評価平均値)

技能別の結果は以下のとおりである。

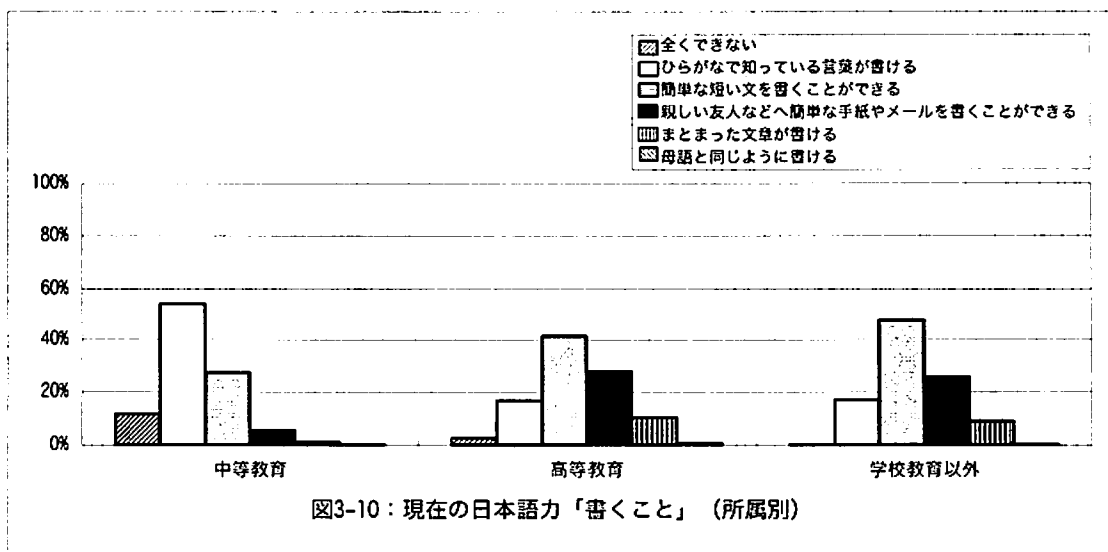
(1) 「読むこと」

中等教育では、「ひらがなが読める」(60.9%)、高等教育・学校教育以外では「簡単な文章ならだいたい理解できる」がそれぞれ54.5%、53.3%と最も多い(図3-9)。なお、中学校では「ひらがなが読める」が78.7%で最も高かった。
(学F10-1)



(2) 「書くこと」

中等教育では、「ひらがなで知っている言葉が書ける」(54.2%)「簡単な短い文を書くことができる」(27.3%)の順に多い。高等教育・学校教育以外では、「簡単な短い文を書くことができる」「親しい友人などへの簡単な手紙やメールを書くことができる」の順に多い(図3-10)。なお、中学校では「ひらがなで知っている言葉が書ける」(61.8%)「全くできない」(19.1%)の順に多い。
(学F10-2)



(3) 「聞くこと」

中等教育では、「相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる」(45.5%)「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(25.9%)の順に多い。高等教育では、「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(36.4%)「会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる」(19.8%)、学校教育以外では、「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(40.2%)「相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる」(27.2%)の順に多い(図3-11)。なお、中学校では、「相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる」(74.2%)「全くできない」(11.8%)の順になっている。

〈学F10-3〉

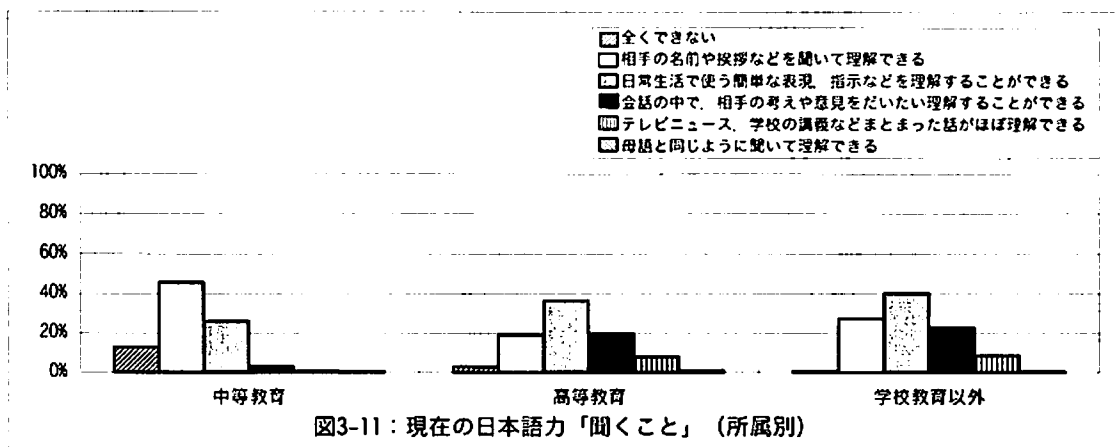


図3-11：現在の日本語力「聞くこと」(所属別)

(4) 「話すこと」

全体的に「簡単な自己紹介ができる」が最も多い。続くレベルとしては、中等教育では「挨拶ができる」(30.3%)、高等教育・学校教育以外では、「日常生活に必要な表現を状況に応じて使える」(27.6%・25.7%)となっている(図3-12)。なお、中学校では「挨拶ができる」(61.5%)「簡単な自己紹介ができる」(29.8%)となっている。

〈学F10-4〉

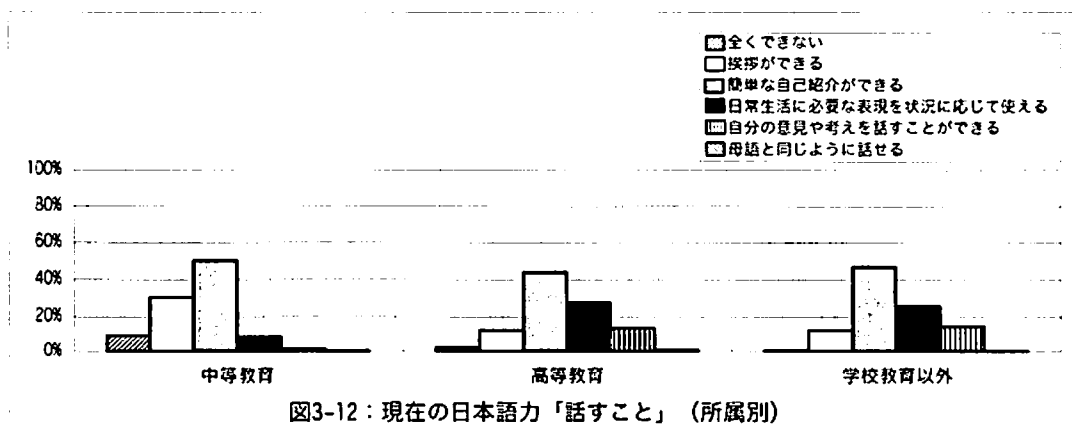
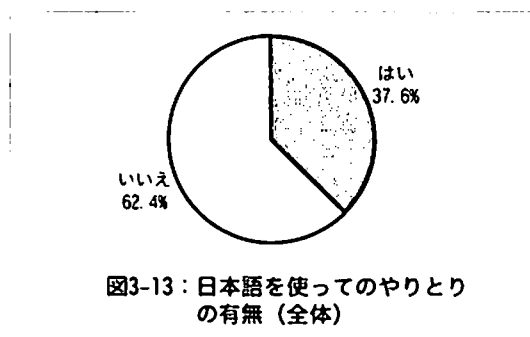


図3-12：現在の日本語力「話すこと」(所属別)

3-2. 日本語を使つてのやりとりについて

ここでは、日本語の授業以外で学習者が実際に日本語を使つてどのようなやりとりをするのか、やりとりの有無、相手、頻度、手段、内容、理由等について尋ねた結果をまとめる。

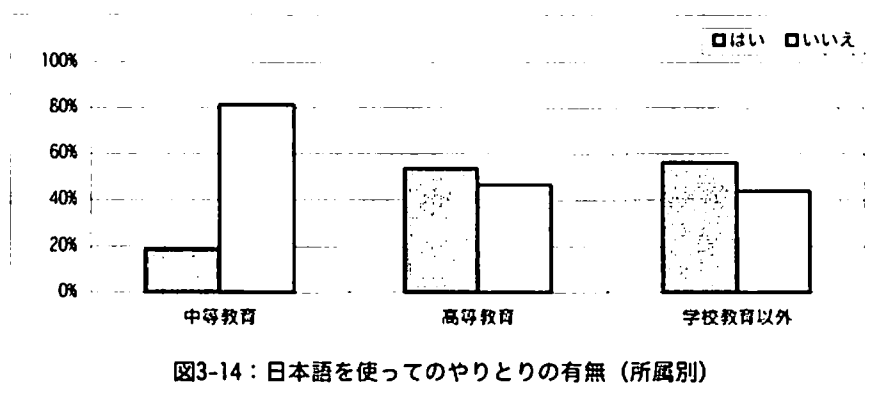
3-2-1. 日本語を使つてのやりとりの有無



日本語の授業以外における日本語でのやりとりについては、全体で2,517人(37.6%)が「はい」、4,183人(62.4%)が「いいえ」と答え、やりとりがない学習者の方が多い(図3-13)。

所属別で見ると、図3-14のように中等教育では、やりとりをしている学習者は18.7%でやりとりをしていない学習者の方が多いが、高等教育、学校教育以外ではそれぞれ53.5%、56.1%とやりとりをしている学習者の方が多い。なお、中学校ではやりとりをしていない学習者が84.4%となっている。

(学Q1)



〈表3-5: 日本語を使つてのやりとりの有無〉()内は%

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	2,517 (37.6)	591 (18.7)	1,309 (53.5)	617 (56.1)
	いいえ	4,183 (62.4)	2,564 (81.3)	1,137 (46.5)	482 (43.9)
	無回答	39	22	10	7

3-2-2. やりとりの相手とその方法

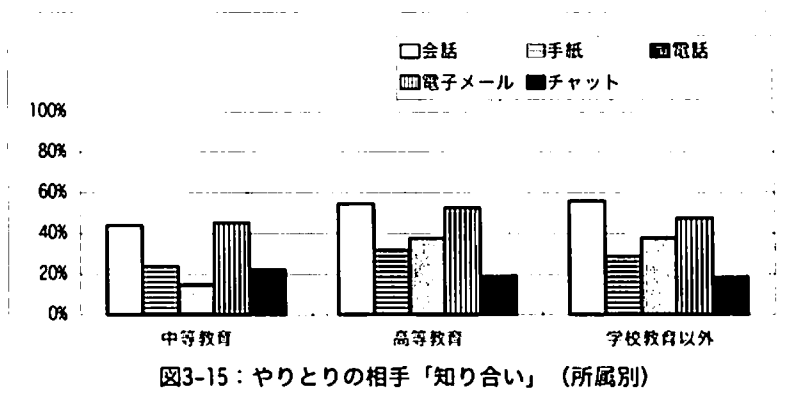
3-2-1でやりとりをしていると回答した学習者に対して、やりとりの相手について尋ねたところ、表3-6のようになった。全体的にみると①「知り合い」(1,126人)、②「日本語の教師」(1,089人)、③「学校の友人」(916人)が多い。(学 Q1-1)

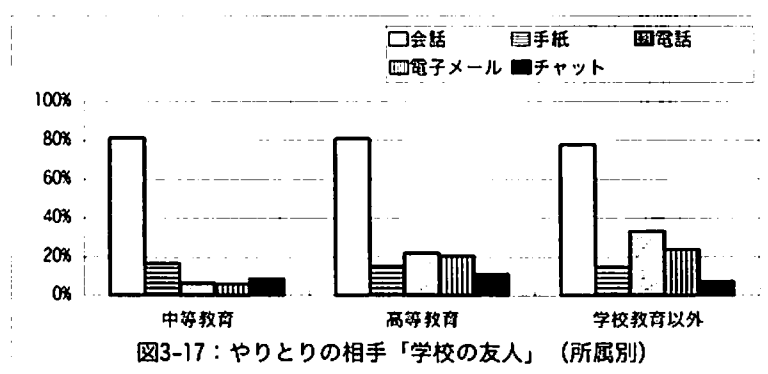
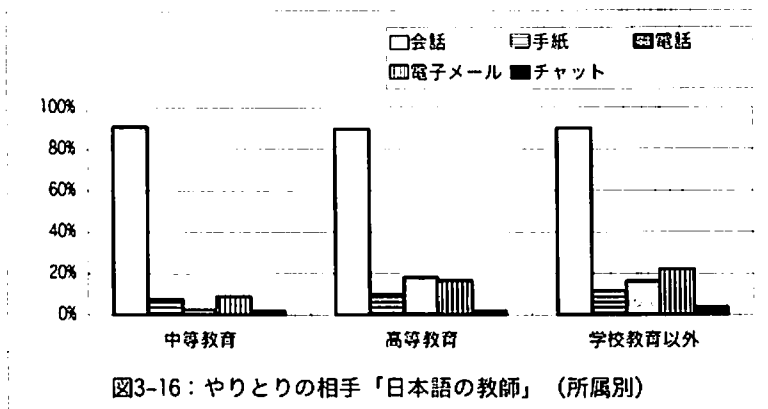
(表 3-6：やりとりの相手) ()内は回答数

順位	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	知り合い (1,126)	学校の友人 (252)	知り合い (652)	知り合い (272)
2位	日本語の教師(1,089)	日本語の教師 (214)	日本語の教師 (630)	日本語の教師 (245)
3位	学校の友人 (916)	知り合い (202)	学校の友人 (529)	学院・語学堂等の クラスメート (164)

(複数回答可)

やりとりの方法としては、表3-6で示した、やりとりの多い相手上位3位(合計)における、やりとりの手段を図3-15、3-16、3-17にまとめる。所属に共通して相手が「日本語の教師」「学校の友人」の場合は、直接の「会話」によるやりとりが多いが、相手が「知り合い」の場合は「電子メール」など様々な方法でのやりとりが見られる(図3-15~3-17)。(学 Q1-1)





3-2-3. 最もよくやりとりをする相手

3-2-2の日本語でやりとりをする相手の中で、最もよくやりとりをする相手について尋ねたところ、表3-7のようになった。全体では①「知り合い」(25.2%)、②「日本語の教師」(24.6%)、③「学校の友人」(20.4%)の順で、3-2-2と同様の結果になっている。

所属別に見ると、中等教育では「学校の友人」が26.2%と最も多いのに対して、高等教育・学校教育以外では「知り合い」と「日本語の教師」が同程度に多い。なお、中学校では「学校の友人」が43.6%で最も多く、「日本語の教師」が16.4%と続いている。 (学Q1-2)

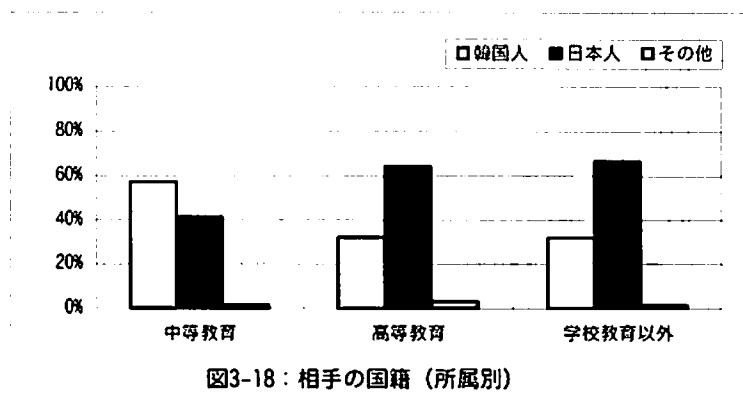
〈表3-7：最もよくやりとりをする相手〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	知り合い (25.2)	学校の友人 (26.2)	知り合い (24.8)	日本語の教師 (23.6)
2位	日本語の教師 (24.6)	日本語の教師 (23.0)	日本語の教師 (22.7)	知り合い (23.4)
3位	学校の友人 (20.4)	知り合い (20.2)	学校の友人 (19.2)	学校の友人 (10.3)

以下、3-2-11まで、この最もやりとりをする相手を対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよくやりとりする相手ごとの集計結果については、他の項目との関係性を考慮して「報告書：分析編」にて詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

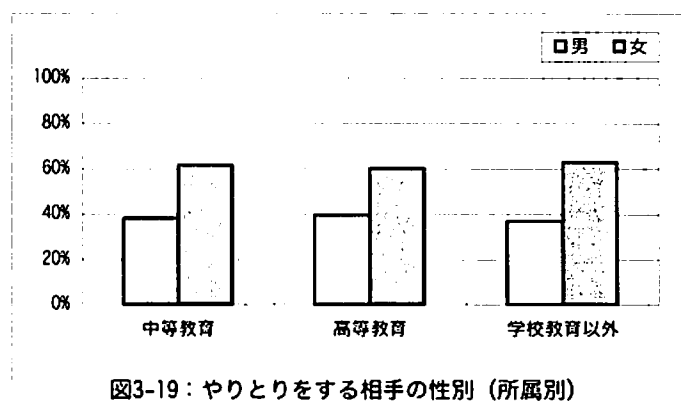
3-2-4. やりとりをする相手の国籍



やりとりをする相手の国籍は、中等教育では「韓国人」(57.2%)、高等教育・学校教育以外では「日本人」(64.5%・66.7%)が多い(図3-18)。なお、中学校では「韓国人」が82.5%となっている。

〈学 Q1-2〉

3-2-5. やりとりをする相手の性別



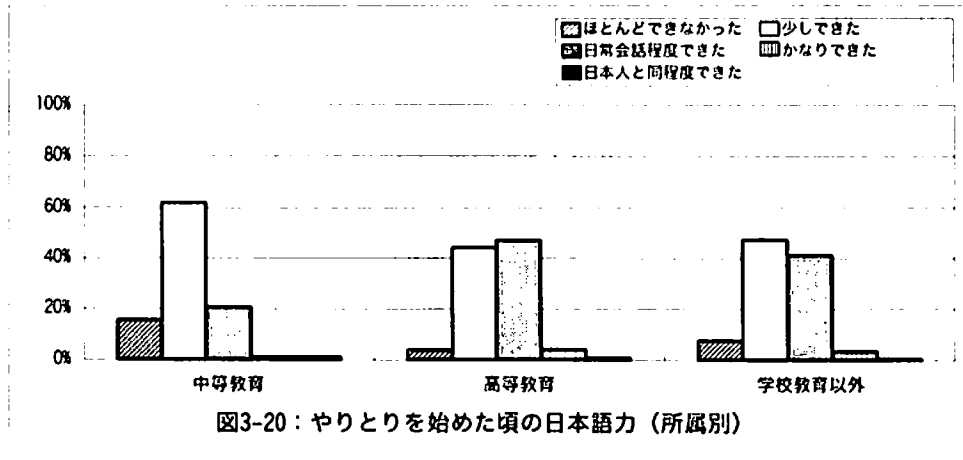
やりとりをする相手の性別は、全体的に「女性」が多い(図3-19)。なお、中学校でも78.9%が「女性」となっている。

〈学 Q1-2〉

3-2-6. やりとりを始めた頃の日本語力

やりとりをするようになった頃の日本語力について自己評価してもらったところ、中等教育では「少しできた」が61.8%と最も多いが、高等教育・学校教育以外ではそれぞれ「少しできた」が44.2%・47.2%、「日常会話程度できた」がそれぞれ47.1%・41.1%となっている(図3-20)。なお、中学校は「少しできた」が69.1%と同程度で多い。

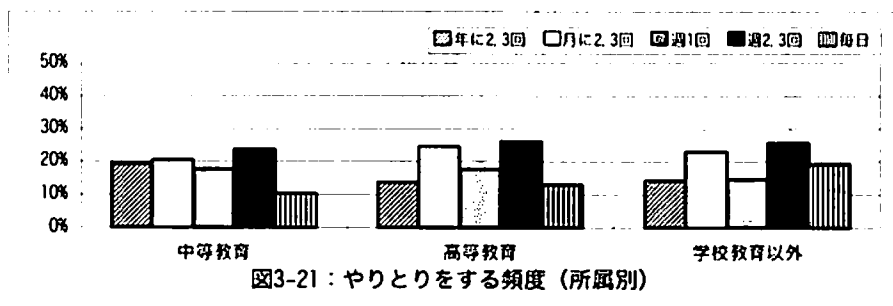
〈学 Q1-2〉



3-2-7. やりとりをする頻度

日本語でやりとりをする頻度は、所属に共通して「週 2, 3 回」(26.9%) が最も多く、「月に 2, 3 回」(24.6%) が続いている。なお、中学校では「週 1 回」「週 2, 3 回」がそれぞれ 25.0%であった (図 3-21)。

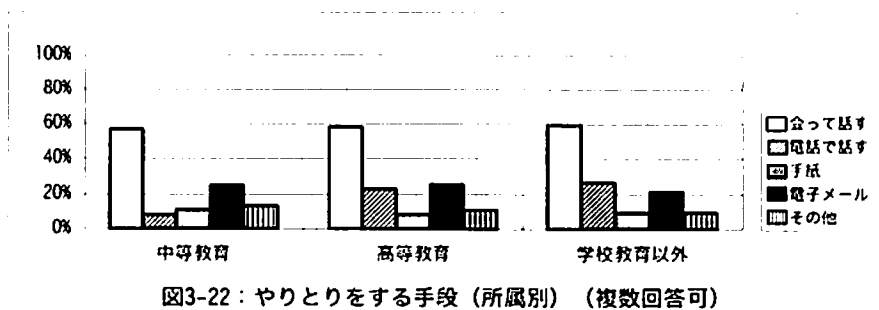
〈学 Q1-2〉



3-2-8. やりとりをする手段

やりとりをするときの手段は、全体で直接相手と「会って話す」学習者が 58.0%で、所属に共通して最も多い (図 3-22)。「その他」としては「チャット」が共通して多い。なお、中学校も「会って話す」学習者が 58.2%と多く、同様の結果になっている。

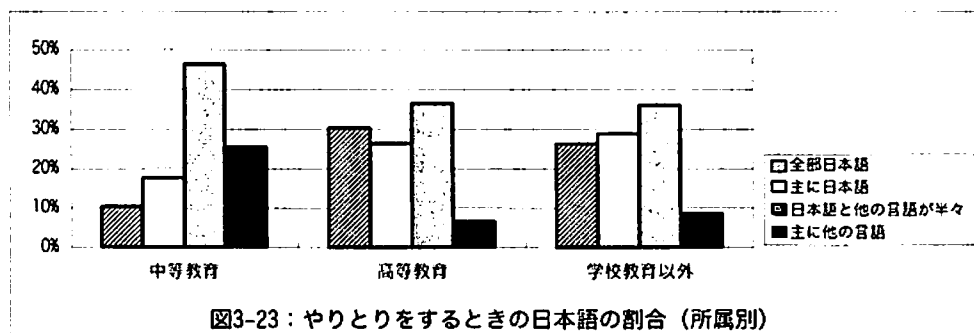
〈学 Q1-2〉



3-2-9. やりとりをするときの日本語の割合

やりとりをするときに日本語を使用する割合はどのぐらいか尋ねたところ、全体で「日本語と他の言語が半々」という学習者が38.6%で所属に共通して最も多いが、高等教育・学校教育以外では「全部日本語」「主に日本語」の割合も高い(図3-23)。なお、中学校では「主に他の言語」が45.5%と最も多い。

(学 Q1-2)



3-2-10. やりとりの内容

やりとりの内容については、所属に共通して①「生活について」(65.5%)、②「勉強について」(21.9%)となっている(表3-8)。続く内容としては、中等・高等教育が「日本語について」(16.2%・16.2%)であるのに対し、学校教育以外では「仕事について」(19.1%)となっている。

(学 Q1-2)

〈表3-8：やりとりの内容〉()内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	生活 (65.5)	生活 (54.6)	生活 (71.6)	生活 (61.9)
2位	勉強 (21.9)	勉強 (20.5)	勉強 (22.9)	勉強 (20.8)
3位	日本語 (16.4)	日本語 (16.2)	日本語 (16.2)	仕事 (19.1)

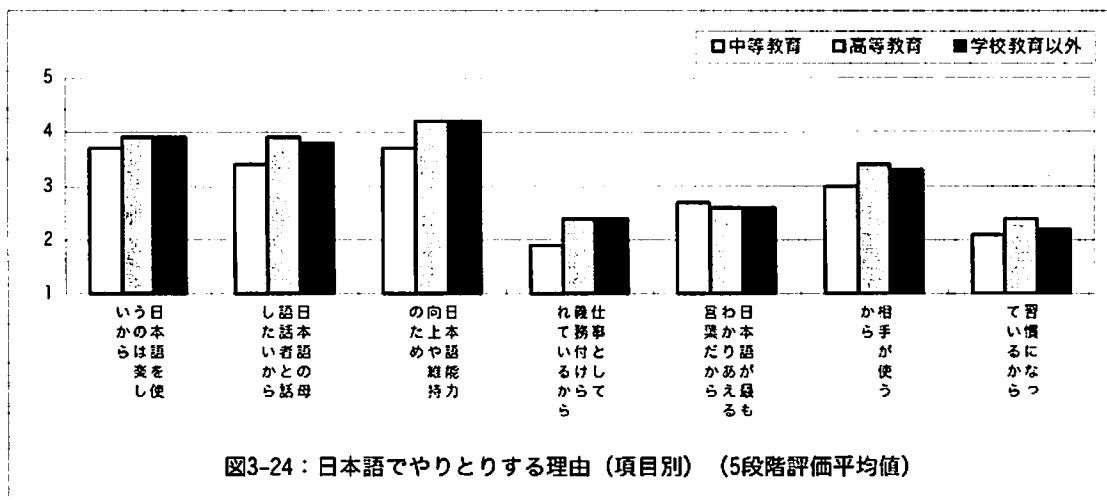
(複数回答可)

割合は低い、「その他」の内容としては、「授業について」「挨拶」「一般的なこと」などが挙げられた。なお、中学校では「生活について」(38.2%)、「その他」(20.0%)、「趣味について」(18.2%)の順であった。

3-2-11. 日本語でやりとりをする理由

日本語でやりとりをする理由について各項目について5段階(「5. 全くそう思う」-「1. 全くそう思わない」、以下同様)で尋ねたところ、図3-24のように全体的に「日本語を使うのは楽しいから」「日本語の母語話者と話したいから」「日本語能力向上や維持のため」が高い。所属別では、高等教育・学校教育以外では「日本語能力向上や維持のため」が最も高いが、中等教育ではやや低い。

(学 Q1-2)



〈表 3-9：日本語でやりとりをする理由〉

	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
日本語を使うのは楽しいから	3.9	3.7	3.9	3.9
日本語の母語話者と話したいから	3.8	3.4	3.9	3.8
日本語能力向上や維持のため	4.1	3.7	4.2	4.2
仕事として義務付けられているから	2.3	1.9	2.4	2.4
日本語が最もわかりあえる言葉だから	2.6	2.7	2.6	2.6
相手が使うから	3.3	3.0	3.4	3.3
習慣になっているから	2.3	2.1	2.4	2.2

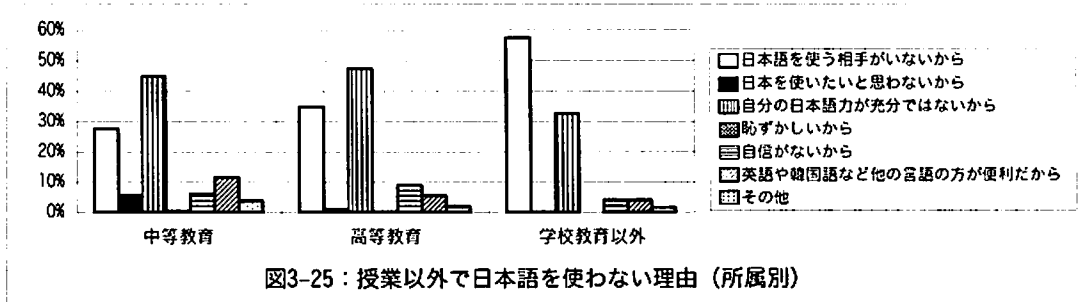
(5段階評価平均値)

3-2-12. 授業以外で日本語を使わない理由

3-2-1 (p.28 参照) で見たように、全体で見ると日本語の授業以外で日本語でのやりとりをしない学習者が62.4%で、やりとりをする学習者(37.6%)よりも多かった。では、なぜ授業以外で日本語を使わないのか、やりとりをしていない学習者にその理由を尋ねたところ、全体的に「自分の日本語力が充分ではないから」(44.2%)、「日本語を使う相手がないから」(33.0%)の2つの理由が多かった。

所属別では、学校教育以外で「日本語を使う相手がないから」の方が57.6%と多い(図3-25)。なお、中学校では「自分の日本語力が充分ではないから」(51.8%)が最も多かった。

〈学 Q1-3〉



3-3. 日本語が使われているものとの接触について

ここでは、日本語の授業以外で学習者が日本語で書かれたものや日本語が使われているものの中で、どのようなものをどのように見たり聞いたりしているのか等について、学習者に尋ねた結果をまとめる。

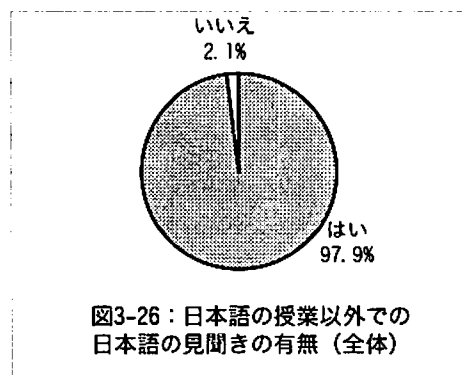
3-3-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無

まず、学習者の身の回りで、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりしたことがあるかについて尋ねたところ、表 3-10 のように 5,230 人 (80.0%) の学習者が「はい」と答えている。一方、「いいえ」と答えている学習者は 1,307 人 (20.0%) であった。なお、中学校も 80.0% が「はい」と答えていた。 (学 Q2)

〈表 3-10：身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無〉 () 内は%

	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
はい	5,230 (80.0)	2,291 (74.2)	2,007 (84.9)	932 (86.1)
いいえ	1,307 (20.0)	798 (25.8)	358 (15.1)	151 (13.9)
無回答	202	88	91	23

3-3-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無



3-3-1 で「はい」と答えた学習者に、特に日本語の授業以外の時間に、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりすることがあるかについて尋ねたところ、5,122 人 (97.9%) の学習者が「はい」と答え、逆に「いいえ」と答えた人は 108 人 (2.1%) であった (図 3-26)。所属による違いはあまり見られない (表 3-11)。なお、中学校も 97.3% が「はい」と答えている。

(学 Q2-1)

〈表 3-11：日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無〉（ ）内は%

		合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	5,122 (97.9)	2,220 (96.9)	1,982 (98.8)	920 (98.7)
	いいえ	108 (2.1)	71 (3.1)	25 (1.2)	12 (1.3)
	無回答	0	0	0	0

3-3-3. 見聞きするもの

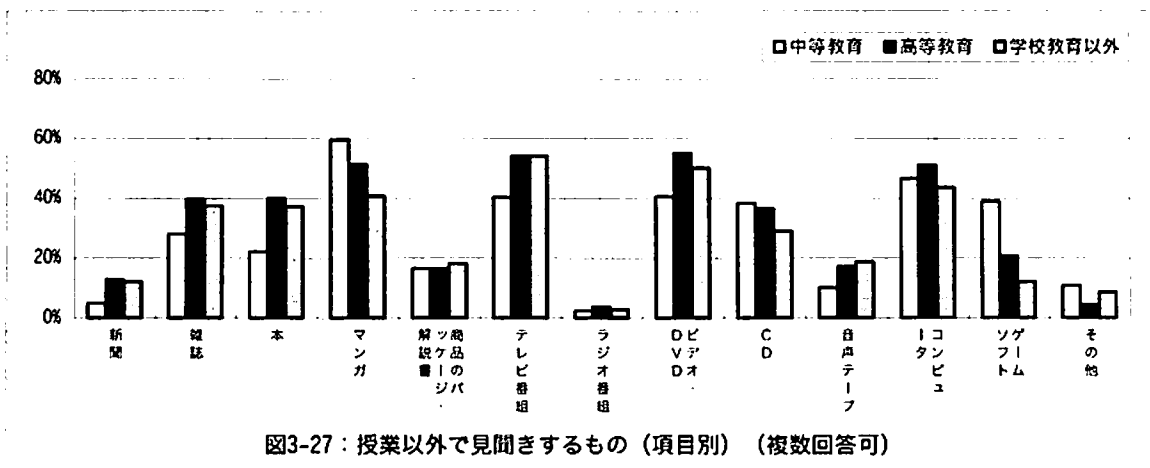
どのようなものを見聞きするのか尋ねたところ、表 3-12 のようになった。中等教育では、「マンガ」(59.4%) が最も多く、「ゲームソフト」(39.6%) も比較的多い。高等教育・学校教育以外では「ビデオ・DVD」と「テレビ番組」が多い。また、「コンピュータ」が所属に共通して多い(図 3-27)。なお、中学校では①「マンガ」(64.2%)、②「コンピュータ」(46.9%)、③「テレビ番組」(39.5%) の順であった。

〈学 Q2-2〉

〈表 3-12：見聞きするもの〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	マンガ (52.9)	マンガ (59.4)	ビデオ・DVD (55.1)	テレビ番組 (54.2)
2位	テレビ番組 (48.1)	コンピュータ (46.6)	テレビ番組 (54.2)	ビデオ・DVD (50.1)
3位	ビデオ・DVD (47.9)	ビデオ・DVD (40.6)	マンガ (51.3)	コンピュータ (43.6)

(複数回答可)



「その他」としては、共通して「歌」「看板」「文房具」「アニメ」「飲食店」「カラオケ」「電気製品の説明書」「食品」「キャラクター商品」「服」などが挙げられた。特に学校教育以外では「仕事関係の書類」「ファックス」「機械設備のマニュアル」などが挙げられた。

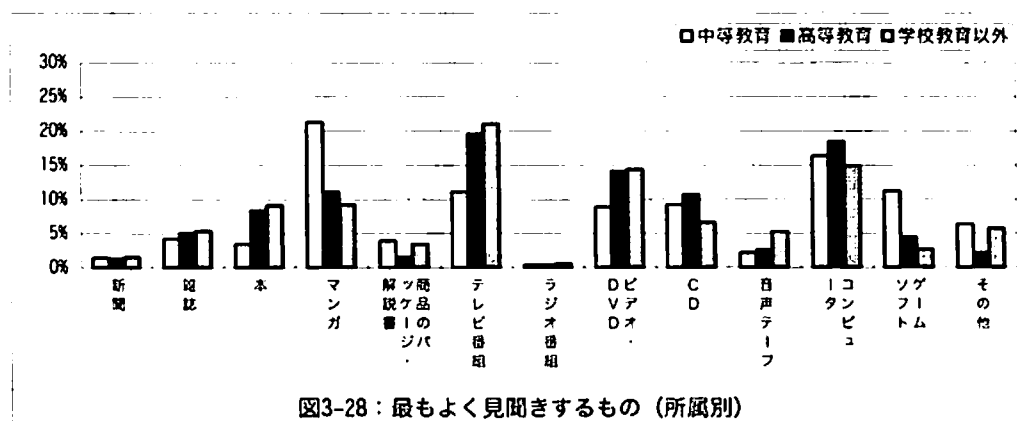
3-3-4. 最もよく見聞きするもの

3-3-3の見聞きするものの中でも、特に最もよく見聞きするものについては、表3-13のとおりである。全体では①「コンピュータ」(16.9%)、②「テレビ番組」(16.2%)、③「マンガ」(15.2%)の順になっている。なお、中学校では3-3-3と同じで①「マンガ」(27.7%)、②「コンピュータ」(16.1%)、③「テレビ番組」(13.2%)の順であった。 (学Q2-3)

〈表3-13：最もよく見聞きするもの〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	コンピュータ (16.9)	マンガ (21.3)	テレビ番組 (19.5)	テレビ番組 (21.1)
2位	テレビ番組 (16.2)	コンピュータ (16.4)	コンピュータ (18.5)	コンピュータ (14.9)
3位	マンガ (15.2)	ゲームソフト (11.2)	ビデオ・DVD (14.1)	ビデオ・DVD (14.4)

所属別では、図3-28のように高等教育・学校教育以外は共通して①「テレビ番組」、②「コンピュータ」、③「ビデオ・DVD」の順で、中等教育では①「マンガ」、②「コンピュータ」、③「ゲームソフト」の順になっている。なお、中学校では①「マンガ」、②「コンピュータ」、③「テレビ番組」の順になっている。

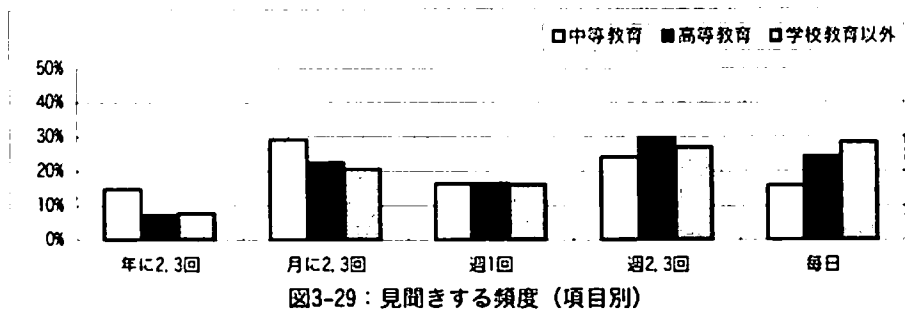


以下、3-3-8まで、この最もよく見聞きするものを対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよく見聞きするものごとの集計結果については、他の項目との関係を考慮して「報告書：分析編」にて詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

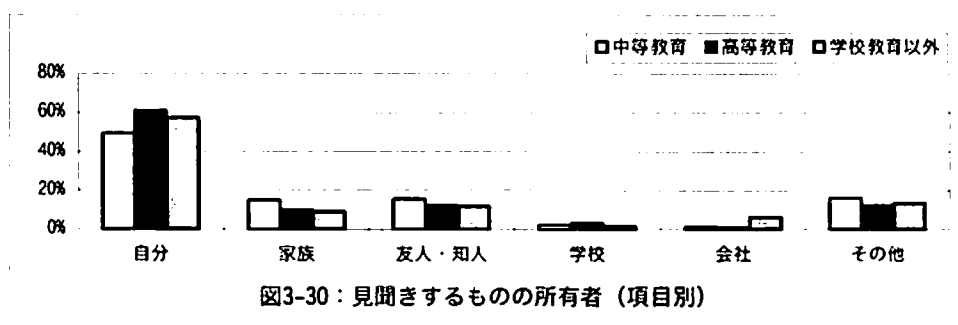
3-3-5. 見聞きする頻度

日本語のものを見聞きする頻度は、中等教育では「月に2,3回」(29.0%)、高等教育では「週2,3回」(29.4%)、学校教育以外では「毎日」(28.4%)見聞きする学習者が多い(図2-29)。なお、中学校では「週2,3回」(26.4%)、「月に2,3回」(25.1%)の順で多かった。 (学Q2-3)



3-3-6. 見聞きするものの所有者

見聞きするものの所有者は、「自分」が全体的に 55.5%で半数以上となっている。「その他」としては、「インターネット」「レンタル店」「テレビ局」などが共通して挙げられた。なお、中学校では「自分」(37.9%)、「家族」(24.5%)となっている。 (学 Q2-3)



3-3-7. 見聞きするものの内容

見聞きするものの内容については、「文化・芸術」(40.2%)が共通して最も多かった。続いて、中等教育・高等教育では「スポーツ・趣味」(25.9・22.3%)、学校教育以外では「社会・生活」(20.8%)となっている(表3-14)。「その他」としては、「ゲーム」「ドラマ」「歌」「マンガ」等、内容的に「文化・芸術」に含まれるものが具体的に挙げられた。なお、中学校では①「その他」(26.4%)、②「文化・芸術」「スポーツ・趣味」(各22.5%)となっており、「その他」としては同様に「マンガ」「ゲーム」等が挙げられた。 (学 Q2-3)

〈表 3-14：見聞きするものの内容〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	文化・芸術 (40.2)	文化・芸術 (36.6)	文化・芸術 (44.6)	文化・芸術 (39.1)
2位	スポーツ・趣味 (23.1)	スポーツ・趣味 (25.9)	スポーツ・趣味 (22.3)	社会・生活 (20.8)
3位	その他 (21.7)	その他 (25.7)	社会・生活 (19.1)	その他 (19.3)

(複数回答可)

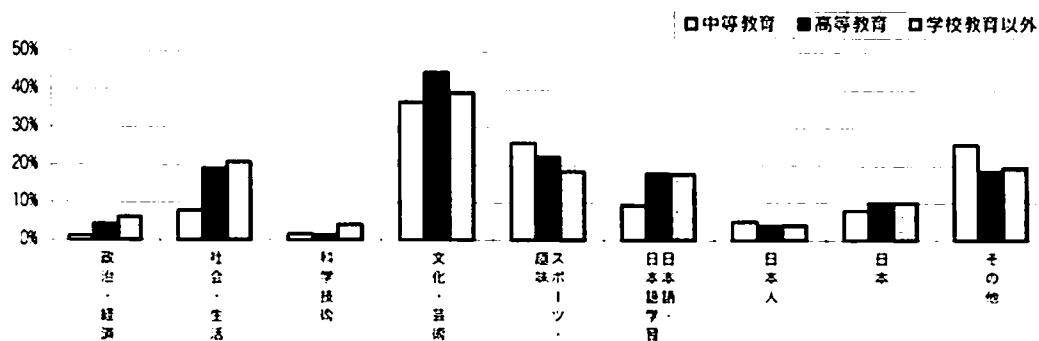


図3-31：見聞きするものの内容（項目別）（複数回答可）

3-3-8. 見聞きする理由

日本語のものを見たり聞いたりする理由をいくつか挙げ、それぞれについて5段階で尋ねたところ、図3-32・表3-15のように共通して「楽しいから」が多い。所属別では、高等教育・学校教育以外では「日本語に触れたいから」「日本語能力の向上や維持のため」が比較的多い。「その他」としては、中等教育では「ゲームに必要だから」「アニメ・ゲームなどを見ていると出てくるから」「自然と目や耳に入ってくるから」「仕方なく」「日本語で書かれてあるから」など、高等教育では「好きだから」「関心があるから」「必要だから」「目に入るから」など、学校教育以外では「練習のため」などが挙げられた。（学Q2-3）

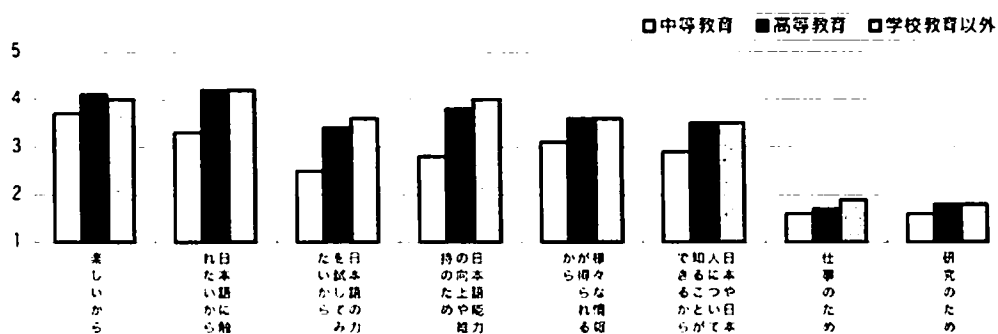


図3-32：見聞きする理由（項目別）（5段階評価平均値）

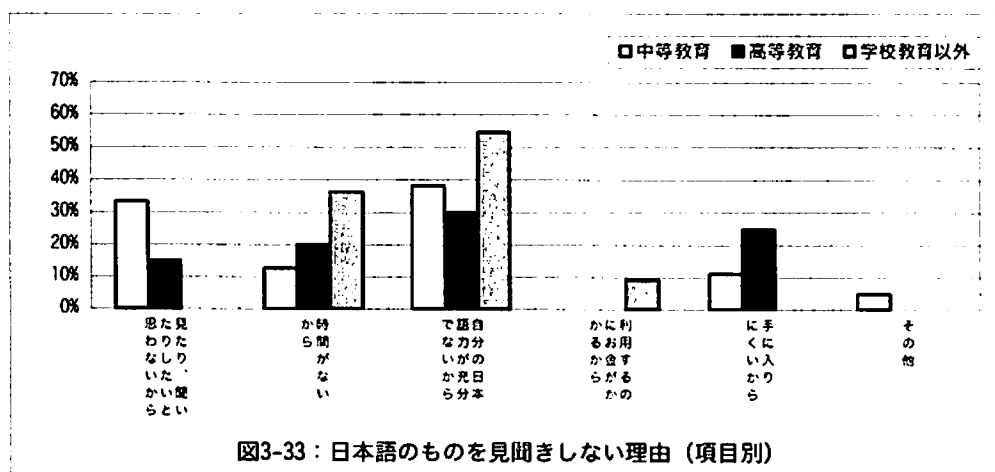
〈表 3-15：見聞きする理由〉

	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
楽しいから	3.9	3.7	4.1	4.0
日本語に触れたいから	3.8	3.3	4.2	4.2
日本語の力を試してみたいから	3.1	2.5	3.4	3.6
日本語能力の向上や維持のため	3.4	2.8	3.8	4.0
様々な情報が得られるから	3.3	3.1	3.6	3.6
日本や日本人について知ることができるから	3.2	2.9	3.5	3.5
仕事のため	1.7	1.6	1.7	1.9
研究のため	1.7	1.6	1.8	1.8

(5段階評価平均値)

3-3-9. 授業以外で日本語のものを見聞きしない理由

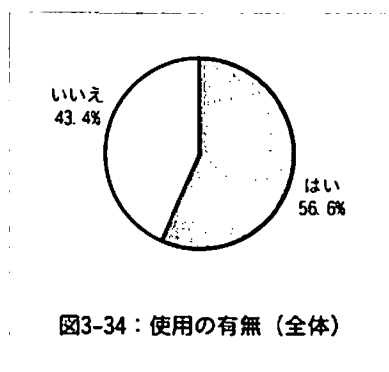
3-3-2 (p.35 参照) で見たように、全体で見ると日本語の授業以外の時間に、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりしない学習者は 108 人 (2.1%) と少なかった。しかし、なぜ授業以外で日本語のものを見聞きしないのかその理由を尋ねたところ、全体で「自分の日本語力が充分でないから」が 38.3% と所属に共通して多かった (図 3-33)。所属別では、中等教育が「見たり、聞いたりしたいと思わないから」(33.3%)、高等教育が「手に入りにくいから」(25.0%)、学校教育以外が「時間がないから」(36.4%) と続いている。なお、中学校では「自分の日本語力が充分でないから」(57.1%) が最も多かった。 (学 Q2-4)



3-4. 授業時間外の教科書等の使用について

ここでは、学習者が現在使っている日本語の教科書や授業で教師から渡されるものを授業以外の時間にもどのように利用しているのか等について、学習者に尋ねた結果をまとめる。

3-4-1. 使用の有無



まず、学習者が現在使っている日本語の教科書や授業で教師から渡されるものを授業以外の時間にも何らかの形で利用しているかどうかについて尋ねたところ、図3-34のように全体では3,741人（56.6%）の学習者が「はい」と答え、「いいえ」と答えた学習者は2,868人（43.4%）であった。所属別に見ると、高等教育・学校教育以外は半数以上が「はい」と答えているが、中等教育では60.5%が「いいえ」と答えている（表3-16）。なお、中学校では「いいえ」が65.2%となっている。（学Q3）

〈表3-16：使用の有無〉（ ）内は%

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	3,741 (56.6)	1,225 (39.5)	1,637 (67.8)	879 (80.5)
	いいえ	2,868 (43.4)	1,876 (60.5)	779 (32.2)	213 (19.5)
	無回答	130	76	40	14

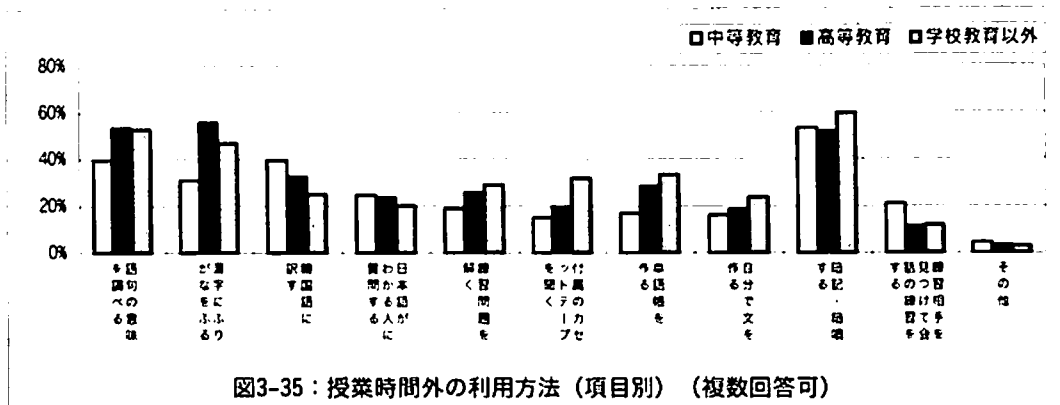
3-4-2. 授業時間外の利用方法

3-4-1で利用していると答えた3,741人に対して、具体的にどのように利用しているのか、その方法について尋ねたところ、表3-17のようになった。全体的に①「暗記、暗唱する」(54.1%)、②「語句の意味を調べる」(48.8%)、③「漢字にふりがなをふる」(45.5%)が多い。所属別では、中等教育では「韓国語に訳す」(39.6%)が2位になっている（図3-35）。なお、中学校は①「暗記、暗唱する」(37.5%)、②「日本語がわかる人に質問する」(34.0%)、③「韓国語に訳す」(12.5%)となっている。（学Q3-1）

〈表3-17：授業時間外の利用方法〉（ ）内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	暗記・暗唱する (54.1)	暗記・暗唱する (53.3)	漢字にふりがなをふる (55.7)	暗記・暗唱する (59.6)
2位	語句の意味を調べる (48.8)	韓国語に訳す (39.6)	語句の意味を調べる (53.6)	語句の意味を調べる (52.7)
3位	漢字にふりがなをふる (45.5)	語句の意味を調べる (39.5)	暗記・暗唱する (51.8)	漢字にふりがなをふる (46.8)

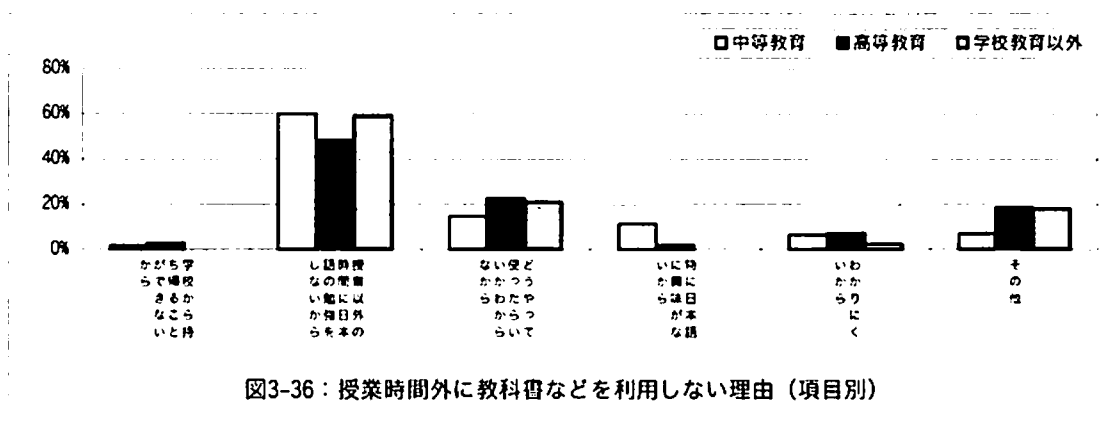
(複数回答可)



3-4-3. 授業時間外に教科書などを利用しない理由

3-4-1で利用しないと答えた 2,868 人の学習者に対して、その理由を尋ねたところ、全体で①「授業以外の時間に勉強をしないから」(56.7%) が最も多く、続いて②「どうやって使ったらいいかわからないから」(17.3%) となっている。所属別に見てもあまり違いは見られない (図 3-36)。なお、中学校でも①「授業以外の時間に勉強をしないから」(46.8%), ②「どうやって使ったらいいかわからないから」(21.7%) となっている。

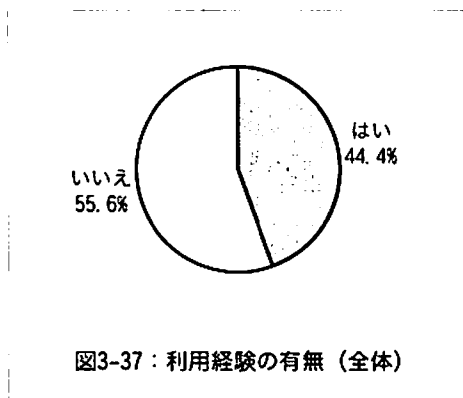
「その他」としては、「授業時間以外に時間がないから」「使う機会がないから」「他の教科書や資料を使っているから」「簡単だから」「実用的でないから」「役に立たないから」「面白くないから」「内容が十分でないから」「実生活にあっていないから」などが多く挙げられた。 (学 Q3-2)



3-5. 利用経験のある機会や場所について

ここでは、学習者が授業以外の様々な日本語学習の機会や場所をどれくらい利用しているのか等について、学習者に尋ねた結果をまとめる。

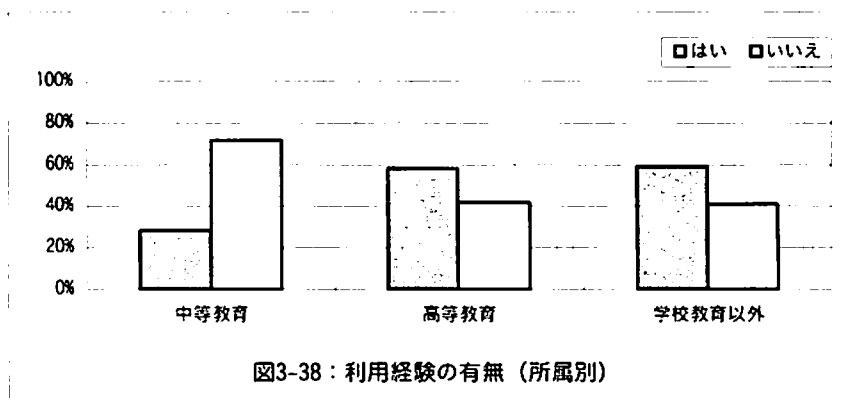
3-5-1. 利用経験の有無



まず、これまでに何らかの日本語学習に関する機会や場所を利用した経験があるかどうかについて尋ねたところ、図3-37のように全体で2,864人（44.4%）の学習者が経験があり、経験したことがないと答えた学習者は3,593人（55.6%）となっている。所属別に見ると、表3-18・図3-38のように中等教育では経験のない学習者の方が71.8%と多く、高等教育・学校教育以外では経験のある学習者の方が58.3%・59.1%と多い。なお、中学校では経験のない学習者が66.3%となっている。（学Q4）

〈表3-18：利用経験の有無〉（ ）内は%

		合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	経験あり	2,864 (44.4)	852 (28.2)	1,380 (58.3)	632 (59.1)
	経験なし	3,593 (55.6)	2,169 (71.8)	986 (41.7)	438 (40.9)
	無回答	282	156	90	36



3-5-2. 利用経験のある機会や場所

利用経験のある学習者2,864人に対して、韓国国内においてこれまでに利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、2,259人から回答が得られた。表3-19のように全体では①「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(31.3%)、②「日本人との交流会」(27.8%)、③「その他」(23.7%)の順となっている。所属別では、中等教育では「その他」(38.2%)、高等教育では「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(34.5%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(35.1%)が最も多い。また、学校教育以外では「日本・日本語に関する資料センター・図書館」(31.0%)の利用が中等教育・高等教育に比べて多い(図3-39)。

「その他」としては、中等教育では「学校」「観光地」「修学旅行」「通りすがり」等、高等教育・学校教育以外では「学院・語学堂」「学校」等が多く挙げられた。なお、中学校では「その他」が52.8%、「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」が50.0%となっており、「その他」としては「観光地」が多く挙げられた。
(学 Q4-1)

〈表 3-19：利用経験のある機会や場所－韓国－〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (31.3)	その他 (38.2)	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (34.5)	日本語が使われている職 場でのアルバイト・仕事 (35.1)
2位	日本人との交流会 (27.8)	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (34.5)	日本人との交流会 (28.2)	日本・日本語に関する 資料センター・図書館 (31.0)
3位	その他 (23.7)	日本人との交流会 (28.2)	日本語が使われている職 場でのアルバイト・仕事 (22.8)	日本人との交流会 (26.5)

(複数回答可)

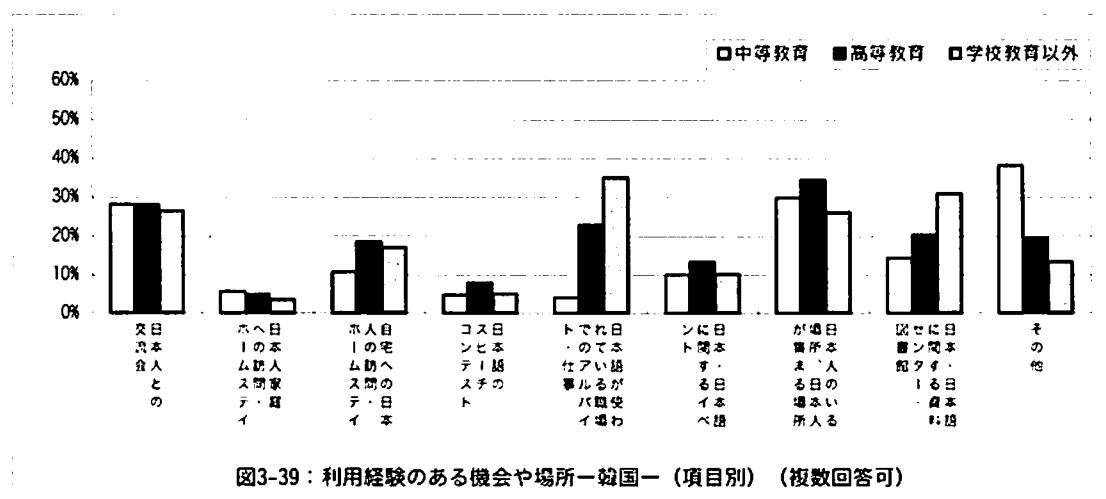


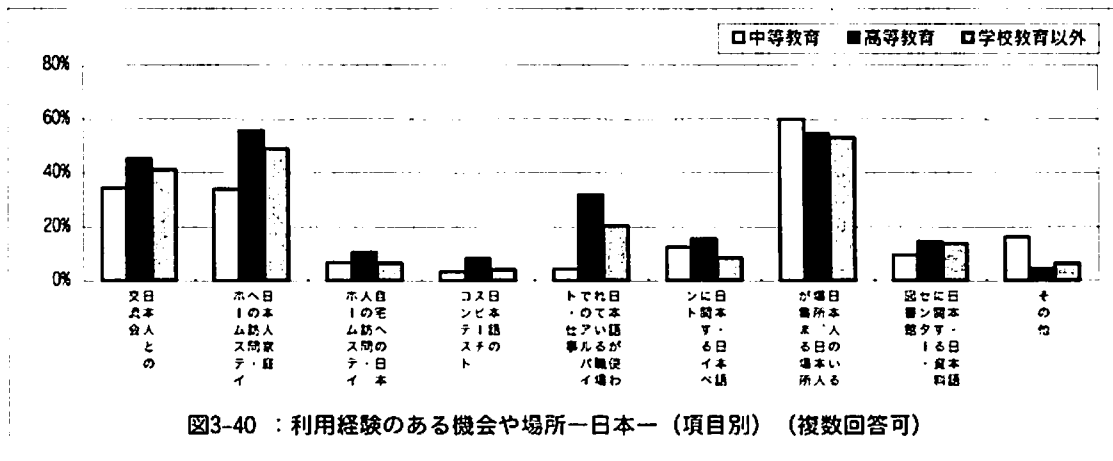
図3-39：利用経験のある機会や場所－韓国－（項目別）（複数回答可）

続いて、利用経験のある学習者 2,864 人に対して、日本国内においてこれまでに利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、990 人から回答が得られた。表 3-20 のように全体では①「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(55.4%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(49.4%)、③「日本人との交流会」(42.0%)の順となっている。所属別では、中等教育で「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(34.0%)、「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(4.3%)が、他の所属と比べて少ない(図 3-40)。「その他」としては、韓国国内と同様に所属に共通して「観光地」「旅行」が多く挙げられた。なお、中学校では「日本人との交流会」が72.0%、「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」が52.0%となっている。
(学 Q4-1)

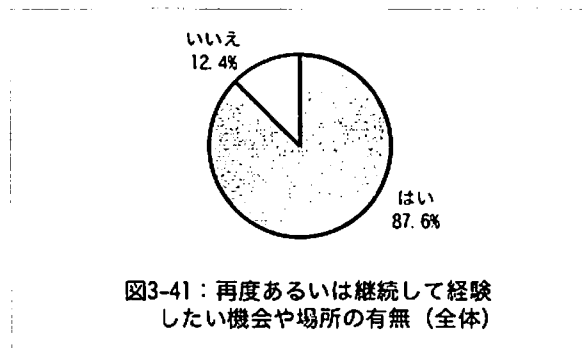
〈表 3-20：利用経験のある機会や場所－日本－〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人のいる場所、 日本人が集まる場所 (55.4)	日本人のいる場所、 日本人が集まる場所 (59.8)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (55.6)	日本人のいる場所、 日本人が集まる場所 (55.4)
2位	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (49.4)	日本人との交流会 (34.0)	日本人のいる場所、 日本人が集まる場所 (54.7)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (49.0)
3位	日本人との交流会 (42.0)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (34.0)	日本人との交流会 (45.3)	日本人との交流会 (41.2)

(複数回答可)



3-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無



利用した経験のあるものの中で、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したい機会や場所があるかどうかについて尋ねたところ、全体で87.6%が「はい」と答えている。所属別で見ると、中等教育では「はい」が76.7%と比較的少ない(図3-41)。なお、中学校では「はい」が67.7%となっている。〈学Q4-2〉

〈表 3-21：再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無〉（ ）内は%

		合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	2,164 (87.6)	557 (76.7)	1,116 (91.9)	491 (92.6)
	いいえ	306 (12.4)	169 (23.3)	98 (8.1)	39 (7.4)
	無回答	394	126	166	102

3-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所

もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思う機会や場所の中で、最も経験したいものについて尋ねたところ、表3-22・図3-42のように、全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(39.0%)、②「日本人との交流会」(17.1%)、③「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(12.8%)の順で、「日本人家庭への訪問・ホームステイ」が所属に共通して最も多い。なお、中学校では①「日本・日本語に関するイベント」(31.5%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(各16.4%)となっている。(学Q4-2)

〈表3-22：再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人家庭への訪問・ホームステイ (39.0)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (41.2)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (39.0)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (39.0)
2位	日本人との交流会 (17.1)	日本人との交流会 (16.7)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (15.0)	日本人との交流会 (17.1)
3位	日本人のいる場所、日本人が集まる場所 (12.8)	日本人のいる場所、日本人が集まる場所 (14.9)	日本人との交流会 (14.5)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (15.2)

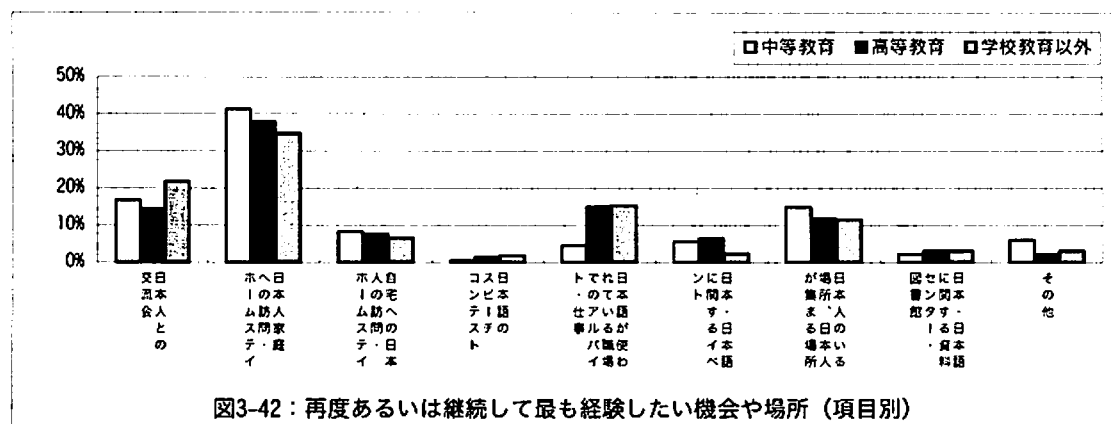


図3-42：再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所（項目別）

3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて

ここでは、日本語学習のために現在どのようなものを使っているのかについて、学習者に尋ねた結果をまとめる。

現在使っているものとして、全体的に①「学習参考書・問題集」(74.1%)が共通して最も多い。続いて、②「日本語の歌」(51.2%)、③「日本語のマンガ」(37.5%)となっている。所属別にみると、図3-43のように中等教育では「辞書」(10.5%)、「漢字字典」(3.7%)が高等教育・学校教育以外に比べて使われていない。「その他」としては、「教科書」「カフェ(インターネット上の同好会)」「ドラマ」などが挙げられた。

〈学Q5〉

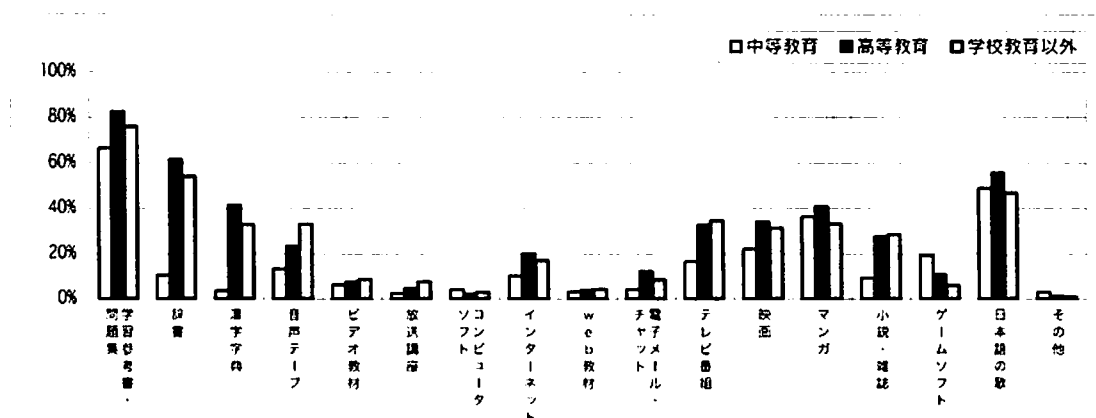


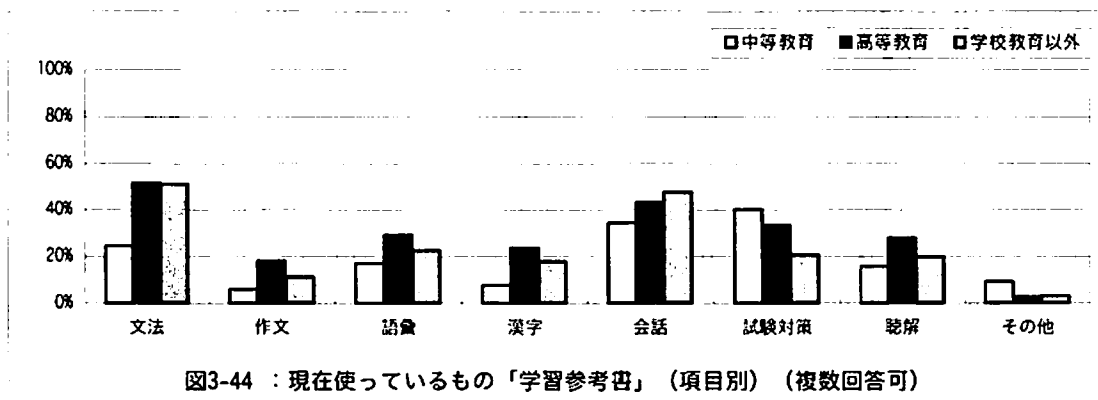
図3-43：日本語学習のために現在使っているもの（項目別）（複数回答可）

3-6-1. 日本語学習のために現在使っている学習参考書・問題集

3-6で、「学習参考書・問題集」と答えた4,408人に、具体的にどのようなものかを尋ねたところ、全体的に①「文法」・「会話」(40.4%)、③「試験対策」(33.9%)の順になっている。所属別にみると、図3-44のように中等教育では「文法」(24.5%)が比較的少なく、学校教育以外では「試験対策」(20.6%)が少ない。

なお、中学校は①「会話」(36.8%)、②「試験対策」(21.7%)、③「文法」(18.4%)となっている。

〈学Q5〉



3-7. 今後の充実を希望するものについて

ここでは、日本語学習や日本理解のために、今後さらに充実を希望するものとしてどのようなものがあるのかについて、学習者に尋ねた結果をまとめる。

今後の充実を希望するものとして、全体として①「留学の機会」(38.9%)、②「日本語の映画」(37.7%)、③「学習参考書・問題集」(37.4%)、④「日本人との交流会」(34.1%)、⑤「日本語のテレビ番組、日本人家庭への訪問・ホームステイ」(32.5%)の順に高い(表3-23)。所属別にみても、図3-45のように同様の傾向となっている。中等教育では「辞書」が15.3%、「日本語を使うアルバイト」が12.0%と低い。「その他」としては、「日本の歌」等が共通して挙げられた。

また、希望するものの中でも「特に希望するもの」について尋ねたところ、「留学の機会」「日本人との交流会」「家庭訪問・ホームステイ」の3つが共通して多かった。

なお、中学校は①「映画」「留学の機会」(各24.6%)、③「テレビ番組」(22.1%)で、特に希望するものは①「留学の機会」(16.8%)、②「ゲームソフト」「教科書」(各8.4%)となっている。(学Q6)

〈表3-23：今後の充実を希望するもの〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	留学の機会 (38.9)	日本語の映画 (37.8)	留学の機会 (46.5)	学習参考書・問題集 (41.3)
2位	日本語の映画 (37.7)	留学の機会 (34.7)	学習参考書・問題集 (44.0)	日本人との交流会 (38.2)
3位	学習参考書・問題集 (37.4)	学習参考書・問題集 (30.7)	日本語を使うアルバイト (41.7)	日本語のテレビ番組 (37.6)
4位	日本人との交流会 (34.1)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (27.5)	日本人との交流会 (40.9)	日本語の映画 (36.5)
5位	日本語のテレビ番組/ 日本人家庭への訪問・ ホームステイ (32.5)	日本人との交流会 (27.2)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (39.2)	留学の機会 (34.0)

(複数回答可)

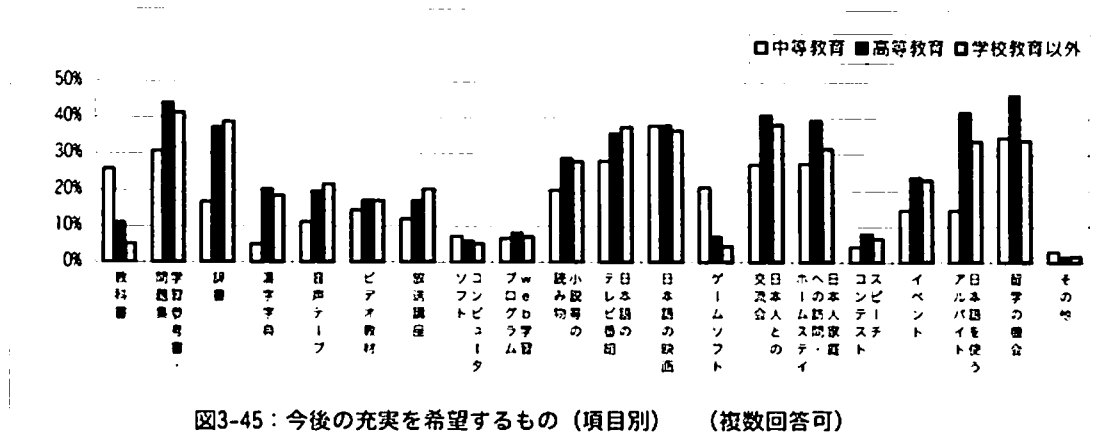


図3-45：今後の充実を希望するもの（項目別）（複数回答可）

3-7-1. 今後の充実を希望する学習参考書・問題集

3-7で、「学習参考書・問題集」と答えた2,375人に、具体的にどのようなものを尋ねたところ、全体的に①「会話」(49.9%)が最も高い、「その他」としては「全て」「聴解」などが挙げられた。なお、中学校は①「会話」(36.8%)、②「試験対策」(21.7%)、③「文法」(18.4%)となっている。

(学Q6)

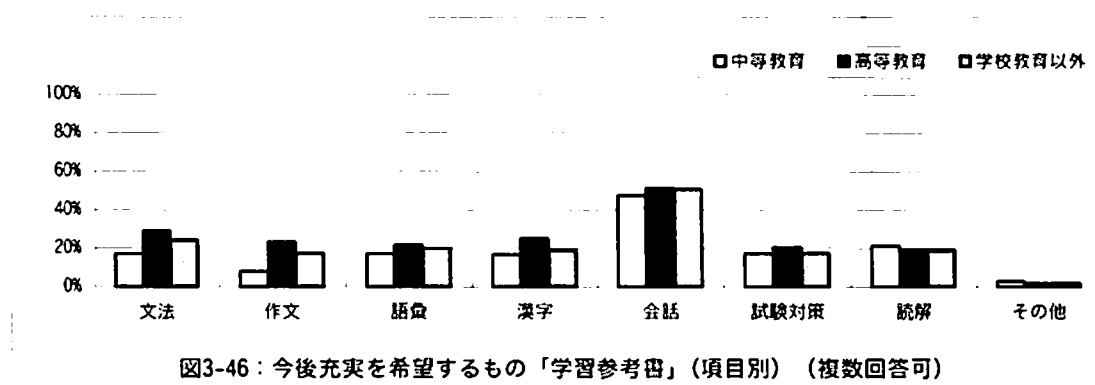


図3-46：今後充実を希望するもの「学習参考書」(項目別) (複数回答可)

3-7-2. 今後の充実を希望する辞書

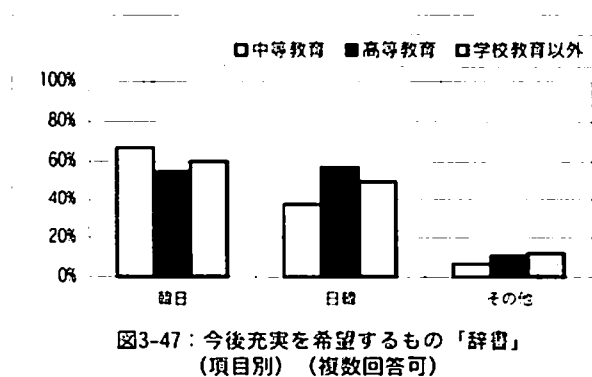


図3-47：今後充実を希望するもの「辞書」(項目別) (複数回答可)

3-7で、「辞書」と答えた1,780人に、具体的にどのようなものを尋ねたところ、中等教育では「韓日辞典」の方が「日韓辞典」よりも高く、高等教育・学校教育以外では「日韓辞典」「韓日辞典」が同程度となっている(図3-47)。なお、中学校は①「韓日辞典」(63.4%)、②「日韓辞典」(36.6%)となっている。

(学Q6)

第4章 集計結果：教師

概要と要約

本章では、「教師」の集計結果について報告する。本章の構成は5節からなるが、第3章と同様に具体的な結果を報告する前に、ここでまず各節で取り上げる調査内容とその結果を要約してまとめ、本章全体の概要がわかるように示してある。各節の詳細については、4-1以降の各節を参照されたい。なお、各節の集計結果が、実際に使用した調査票（巻末資料）の中のどの項目に対応するかがわかるように、各節の最後に項目番号を入れた。例えば、「〈教F1〉」は「教師用調査票の項目番号F1」を示す。

集計結果は以下の2つの観点でまとめている。

- (1) 国籍別：「韓国人教師」と「日本人教師」の2つに区分して比較・集計した。
- (2) 所属別：1-9（p.5参照）で述べたように、本報告書では「中等教育」「高等教育」「学校教育以外」の3つに区分して比較・集計した。

本調査における教師の所属別有効回答数とその内訳は表4-1のとおりである。学校教育以外の回答数が比較的低いこと、そして特に中等教育の日本人教師については6人と少ないため、4-1以降のデータの解釈には注意を要する。

〈表4-1：回答者数・内訳〉（ ）内は%

	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	631 (100.0)	236 (37.4)	282 (44.6)	113 (17.9)
〈内訳〉				
韓国人教師	527 (83.5)	230 (97.5)	230 (81.6)	67 (59.3)
日本人教師	104 (16.5)	6 (2.5)	52 (18.4)	46 (40.7)

〔要約〕：4-1. 教師について

- ・性別：女性 66.0% > 男性 34.0%
- ・年齢：韓国人教師は30・40代（計75.0%）が多く、日本人教師は20・30代（計69.9%）が多い。
- ・母語：韓国人教師「韓国語」100%、日本人教師「日本語」100%。
- ・日本語学習歴（韓国人教師対象）：
全体的に「4～6年」（30.7%）と「10～19年」（33.5%）が多い。所属別では、中等教育・学校教育以外は「4～6年」（45.4%・43.6%）、高等教育では「10年以上」（55.9%）が多い。
- ・訪日経験の有無（韓国人教師対象）：全体で「はい」と答えた人が94.0%と所属に共通して多い。
- ・訪日目的（韓国人教師対象）：
中等教育が「観光」（29.1%）「国際交流」（19.5%）の順、高等教育・学校教育以外では「長期留学」（53.1%・31.0%）「観光」（15.4%・23.8%）の順に多い。
- ・日本語教育経験：
韓国人教師・日本人教師ともに所属に共通して「中堅（3～20年未満）」の経験者が多い。
- ・日本語以外の教育経験の有無：
国籍に共通して「いいえ」と答えた人が韓国で77.6%、日本で76.1%と多い。

・日本語力（韓国人教師対象）

読むこと：共通して「辞書を使って新聞や雑誌，興味のある分野の本などがだいたい理解できる」が多いが，高等教育では「母語と同じように読める」（45.8%）も多い。

書くこと：中等教育では「友人や身近な人への手紙を書くことができる」（43.4%）「改まった手紙・レポートなど，まとまった文章が書ける」（39.2%）が多く，高等教育・学校教育以外では「改まった手紙・レポートなど，まとまった文章が書ける」（53.9%・65.5%）が最も多い。

聞くこと：中等教育では「会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる」（44.3%），高等教育・学校教育以外では「テレビニュース，学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる」（47.6%・71.4%）が最も多い。また，高等教育では「母語と同じように聞いて理解できる」も40.3%と多い。

話すこと：中等教育では「日常生活に困らない程度の表現を使える」（52.8%），高等教育・学校教育以外では「自分の意見や考えをまとめて話すことができる」（54.5%・63.6%）が最も多い。

・日本語教育を始めた理由：

韓国人教師は「自分の専攻を生かすため」が多い。日本人教師は多様で，傾向は見られない。

・日本語教育に関する学会等への参加の有無：

韓国人教師の57.5%，日本人教師の68.0%が「はい」。所属別では，韓国人教師は中等教育がほぼ半々，高等教育が「はい」が73.0%と多いのに対して，学校教育以外では「いいえ」が71.2%と多い。日本人教師は所属に共通して「はい」が多く，特に高等教育で78.4%と多い。

・日本語教育に関する研修経験の有無：

韓国人教師「いいえ」59.0%，日本人教師「いいえ」66.7%。所属別では，韓国人教師は中等教育で「はい」（66.4%）が多い。

・研修を受けた回数：所属に共通して「1～2回」程度が韓国人教師52.6%，日本人教師48.1%で多い。

〔要約〕：4-2. 授業について

・授業で使うもの：

「市販の教科書」「生教材」「プリント教材（自作）」「音声テープ（市販）」が比較的多く使われ，「音声テープ（自作）」「ビデオ（自作）」はほとんど使われていない。国籍・所属別では，あまり大きな違いは見られない。

・生教材：

「テープ・CD」と「ビデオ」が共通して多く使われている。国籍別では，どの項目についても日本人教師の方が使う割合が高く，特に「新聞」「雑誌」「テレビ番組」でその傾向が強い。所属別では，韓国人教師は中等教育で「インターネット」（58.1%）「写真」（58.5%）「テープ・CD」（83.9%）を他の所属に比べて多く使っているが，逆に「新聞」（9.2%）「雑誌」（21.7%）「本」（21.2%）が低い。高等教育では「新聞」（40.9%）「テレビ番組」（38.4%）が他の所属に比べて使われているが，「テープ・CD」（57.6%）は逆に比較的低い。日本人教師は，中等教育で「写真」（83.3%）「マンガ」（66.7%）を他の所属に比べて多く使っているが，「テレビ番組」（33.3%）が比較的低い。高等教育では「インターネット」（36.0%）が比較的低い。学校教育以外では「新聞」「雑誌」（ともに68.9%）が他の所属に比べて多く使われている。

・生教材を使う理由：

「学習者の興味・関心をひくため」「日本の事物や文化に触れさせるため」「学習者に本物の日本語に触れさせるため」が多い。

・自作教材：

全体的に「練習問題などのプリント」（51.9%），「学習項目説明のためのプリントなど」（54.3%）が比

較的多い。国籍別では韓国人教師は「コンピュータを使って教える教材」(27.1%)、日本人教師は「活動用補助シート」(46.4%)、「練習問題などのプリント」(66.0%)が比較的多い。

・授業での使用機材：

国籍・所属を問わず、89.8%が使用している。全体的に、①「テープレコーダー」、②「ビデオ」が多い。国籍別では、韓国人教師が「コンピュータ」(51.0%)を使っている。所属別でみると、韓国人教師は中等教育で「コンピュータ」(75.6%)、高等教育で「ビデオ」(75.1%)、学校教育以外で「テープレコーダー」(87.3%)の割合が比較的多い。日本人教師は、所属に共通して「テープレコーダー」の使用が多いが、中等教育では「ビデオ」(50.0%)が比較的低い。

・授業での日本語の使用（韓国人教師対象）

初級レベル：

所属に関係なく、日本語の使用は「一部」に限られている。具体的には「あいさつ」「例文や本文を読む」。全体的に高等教育での日本語使用が低い。

中級レベル：

所属に関係なく、日本語の使用は「一部」に限られている。具体的な使用については初級レベルとあまり変わらない。

上級レベル：

同様に「一部日本語」が高いが、「全て日本語」もみられる。具体的な使用については全体的に学校教育以外でどの項目についても比較的日本語使用が多い。

・授業準備に利用するもの：

国籍別

〈韓国人教師〉

①「教科書」(63.1%)、②「インターネット」(61.4%)、③「日本語辞書」(59.7%)

〈日本人教師〉

①「文法解説書」(76.0%)、②「インターネット」(75.0%)、③「教科書」「日本人の同僚」(67.3%)

国籍別で比較すると、日本人教師の方が「文法解説書」(76.0%)「日本人の同僚」(67.3%)「教師以外の人」(33.7%)を利用する割合が高く、逆に「漢字字典」(36.3%)「日本語学習のための音声テープ」(42.3%)は韓国人教師の方が比較的高い。

所属別

〈韓国人教師〉

中等教育

「教科書に付随した指導書」(70.2%)「日本語学習のための音声テープ」(53.9%)「日本語学習のためのコンピュータソフト」(35.1%)「インターネット」(74.1%)「参加した研修会での資料等」(40.4%)が他の所属に比べて使われており、逆に「文法解説書」(32.0%)「日本人の同僚」(18.0%)はあまり使われていない。

高等教育

他の所属に比べて「教科書に付随した指導書」(22.3%)「日本語の歌」(43.7%)「他の韓国人教師」(22.7%)が低い。

学校教育以外

「漢字字典」(59.1%)が他の所属に比べて利用されている。

〈日本人教師〉

中等教育

人数は少ないが「教科書に付随した指導書」(100%)「日本語学習のための音声テープ」(50.0%)「映画」(66.7%)「日本語の歌」(66.7%)「他の韓国人教師」(83.3%)が他の所属に比べて使われており、逆

に「日本人の同僚」(16.7%)はあまり使われていない。

高等教育

「参考書」(42.3%)の割合が他の所属に比べて低い。

学校教育以外

「教師以外の人」(50.0%)の利用が他の所属に比べて多い。

・日本語教師として重視する能力：

国籍・所属に共通して①「言語教育能力」、②「日本語運用能力」、③「日本語の知識」。

・日本語教師の資質・能力向上のためにするもの

韓国人教師・日本人教師とも「参考書や専門書で勉強する」「他の教師と話す」「異なる指導法・教材をを検討し、経験する」が多く、「他の教師の授業を見学する」「自分の授業を見てもらう」が低い。

・コンピュータの利用方法：

所属・国籍に関係なく「ワープロで教材作成」「インターネットで情報収集」「電子メールの送受信」の割合が高く、その他の項目についてはあまり利用されていない。

・日本語教育へのコンピュータ利用の必要性：全体的に高い。

・日本語教師の資質・能力の向上のために充実を希望するもの：

共通して「日本人との交流」(韓国人教師 69.0%・日本人教師 59.4%)が最も高く、「Web日本語学習プログラム」(韓国人教師 8.9%・日本人教師 5.9%)は低い。国籍別では、「漢字字典」「日本語学習のための音声テープ」「日本語学習のためのコンピュータソフト」「訪日研修」が韓国人教師の方が高い。

所属別では、韓国人教師は「日本語学習のためのコンピュータソフト」(66.1%)「教師間のネットワーク」(56.8%)「研修会」(43.2%)「訪日研修」(76.7%)が中等教育で比較的高い。逆に、学校教育以外では「研修会」(15.4%)が比較的低い。日本人教師は中等教育で「日本語の映画」(66.7%)「日本人との交流」(83.3%)「日本人との交換学習」(83.3%)「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(66.7%)が高く、逆に「研修会」(16.7%)が低い。学校教育以外では、「辞書」(63.6%)の希望が比較的高い。

・充実を希望する「文法解説書」のレベル：

所属・国籍を問わず、初級より中・上級のニーズが高い。特に、日本人教師は上級のニーズが高い。

・充実を希望する「辞書」の種類：

所属・国籍を問わず「韓-日」「日-韓」の希望がほぼ半々。

・充実を希望する「漢字字典」の使用言語：

韓国人教師は韓国語と日本語がほぼ半々となっている。日本人教師は高等教育では韓国語、学校教育以外では日本語のニーズが高い。

・充実を希望する「教師用指導参考書」：

国籍・所属によらず、「クラス活動集(ロールプレイ、ゲーム等)」の希望が多い。

・充実を希望する「コンピュータソフト」：

所属・国籍を問わず「発音」の希望が高い。

(要約)：4-3. 日本語を使ってるのやりとりについて (以下、韓国人教師対象)

・日本語を使ってるのやりとりの有無：

全体で「はい」448人(87.2%)、「いいえ」66人(12.8%)。

・やりとりの相手：

全体的に①「日本語の教師」(269人)、②「知り合い」(263人)が多いが、中等教育のみ、その順位が逆転している。

・やりとりの方法：

「日本語の教師」が相手の場合は、共通して直接会っての「会話」(78.1%)が多い。「知り合い」が相

手の場合は、「会話」(55.5%)「電話」(60.1%)「電子メール」(59.3%)によるやりとりがほぼ同程度に行われている。

・最もよくやりとりをする相手：

全体的に①「日本語の教師」(36.1%)、②「知り合い」(34.8%)の順に多い。

・やりとりをする相手の国籍：「日本人」が86.8%で多く、所属による差はあまりない。

・やりとりをする相手の性別：全体的には61.3%と女性が多い。

・やりとりを始めた頃の日本語力：

中等教育・学校教育以外では「日常会話程度できた」(58.7%・50.8%)、高等教育では「かなりできた」(43.8%)が最も多い。

・やりとりをする頻度：

全体的に「月に2、3回」が38.0%で最も多いが、学校教育以外では「毎日」(23.7%)も同程度に多い。

・やりとりをする手段：

全体的に直接相手と「会って話す」(50.4%)「電話で話す」(49.4%)が多く、「電子メール」は37.2%となっている。

・やりとりをするときの日本語の割合：

共通して「全部日本語」、特に学校教育以外はその割合が高い。

・やりとりの内容：

共通して①「生活について」(62.0%)、②「仕事について」(33.8%)、③「日本語について」(33.1%)の順に多い。

・日本語でやりとりをする理由：

全体的に「日本語能力向上や維持のため」「相手を使うから」が共通して高い。

・授業以外で日本語を使わない理由：「日本語を使う相手がいない」が共通して高い。

(要約)：4-4. 日本語が使われているものとの接触について

・身の回りでの日本語が使われているものの有無：

「はい」(482人・94.7%)が多く、所属による差はない。

・日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無：「はい」と答えた人が99.0%と多い。

・見聞きするもの：

中等教育では、「コンピュータ」(78.4%)が最も多く、「新聞」(32.4%)が比較的少ない。高等教育では「本」(81.4%)が最も多く、「CD」(45.2%)が比較的少ない。学校教育以外では「テレビ番組」「雑誌」(各79.7%)が最も多く、「マンガ」(68.7%)も他の所属に比べて多い。

・最もよく見聞きするもの：

中等教育では「コンピュータ」(37.3%)、高等教育では「本」(46.1%)、学校教育以外では「テレビ番組」(29.1%)が多い。

・見聞きする頻度：

全体的に「毎日」(47.7%)が最も多いが、中等教育では「週2、3回」(35.2%)も同程度に多い。

・見聞きするものの所有者：共通して「自分」(72.8%)が最も多い。

・見聞きするものの内容：

全体的に「日本語・日本語学習」(45.4%)、「スポーツ・趣味」「文化・芸術」(各43.8%)が高い。

・見聞きする理由：

共通して「日本語能力の向上や維持のため」「様々な情報が得られるから」「日本や日本人について知ることができるから」が比較的高く、逆に「仕事のため」が低い。

(要約)：4-5. 利用経験のある機会や場所について

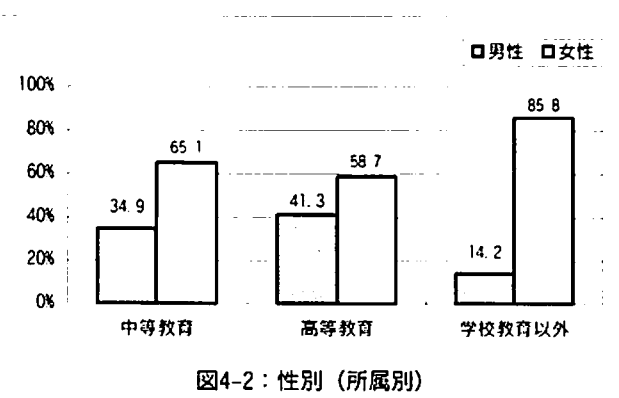
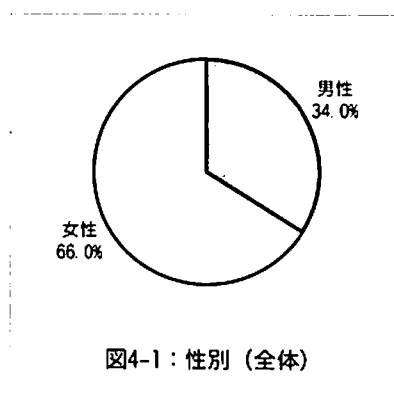
- ・利用経験の有無：「はい」445人(91.6%)、「いいえ」41人(8.4%)。
- ・利用経験のある機会や場所(韓国国内)：
中等教育では「日本・日本語に関する資料センター・図書館」(47.6%)、高等教育では「日本人との交流会」(50.9%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(81.1%)が最も多い。
- ・利用経験のある機会や場所(日本国内)：
全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(63.6%)、②「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(58.9%)、③「日本人との交流会」(57.8%)の順となっている。所属別では、中等教育で「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」「日本・日本語に関する資料センター・図書館」がそれぞれ42.0%・20.5%と比較的低い。学校教育以外では、「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」が59.3%と比較的高い。
- ・再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無：「はい」が91.1%で所属に共通して多い。
- ・再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所：
①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(29.0%)、②「日本人との交流会」(28.4%)が共通して多い。

4-1. 教師について

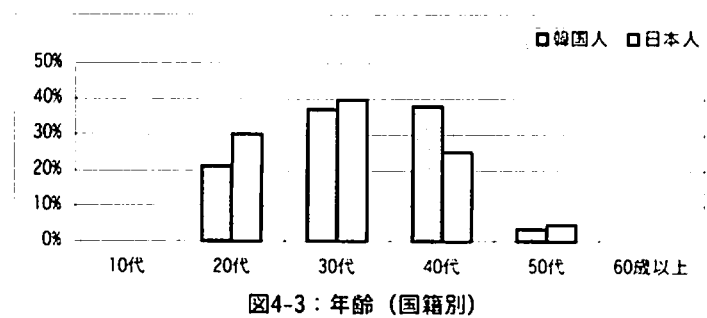
ここでは、本調査に回答した教師の性別、年齢、母語、日本語学習歴、訪日経験とその目的、日本語教育経験、専門領域、日本語力、日本語教育動機、研修歴等の基礎的情報について尋ねた結果を報告する。

4-1-1. 性別

図4-1のように、全体で見ると女性教師が66.0%で、所属・国籍に共通して多く、図4-2のように、特に学校教育以外では女性の割合がかなり高い。 (教F1)

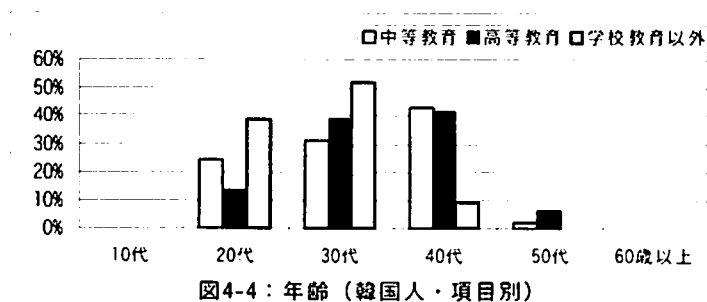


4-1-2. 年齢



年齢は、図4-3のように全体として韓国人教師は30・40代（計75.0%）が多く、日本人教師は20・30代（計69.9%）が多い。

(教F3)



韓国人教師は所属別で見ると、図4-4のように学校教育以外では20・30代（38.8%・52.2%）が比較的多い。

(教F3)

4-1-3. 母 語

教師の母語は、表 4-2 のように韓国人教師が「韓国語」、日本人教師が「日本語」となっている。

(教 F4)

〈表 4-2：母語〉()内は%

		合 計	韓国人	日本人
回答者数	韓国語	527 (83.5)	527 (100.0)	0 (0.0)
	日本語	104 (16.5)	0 (0.0)	104 (100.0)

4-1-4. 日本語学習歴

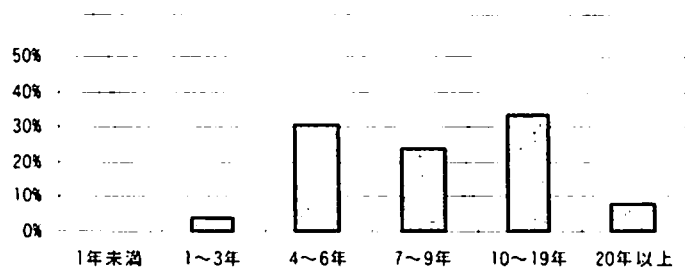


図4-5：日本語学習歴（韓国人全体）

日本語学習歴について韓国人教師に尋ねたところ、「4～6年」(30.7%)と「10～19年」(33.5%)が比較的多い(図4-5)。(教 F5)

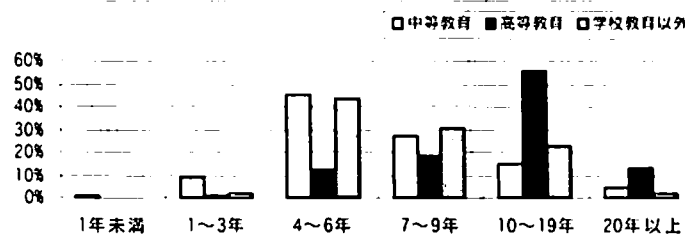


図4-6：日本語学習歴（項目別・韓国人）

所属別にみると、中等教育・学校教育以外は「4～6年」(45.4%・43.6%)、高等教育では「10年以上」(55.9%)が多い(図4-6)。

4-1-5. 訪日経験

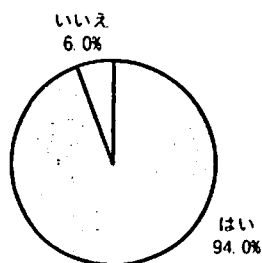


図4-7：訪日経験の有無（韓国人全体）

訪日経験の有無について韓国人教師に尋ねたところ、図 4-7 のように全体で「はい」と答えた人が 94.0%と、所属に共通して経験者が多い。(教 F6)

4-1-6. 訪日目的

訪日目的は、図4-8のように中等教育が「観光」(29.1%)「国際交流」(19.5%)の順に多いのに対して、高等教育・学校教育以外では「長期留学」(53.1%・31.0%)「観光」(15.4%・23.8%)の順に多い。「その他」としては、中等教育で「語学、日本語教育等のための研修」が多く挙げられた。 (教F6)

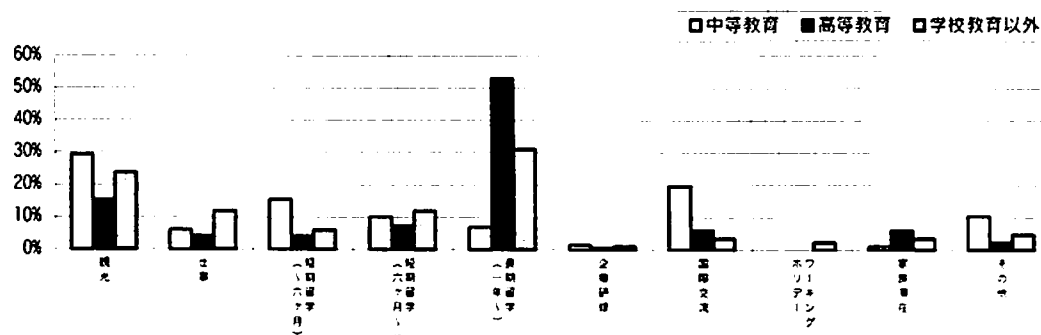


図4-8：訪日目的 (所属別) (複数回答可)

4-1-7. 日本語教育経験

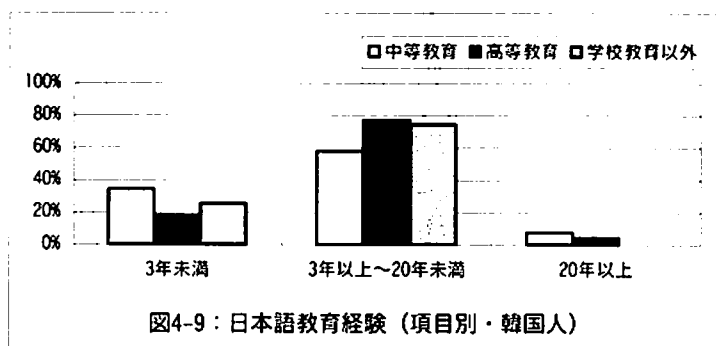


図4-9：日本語教育経験 (項目別・韓国人)

日本語教育経験について尋ねたところ、図4-9のように韓国人教師は所属に共通して「中堅(3年以上〜20年未満)」が57.8・77.2・74.5%と多い。中等教育では「初任(3年未満)」が34.4%と比較的が多い。 (教F7)

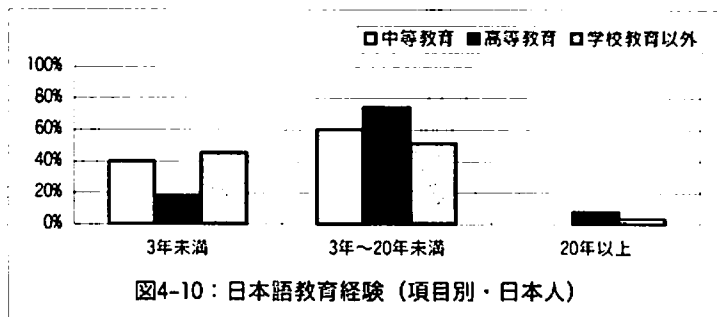


図4-10：日本語教育経験 (項目別・日本人)

日本人教師も、図4-10のように所属に共通して「中堅」60.0・74.4・51.5%が多いが、中等教育・学校教育以外では「初任(3年未満)」も比較的が多い。 (教F7)

4-1-8. 日本語以外の教育経験の有無

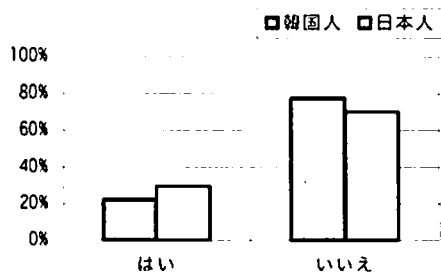


図4-11: 日本語以外の教育経験の有無 (国籍別)

日本語以外の教育経験があるかどうかについて尋ねたところ、図4-11のように国籍に共通して「いいえ」(韓国77.6%・日本76.1%)が多い。

所属別では、図4-12、4-13のように国籍に共通して高等教育(26.5%・38.5%)で経験のある教師が他に比べて多い。(教F8)

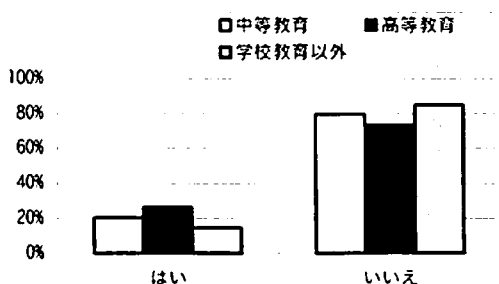


図4-12: 日本語以外の教育経験の有無 (所属別・韓国人)

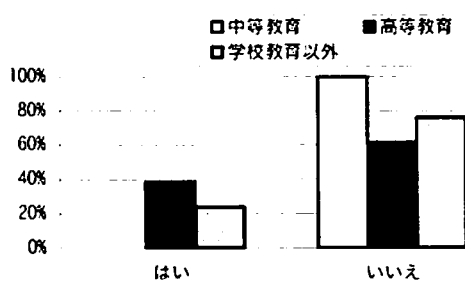


図4-13: 日本語以外の教育経験の有無 (所属別・日本人)

4-1-9. 日本語力

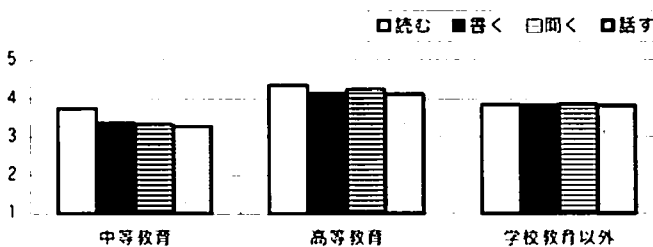


図4-14: 4技能の比較 (所属別・韓国人) (5段階評価平均値)

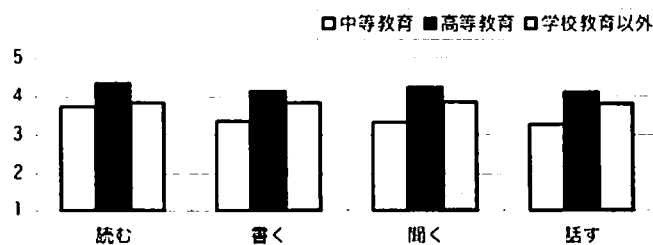


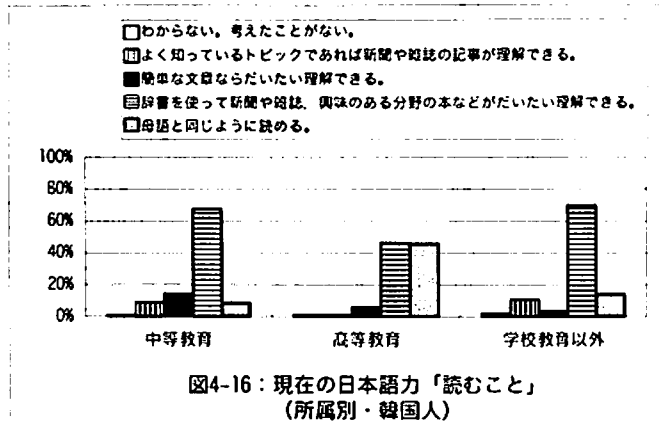
図4-15: 4技能の比較 (項目別・韓国人) (5段階評価平均値)

現在、どれぐらい日本語力があると思うか、韓国人教師に対して4技能について5段階で自己評価してもらった。数値の意味は各技能で異なるが、数値が高いほど、自己評価が高いことを示す。まず、図4-14のように所属別に4技能の平均値を比較したところ、中等教育では3.3~3.8、高等教育では4.1~4.4、学校教育以外では3.8~3.9となっている。

所属別にみると、図4-15のように中等教育<学校教育以外<高等教育の傾向がある。(教F10)

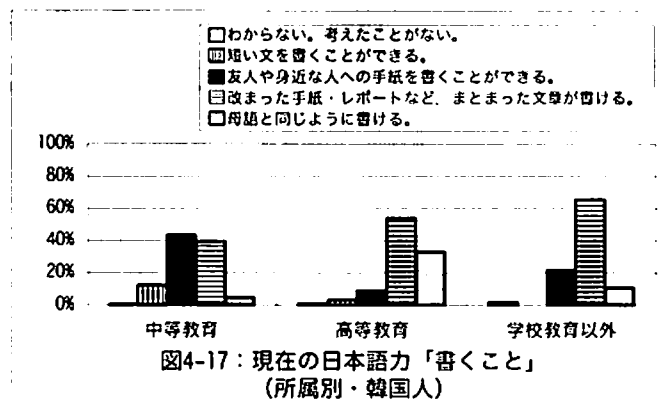
技能別の結果は以下のとおりである。

(1) 「読むこと」



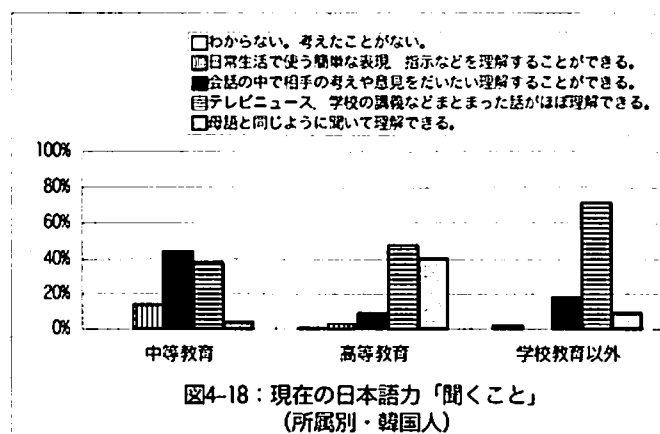
所属に共通して「辞書を使って新聞や雑誌、興味のある分野の本などがだいたいで理解できる」が多いが、高等教育では「母語と同じように読める」が45.8%と多い(図4-16)。

(2) 「書くこと」



中等教育では「友人や身近な人への手紙を書くことができる」(43.4%)と「改まった手紙・レポートなど、まとまった文章が書ける」(39.2%)が多く、高等教育・学校教育以外では「改まった手紙・レポートなど、まとまった文章が書ける」(53.9%・65.5%)が最も多い。また、高等教育では「母語と同じように書ける」が33.0%と比較的多い(図4-17)。

(3) 「聞くこと」



中等教育では「会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる」(44.3%)と「テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる」(38.2%)が多いが、高等教育・学校教育以外では「テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる」(47.6%・71.4%)が最も多い。また、高等教育では「母語と同じように聞いて理解できる」が40.3%と多い(図4-18)。

(4) 「話すこと」

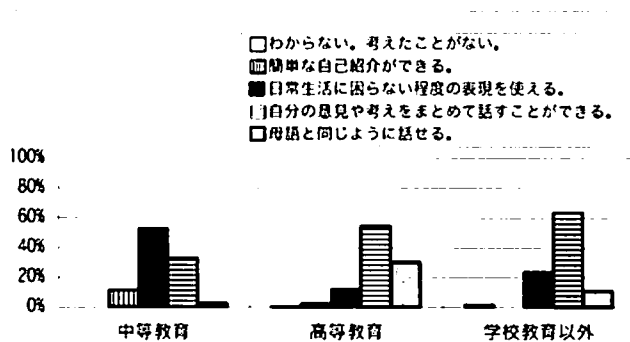


図4-19: 現在の日本語力「話すこと」
(所属別・韓国人)

中等教育では「日常生活に困らない程度の表現を使える」(52.8%)、高等教育・学校教育以外では「自分の意見や考えをまとめて話すことができる」(54.5%・63.6%)が最も多い。また、高等教育では「母語と同じように話せる」が30.4%と比較的多い(図4-19)。

4-1-10. 日本語教育を始めた理由

日本語教育を始めた理由や動機について自由記述形式で尋ねた。比較的多かった回答について表4-3にまとめる。韓国人教師は「自分の専攻を生かすため」が多い。日本人教師は多様で、傾向は見られない。

(教F10)

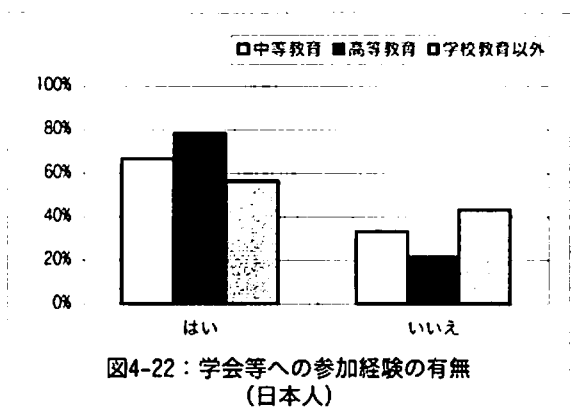
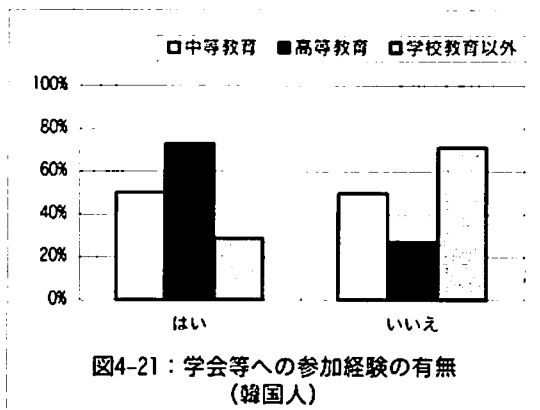
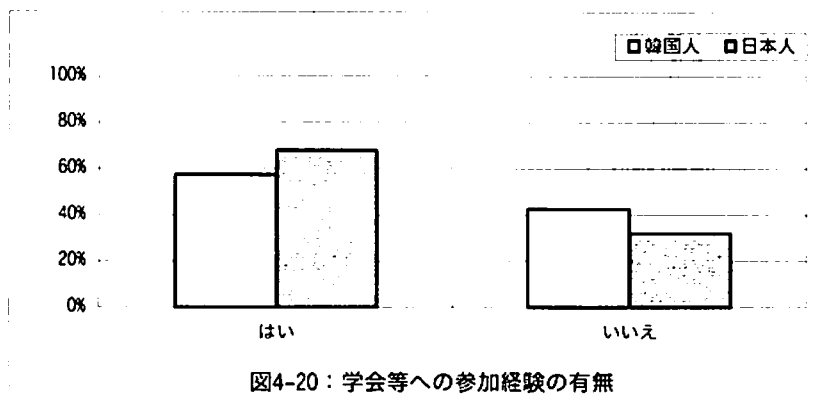
〈表4-3: 日本語教育を始めた理由(所属別)〉()内は回答数

韓国人教師	日本人教師
中等教育	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専攻を生かすため。(31) ・教師になるのが夢だったから。(25) ・日本語に興味があるから。(21) ・日本・日本文化に興味があるから。(14) ・日本語が好きだから。(13) 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化に興味があったから。(2) ・教える仕事が好きだから。(2)
高等教育	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専攻を生かすため。(30) ・日本語が好きだから。(18) ・日本・日本文化に興味があるから。(15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専攻を生かすため。(4) ・日本語を教えたいから。(3)
学校教育以外	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専攻を生かすため。(7) ・自分にあっているため。(6) ・やりがいがある仕事だから。(6) ・日本語を教えたいから。(6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人と接することができるため。(4) ・日本語に興味があるから。(3) ・韓国で暮らすため。(2)

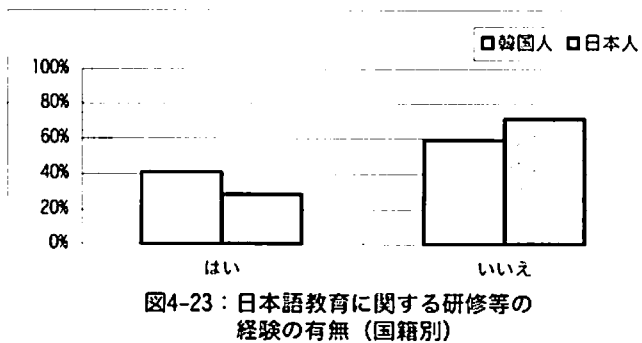
4-1-11. 日本語教育に関する学会等への参加について

過去、日本語教育に関する学会、研究会、教師会などに参加したことがあるかどうかについて尋ねたところ、韓国教師の57.5%、日本人教師の68.0%が「はい」と答えている。一方、「いいえ」と答えた人も、韓国教師で42.5%、日本人教師で32.0%いる(図4-20)。

所属別では、図4-21のように韓国教師は中等教育がほぼ半々、高等教育が「はい」が73.0%と多いのに対して、学校教育以外では「いいえ」が71.2%と多い。日本人教師は図4-22のように所属に共通して「はい」が多く、特に高等教育で78.4%と多い。(教F12)



4-1-12. 日本語教育に関する研修の経験について



過去、日本語教育に関する研修等について受けたことがあるかどうかについて尋ねたところ、韓国教師の59.0%、日本人教師の66.7%が「いいえ」と答えており、経験がない教師の方が多い(図4-23)。(教F12)

〈表 4-4：日本語教育に関する研修等の経験の有無〉(人数)

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
韓 国 人	は い	194	114	41	9
	いいえ	279	73	159	47
	無回答	54	13	30	11
日 本 人	は い	27	0	13	14
	いいえ	67	6	33	28
	無回答	10	0	6	4

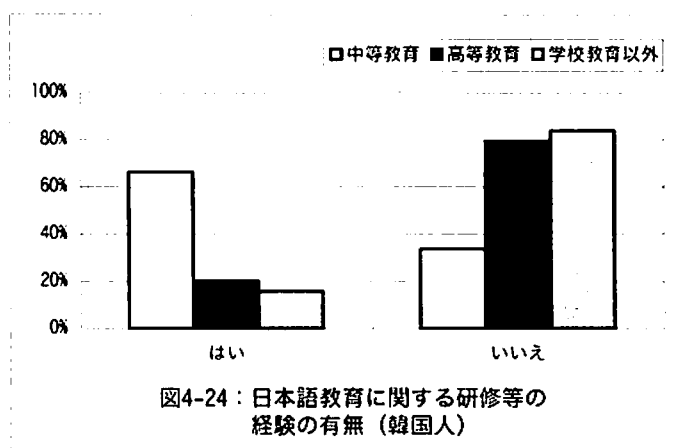


図4-24：日本語教育に関する研修等の経験の有無（韓国人）

所属別では、図 4-24 のように韓国人教師は中等教育で逆に「はい」の方が 66.4%と多くなっている。

〈教 F12〉

4-1-13. 日本語教育に関する研修を受けた回数

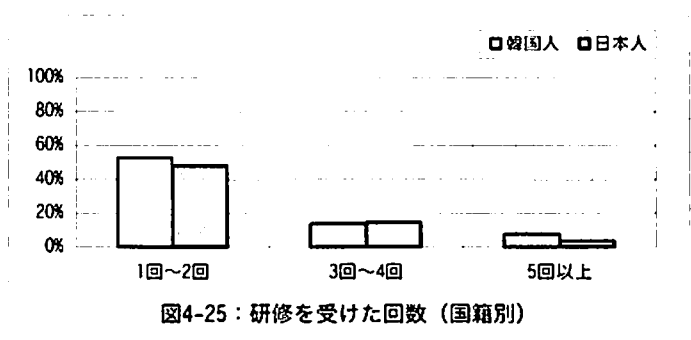


図4-25：研修を受けた回数（国籍別）

4-1-12 で過去に研修を受けたことのある韓国人教師 194 人・日本人教師 27 人に対して、回数を尋ねたところ、所属に共通して、「1～2 回」程度が韓国人教師は 52.6%、日本人教師は 48.1%と多い(図 4-25)。〈教 F12〉

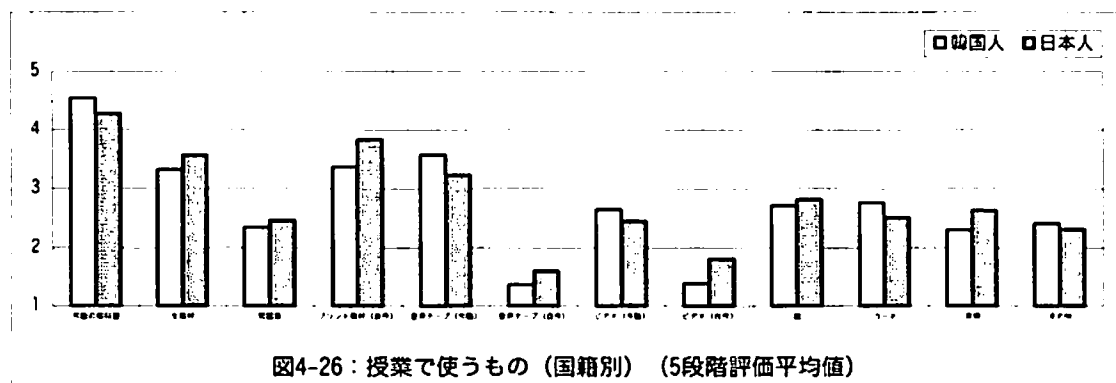
4-2. 授業について

ここでは、教師が普段の授業や授業の準備のために使っているものや、教師としての資質・能力向上のために必要なもの等について、教師に尋ねた結果をまとめる。

4-2-1. 授業で使うもの

授業で使うものについて「いつも使う (5)」～「使わない (1)」の5段階のスケールで尋ねたところ、図4-26のように全体では「市販の教科書」(4.5)「生教材」(3.4)「プリント教材 (自作)」(3.4)「音声テープ (市販)」(3.5)が比較的多く使われ、逆に「音声テープ (自作)」(1.4)「ビデオ (自作)」(1.5)はほとんど使われていない。上位3位までを表4-5に示した。

国籍別では、あまり大きな違いは見られないが、「プリント教材 (自作)」で日本人教師の方が比較的多く使っている傾向がある (図4-26)。 〈教1Q1〉



〈表4-5：授業で使うもの (全体)〉

順位	韓 国 人	日 本 人
1位	市販の教科書 (4.5)	市販の教科書 (4.3)
2位	音声テープ (市販) (3.6)	プリント教材 (自作) (3.8)
3位	プリント教材 (自作) (3.4)	生教材 (3.6)

(5段階評価平均値)

所属別では、図4-27・4-28のようになり、上位3位までを表4-6に示した。全体とあまり大きな違いは見られないが、韓国人教師は高等教育で「音声テープ (市販)」(3.3)「カード」(2.4)が他に比べて比較的低く、学校教育以外で「問題集」(3.1)「プリント教材 (自作)」(4.0)が比較的多く使われている。日本人教師は、人数は少ないが、中等教育で「問題集」(3.3)「ビデオ (自作)」(3.0)が他に比べると多い。「その他」には、中等教育の韓国人教師から「音楽CD」(5名)「パワーポイント資料」(4名)「CD-ROM (アニメ等)」(2名)等が多く挙げられていた。

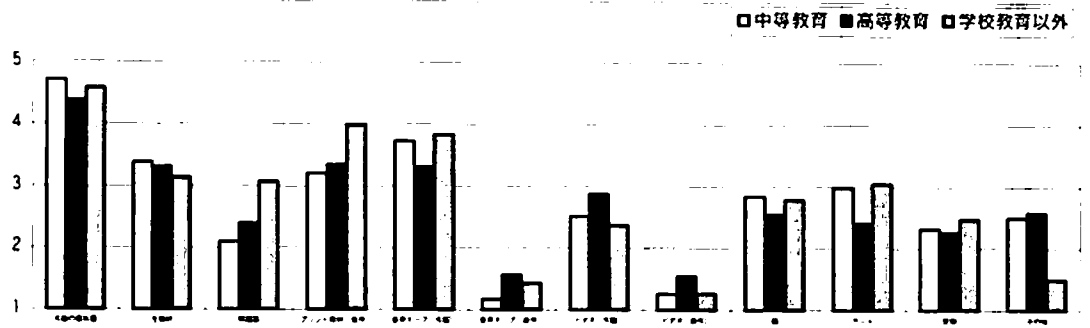


図4-27: 授業で使うもの (項目別・韓国人) (5段階評価平均値)

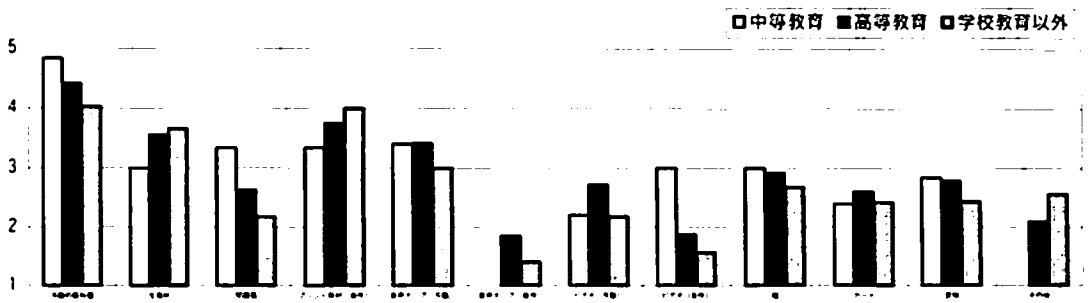


図4-28: 授業で使うもの (項目別・日本人) (5段階評価平均値)

〈表 4-6: 授業で使うもの (所属別)〉

順位	中等教育		高等教育		学校教育以外	
	韓国人	日本人	韓国人	日本人	韓国人	日本人
1位	市販の教科書 (4.7)	市販の教科書 (4.8)	市販の教科書 (4.4)	市販の教科書 (4.4)	市販の教科書 (4.6)	市販の教科書/ プリント教材 (4.0)
2位	音声テープ (市販) (3.7)	音声テープ (市販) (3.4)	プリント教材 (自作) / 生教材 (市販) / 生教材 (3.3)	プリント教材 (自作) (3.7)	プリント教材 (自作) (4.0)	生教材 (3.7)
3位	生教材 (3.4)	プリント教材 (自作) / 問題集 (3.3)	音声テープ (市販) / 生教材 (3.3)	生教材 (3.6)	音声テープ (市販) (3.8)	生教材 (3.7)

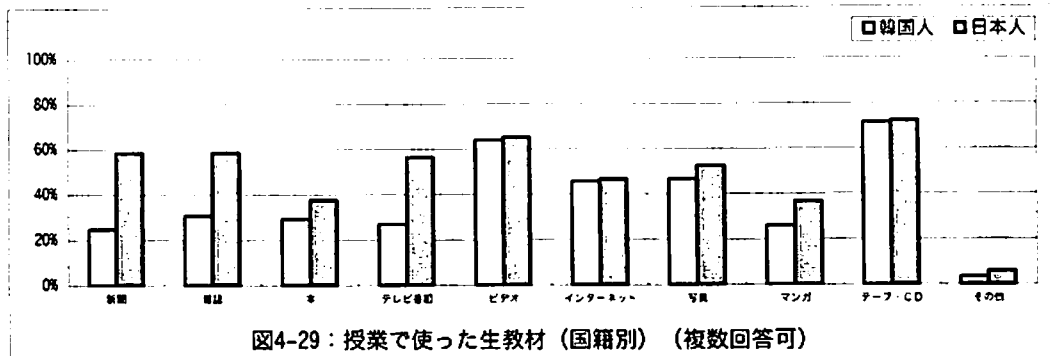
(5段階評価平均値)

4-2-2. 生教材について

4-2-1でこれまでの授業で生教材を使ったことがある教師 570 人に対して、どのようなものを具体的に使ったのかについて尋ねたところ、「テープ・CD」と「ビデオ」が共通して多く使われている。

国籍別では、どの項目についても日本人教師の方が使う割合が高く、特に「新聞」「雑誌」「テレビ番組」でその傾向が強い(図4-29)。

(教1Q2)

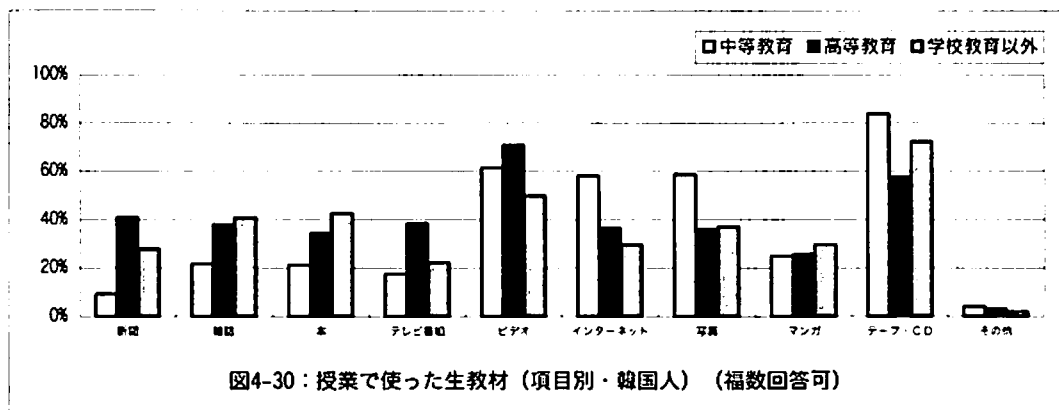


〈表 4-7：授業で使った生教材（全体）〉（ ）内は%

順位	韓 国 人	日 本 人
1位	テープ・CD (71.4)	テープ・CD (72.3)
2位	ビデオ (64.0)	ビデオ (65.3)
3位	写 真 (46.5)	新聞／雑誌 (58.4)

(複数回答可)

所属別では、図 4-30・4-31 のようになり、上位 3 位までを表 4-8 に示した。韓国人教師は図 4-30 のように中等教育で「インターネット」(58.1%)「写真」(58.5%)「テープ・CD」(83.9%)を高等教育・学校教育以外に比べて多く使っているが、逆に「新聞」(9.2%)「雑誌」(21.7%)「本」(21.2%)が低い。高等教育では、中等教育・学校教育以外と比べると「新聞」(40.9%)「テレビ番組」(38.4%)が使われているが、「テープ・CD」(57.6%)は低い。



日本人教師は図 4-31 のように、人数は少ないが中等教育で「写真」(83.3%)「マンガ」(66.7%)を他の所属に比べて多く使っているが、「テレビ番組」(33.3%)が比較的低い。高等教育では「インターネット」(36.0%)が比較的低い。学校教育以外では「新聞」「雑誌」(ともに 68.9%)が他に比べて多く使われている。

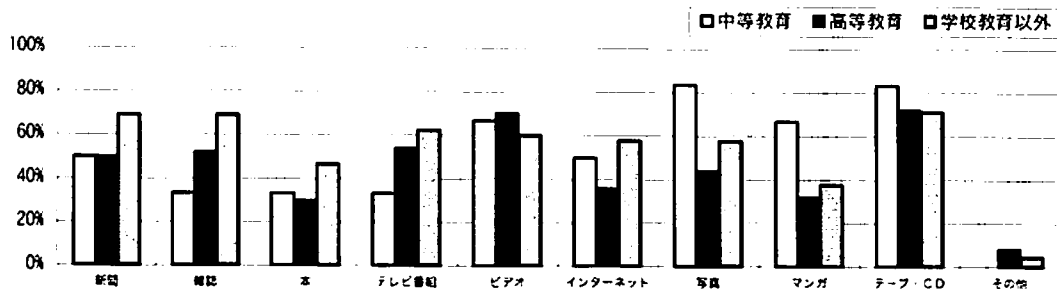


図4-31：授業で使った生教材（項目別・日本人）（複数回答可）

〈表 4-8：授業で使った生教材（所属別）〉（ ）内は%

順位	中等教育		高等教育		学校教育以外	
	韓国人	日本人	韓国人	日本人	韓国人	日本人
1位	テープ・CD (83.9)	テープ・CD/ 写真 (83.3)	ビデオ (70.7)	テープ・CD (72.0)	テープ・CD (72.2)	テープ・CD (71.1)
2位	ビデオ (61.3)		テープ・CD (57.6)	ビデオ (70.0)	ビデオ (50.0)	新聞／雑誌 (68.9)
3位	写真 (58.5)	ビデオ/ マンガ (66.7)	新聞 (40.9)	テレビ番組 (54.0)	本 (42.6)	

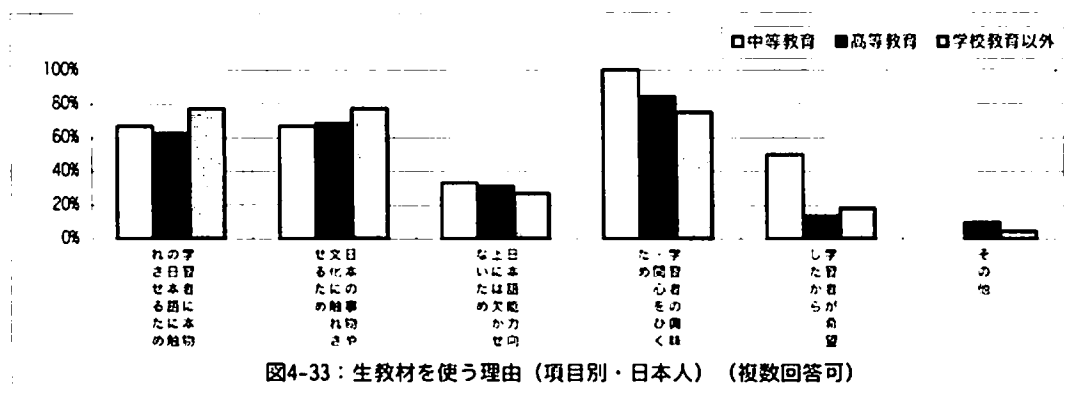
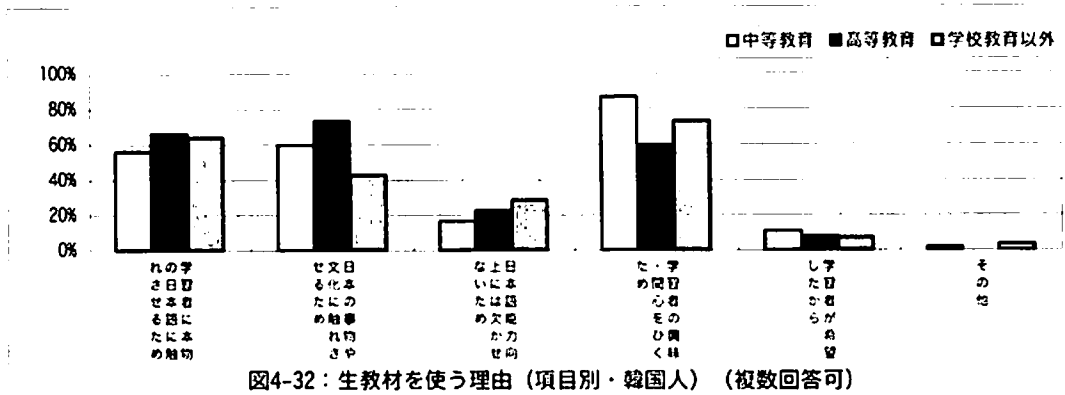
(複数回答可)

「その他」では、少数であるが、「広告、チラシ、パンフレット、カタログ」「手紙、葉書」「メニュー」「地図・路線図」「着物などの生活用品」（各1名）などが挙げられていた。

4-2-3. 生教材を使う理由

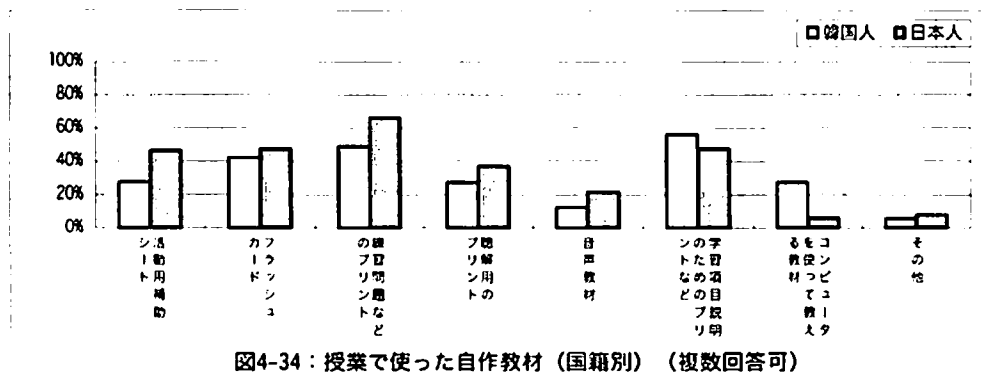
生教材を授業で使う理由について尋ねたところ、全体的に「学習者の興味・関心をひくため」「日本の事物や文化に触れさせるため」「学習者に本物の日本語に触れさせるため」が高い。国籍・所属別では、韓国人教師は、高等教育で「日本の事物や文化に触れさせるため」が最も高く（73.4%）、中等教育・学校教育以外では「学習者の興味・関心をひくため」（86.8%・73.2%）が最も高い。日本人教師は、中等教育で「学習者が希望したから」（50.0%）が他に比べて高い。「その他」には少数であるが、「効果的な授業の目標達成のため」「正確な発音」「良い教材がないため」「学習者のレベルに合う教材がないため」（各1名）などが挙げられた（図4-32、4-33）。

〈教1Q2-1〉

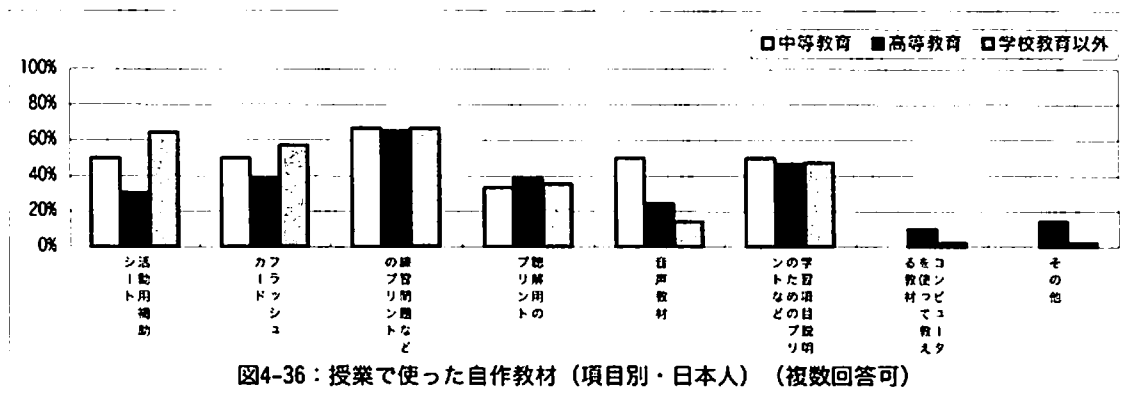
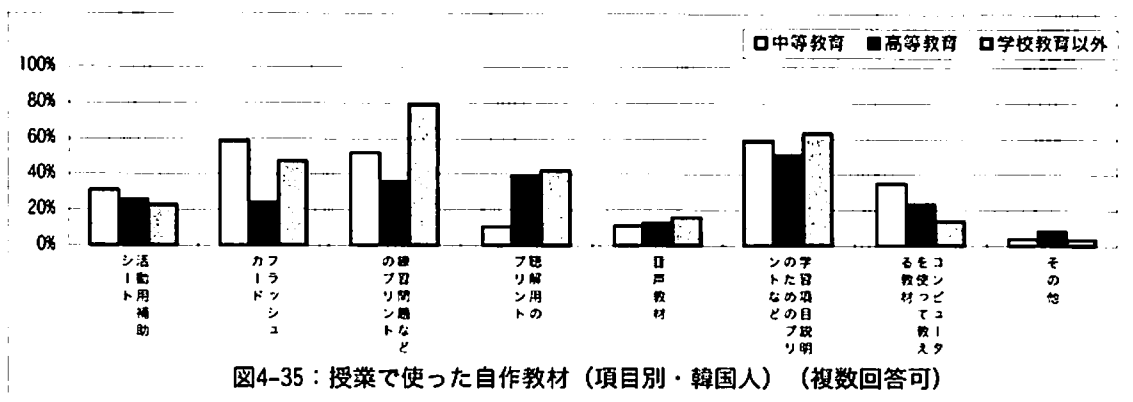


4-2-4. 自作教材について

授業で何らかの自作教材を使ったことがある教師にどのような自作教材を使ったかについて尋ねたところ、全体的に①「練習問題などのプリント」(51.9%)、②「学習項目説明のためのプリントなど」(54.3%)が比較的多かった。国籍別では韓国人教師は日本人教師よりも「コンピュータを使って教える教材」(27.1%)、日本人教師は「活動用補助シート」(46.4%)、「練習問題などのプリント」(66.0%)を韓国人教師より多く使っている(図4-34)。(教1Q3)



所属別では、韓国人教師は中等教育で「聴解用のプリント」(10.5%)を高等教育・学校教育以外に比べてあまり使っていない。高等教育では「フラッシュカード」(24.0%)が中等教育・学校教育以外に比べて使われておらず、学校教育以外では「練習問題などのプリント」(78.9%)が中等教育・高等教育に比べて多く使われている。日本人教師は、高等教育で「活動用補助シート」(30.6%)が中等教育・学校教育以外に比べると使われておらず、中等教育では「音声教材」(50.0%)が高等教育・学校教育以外に比べて多く使われている(図4-35, 4-36)。「その他」には少数であるが、中等教育の韓国人教師から「歌詞などのプリント」(2名)、高等教育の韓国人教師から「日本語文法」(2名)「教科書, 講義テキスト」(3名), 日本人教師から「ビデオ」(3名)「会話教材」(2名)などが挙げられた。



4-2-5. 授業での使用機材について

授業で何らかの機材を使うかどうか尋ねたところ, 図4-37のように「はい」が89.8%と国籍・所属を問わず多い。

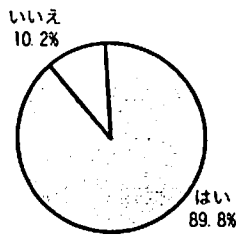


図4-37：授業での機材の使用の有無（全体）

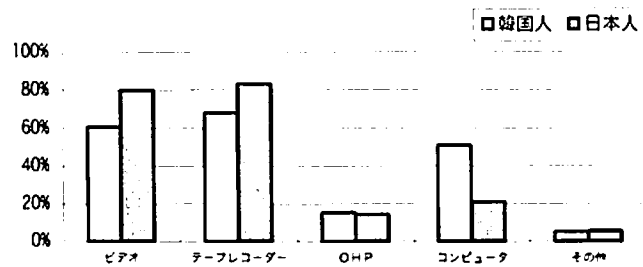


図4-38：授業での使用機材（国籍別）
（複数回答可）

授業で使う機材の種類について尋ねたところ、図 4-38 のように全体的に、①「テープレコーダー」、②「ビデオ」が多い。国籍別では、51.0%の韓国教師が「コンピュータ」を使っている。

〈教I Q4〉

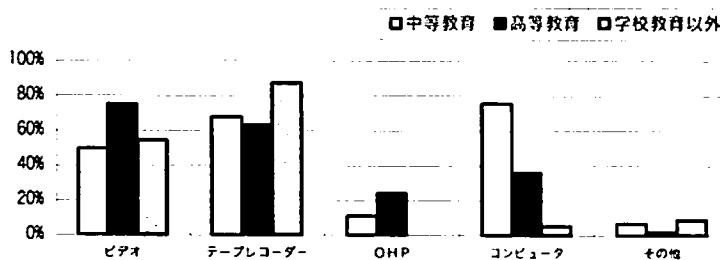


図4-39：授業での使用機材（項目別・韓国）
（複数回答可）

所属別でみると、図 4-39、4-40 のように韓国教師は中等教育で「コンピュータ」(75.6%)、高等教育で「ビデオ」(75.1%)、学校教育以外で「テープレコーダー」(87.3%)の割合が比較的多い。

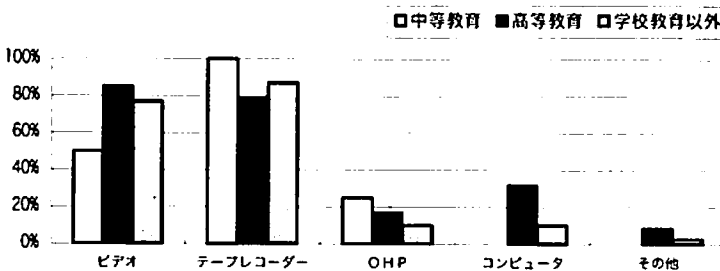


図4-40：授業での使用機材（項目別・日本）
（複数回答可）

日本人教師は、所属に共通して「テープレコーダー」の使用が多い。中等教育では「ビデオ」(50.0%)が高等教育・学校教育以外に比べると低い。また、高等教育では、割合は低いが「コンピュータ」(32.0%)が中等教育・学校教育以外に比べて使われている。

「その他」の回答内容を見ると、「OHP（実物投影機）」(7名)、「CD プレーヤー」(4名)、「プロジェクター」(3名)などの機材が挙げられていた。

4-2-6. 授業での日本語の使用

韓国人教師に授業でどの程度日本語を使うかについて初・中・上級のレベル別に尋ねた。〈教1Q5〉

まず、初級レベルでは図4-41のように、所属に関係なく、日本語の使用は「一部」に限られている。具体的には図4-42のように「あいさつ」「例文や本文を読む」が多い。

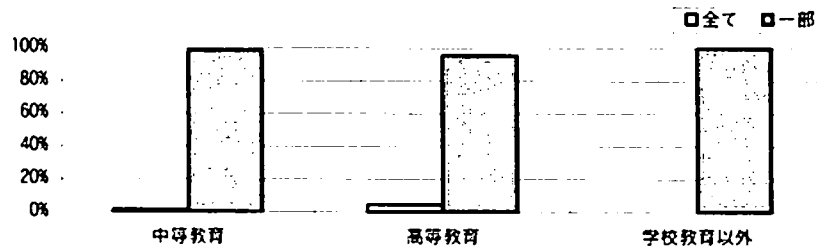


図4-41：授業での日本語の使用（所属別）〈初級〉

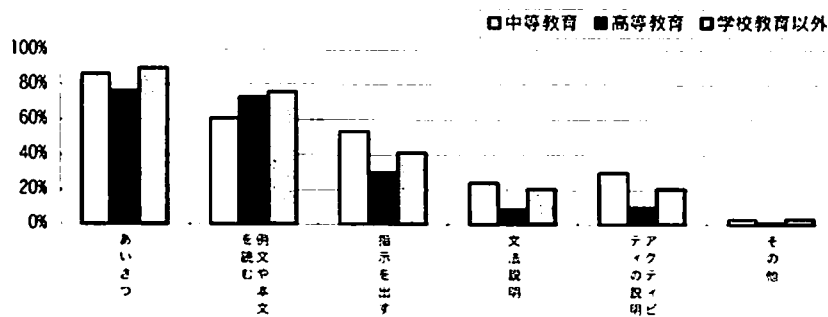


図4-42：授業での日本語の使用（項目別）〈初級〉

中級レベルでも図4-43のように所属に関係なく、日本語の使用は「一部」に限られている。具体的な使用については図4-44のように初級レベルとあまり変わらないが、学校教育以外で「指示を出す」(80.4%)が中等教育・高等教育に比べて日本語使用が多い。

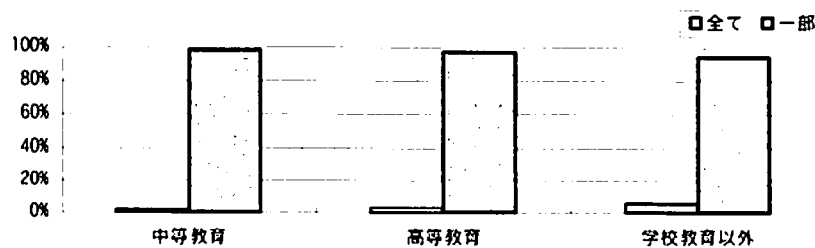


図4-43：授業での日本語の使用（所属別）〈中級〉

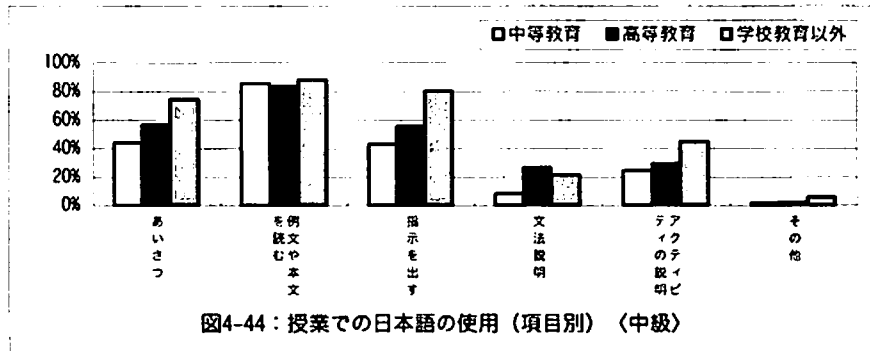


図4-44：授業での日本語の使用（項目別）〈中級〉

上級レベルでも図 4-45 のように「一部日本語」の割合が高いが、「全て日本語」もみられる。具体的な使用については図 4-46 のように全体的に学校教育以外での項目についても比較的日本語使用が多く、「あいさつ」(92.9%)、「例文や本文を読む」(89.3%)、「指示を出す」(92.9%) ではほとんど日本語が使用されている。

「その他」としては少数であるが、「ゲーム時の質問と返事」(1名)などが挙げられた。

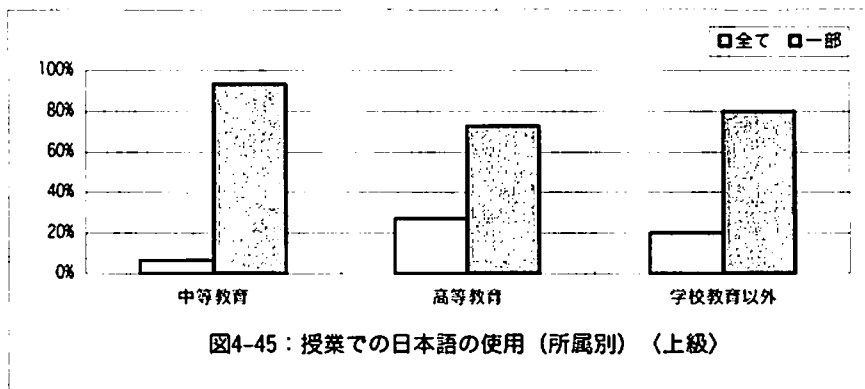


図4-45：授業での日本語の使用（所属別）〈上級〉

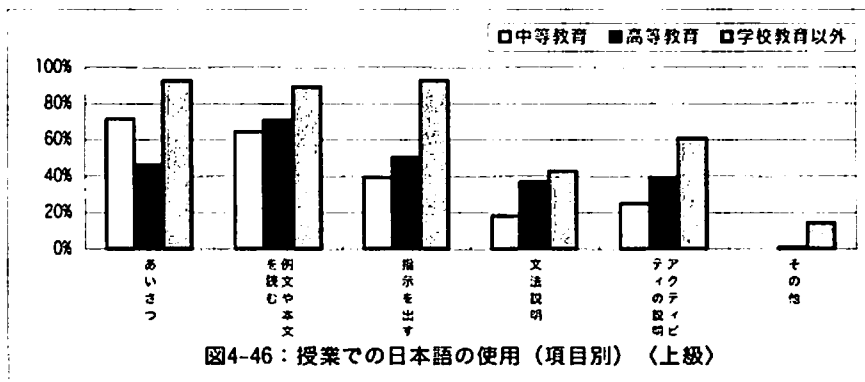
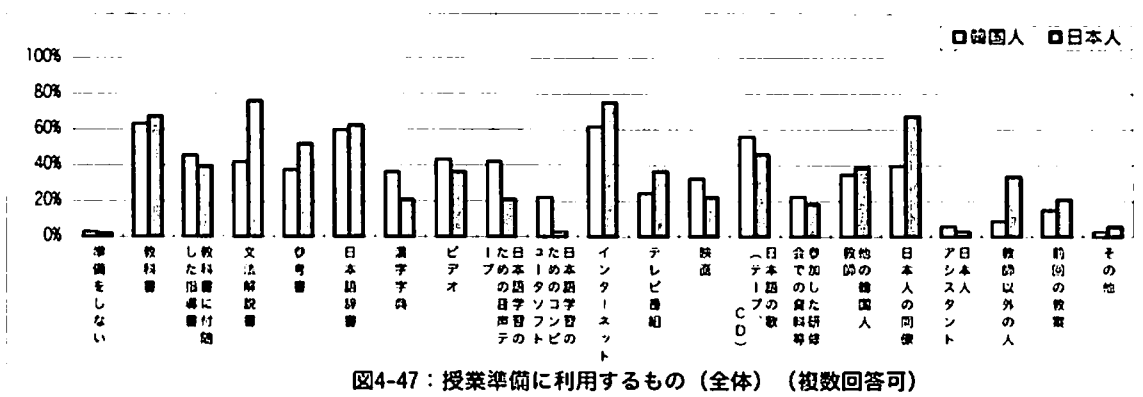


図4-46：授業での日本語の使用（項目別）〈上級〉

4-2-7. 授業準備に利用するもの

授業を準備するときにご利用したり、相談したりするものについて尋ねたところ、図4-47のように韓国教師は①「教科書」(63.1%)、②「インターネット」(61.4%)、③「日本語辞書」(59.7%)、日本人教師は①「文法解説書」(76.0%)、②「インターネット」(75.0%)、③「教科書」「日本人の同僚」(67.3%)の順に多い。国籍別では、日本人教師の方が「文法解説書」(76.0%)「日本人の同僚」(67.3%)「教師以外の人」(33.7%)を利用する割合が高く、逆に「漢字字典」(36.3%)「日本語学習のための音声テープ」(42.3%)は韓国教師の方が比較的高い。「その他」では、少数であるが「日本人の知人・友人」(4名)「国際交流基金の日本語教育専門家」「日本人の恩師」「先輩教授」「日本の大学院生」(各1名)などが挙げられた。

(教106)



〈表 4-9：授業準備に利用するもの（全体）（ ）内は%〉

順位	韓 国 人	日 本 人
1位	教科書 (63.1)	文法解説書 (76.0)
2位	インターネット (61.4)	インターネット (75.0)
3位	日本語辞書 (59.7)	教科書 / 日本人の同僚 (67.3)

(複数回答可)

所属別に見ると、図4-48・4-49のようになり、上位3位までを表4-10に示した。

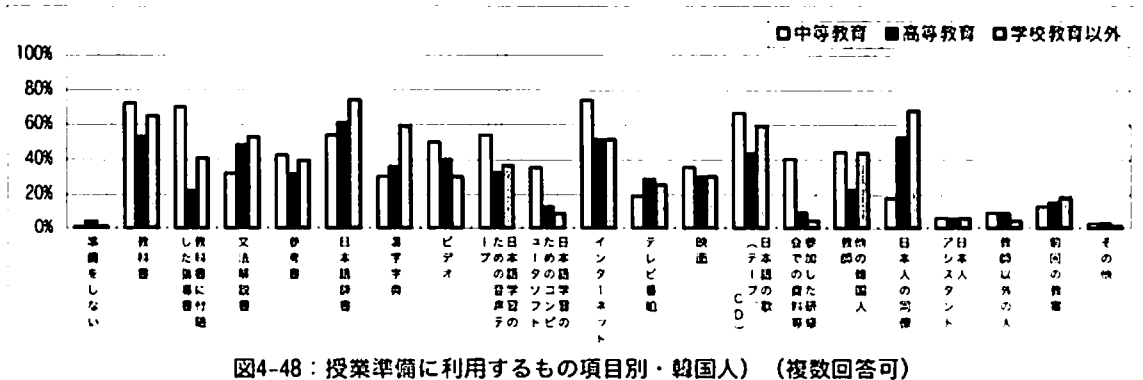




図4-49：授業準備に利用するもの（項目別・日本人）（複数回答可）

〈表 4-10：授業準備に利用するもの（所属別）〉（ ）内は%

順位	中等教育		高等教育		学校教育以外	
	韓国人	日本人	韓国人	日本人	韓国人	日本人
1位	インターネット (74.1)	教科書／文法解説書／インターネット (100.0)	日本語辞書 (61.1)	インターネット (73.1)	日本語辞書 (74.2)	文法解説書 (82.6)
2位	教科書 (72.4)		教科書 (53.3)	教科書 (71.2)	日本人の同僚 (68.2)	日本人の同僚 (80.4)
3位	教科書に付随した指導書 (70.2)		日本人の同僚 (52.8)	文法解説書 (67.3)	教科書 (65.2)	インターネット (73.9)

(複数回答可)

図 4-48 のように中等教育の韓国人教師は「教科書に付随した指導書」(70.2%)「日本語学習のための音声テープ」(53.9%)「日本語学習のためのコンピュータソフト」(35.1%)「インターネット」(74.1%)「参加した研修会での資料等」(40.4%)が他の所属に比べて使われており、逆に「文法解説書」(32.0%)「日本人の同僚」(18.0%)はあまり使われていない。高等教育の韓国人教師は他の所属に比べて「教科書に付随した指導書」(22.3%)「日本語の歌」(43.7%)「他の韓国人教師」(22.7%)が低い。学校教育以外では「漢字辞書」(59.1%)が他の所属に比べて利用されている。

一方、日本人教師は、図 4-49 のようにサンプル数は少ないが、中等教育で「教科書に付随した指導書」(62.5%)「日本語学習のための音声テープ」(50.0%)「映画」(66.7%)「日本語の歌」(66.7%)「他の韓国人教師」(83.3%)が高等教育・学校教育以外に比べて利用されており、逆に「日本人の同僚」(16.7%)はあまり利用されていない。高等教育では中等教育・学校教育以外に比べて「参考書」(42.3%)の割合が低く、学校教育以外では「教師以外の人」(50.0%)の利用が中等教育・高等教育に比べて多い。

4-2-8. 日本語教師としての能力に対する意識

日本語教師としてどのような能力が重要であるかについて「非常に重要」(5)～「重要ではない」(1)の5段階のスケールで尋ねたところ、各項目の平均値は図4-50のようになり、①「言語教育能力」、②「日本語運用能力」、③「日本語の知識」の順に高く、国籍・所属による違いはほとんどみられない。各項目上位3位について表4-11に示したが、項目ごとの差もほとんど見られず重視されている。「その他」では、少数であるが韓国人教師から「学生に対する愛情・理解」(3名)「日本語教育に対する興味」「情熱、親切であること、配慮など」(各2名)「マルチメディアの活用能力」(1名)などが挙げられ、日本人教師からは「外国語能力」(3名)「異文化適応能力」(2名)「プレゼンテーション能力」「協調性」「カウンセリング力」(各1名)などが挙げられていた。

(教1Q7)

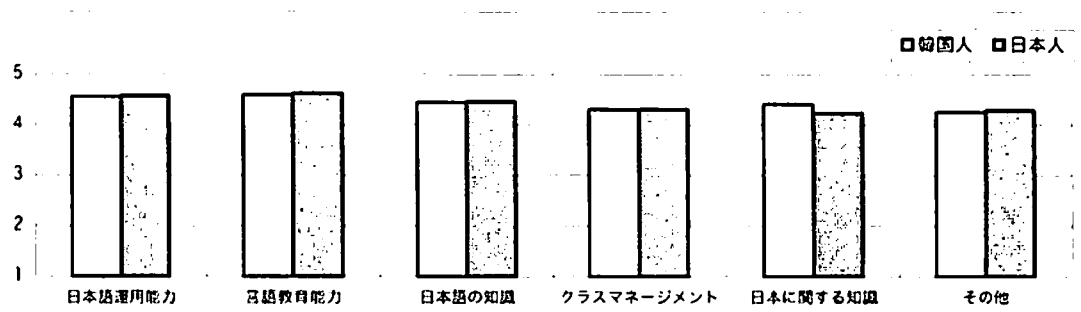


図4-50：日本語教師としての能力に対する意識（国籍別）
(5段階評価平均値)

〈表4-11：日本語教師としての能力に対する意識〉

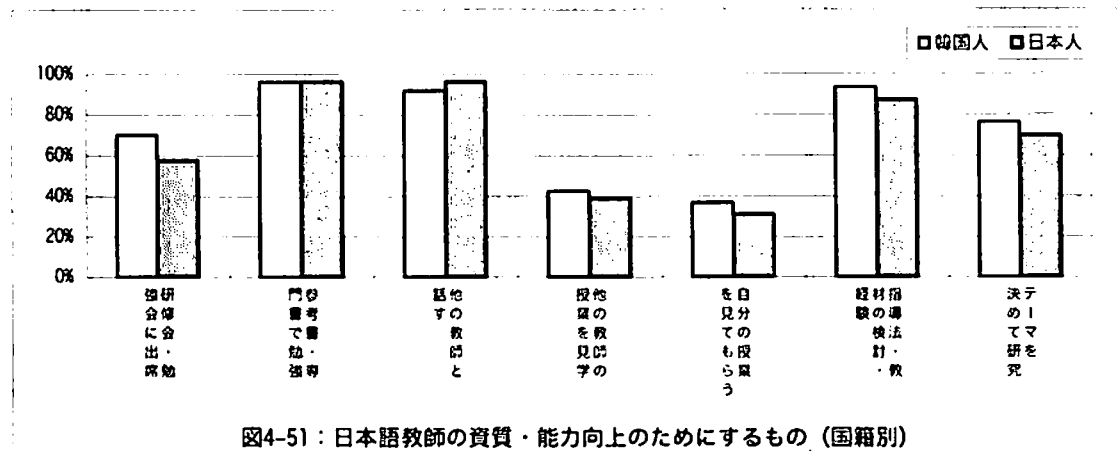
順位	韓 国 人	日 本 人
1位	言語教育能力 (4.6)	言語教育能力 (4.6)
2位	日本語運用能力	日本語運用能力
3位	日本語の知識 (4.5)	日本語の知識 (4.5)

(5段階評価平均値)

4-2-9. 日本語教師の資質・能力向上のためにするもの

日本語教師の資質・能力向上のために実際にしていることについて尋ねたところ、図4-51のように韓国人教師・日本人教師とも「参考書や専門書で勉強する」「他の教師と話す」「異なる指導法・教材を検討し、経験する」が非常に高く、逆に「他の教師の授業を見学する」「自分の授業を見てもらう」が低い。

(教1Q8)



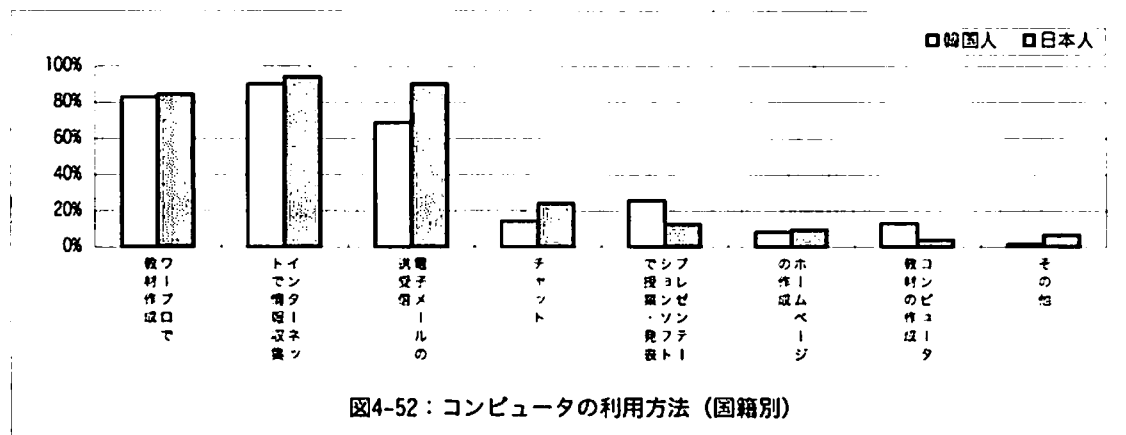
比較的低い項目について、「しない」と答えた教師にその理由を尋ねたところ、国籍・所属に共通して「研究会や勉強会に出席する」については「研究会等の機会がないから」「忙しいから」、「他の教師の授業を見学する」「自分の授業を見てもらう」については「忙しいから」「その他（「機会がないから）」、「テーマを決めて研究する」については「忙しいから」「その他（「時間がないから）」が多かった。

「その他」としては、韓国人教師からは中等教育で「日本での現地研修」「インターネットの活用」「日本人との会話・交流」、高等教育で「日本訪問」「日本人との会話・交流」、日本人教師からは高等教育で「外国語を勉強し学習者の立場になること」等が多く挙げられた。

4-2-10. コンピュータの利用方法

コンピュータの利用方法について尋ねたところ、図4-52のようになり、上位3項目を表4-12に示す。

(教109)



(表 4-12: コンピュータの利用方法) () 内は%

順位	韓 国 人	日 本 人
1位	インターネットを利用して、 情報を収集する (90.2)	インターネットを利用して、 情報を収集する (94.2)
2位	ワープロソフトを使って 教材等を作成する (82.9)	電子メールを送受信する (90.3)
3位	電子メールを送受信する (69.0)	ワープロソフトを使って 教材等を作成する (84.5)

(複数回答可)

国籍に関係なく「ワープロで教材作成」「インターネットで情報収集」「電子メールの送受信」の割合が高く、その他の項目についてはあまり利用されていない。

所属別では、全体的な傾向はあまり変わらないが、韓国人教師は中等教育で「プレゼンテーションソフトで授業・発表」(40.4%)の割合が比較的高く、日本人教師は高等教育で「チャット」(11.8%)の割合が比較的低い。「その他」では、少数であるが中等教育の韓国人教師から「映画、アニメ等を編集し上映する」「CD-ROMを活用して授業をする」(各2名)、高等教育の日本人教師から「論文執筆」(2名)「学校業務(学生管理、成績、指導)」「メーリングリスト」(各1名)などが挙げられた。

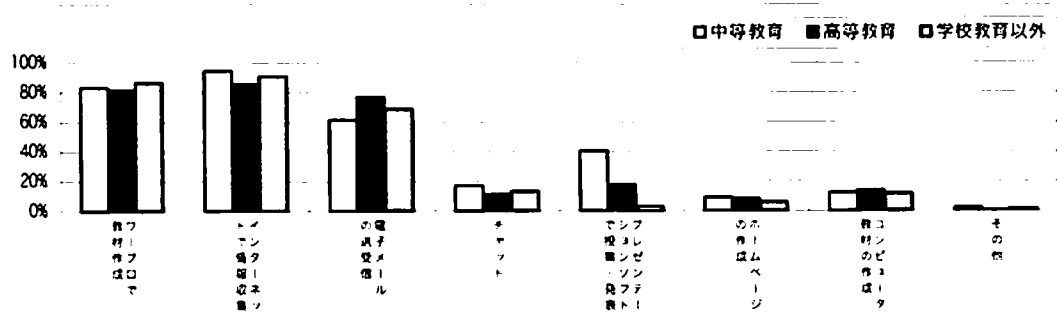


図4-53: コンピュータの利用方法 (項目別・韓国人) (複数回答可)

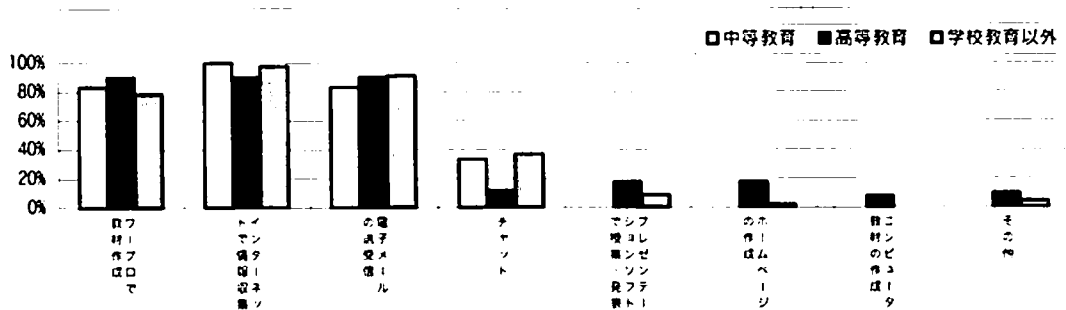
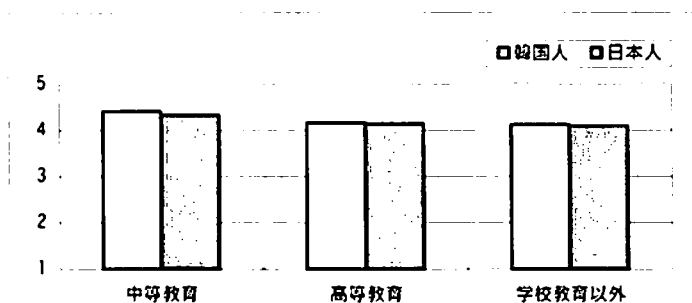


図4-54: コンピュータの利用方法 (項目別・日本人) (複数回答可)

4-2-11. 日本語教育へのコンピュータ利用の必要性



日本語教育のためにコンピュータを利用することは必要かどうかについて5段階（「5.とても必要」～「1.全く必要ない」）で尋ねたところ、図4-55のように国籍・所属に関係なく、韓国人教師・日本人教師とも高い。

（教1Q10）

図4-55: コンピュータ利用の必要性

4-2-12. 日本語教師の資質・能力向上のために充実を希望するもの

今後日本語教師の資質・能力の向上のために充実を希望するものについて尋ねたところ、図4-56のようになり、国籍別の上位3項目は表4-13のようになった。共通して「日本人との交流」（韓国人教師69.0%・日本人教師59.4%）の希望が最も高く、「Web日本語学習プログラム」（韓国人教師8.9%・日本人教師5.9%）の希望は低い。国籍別では、「漢字字典」「日本語学習のための音声テープ」「日本語学習のためのコンピュータソフト」「訪日研修」の希望が韓国人教師の方が高い。

（教1Q11）

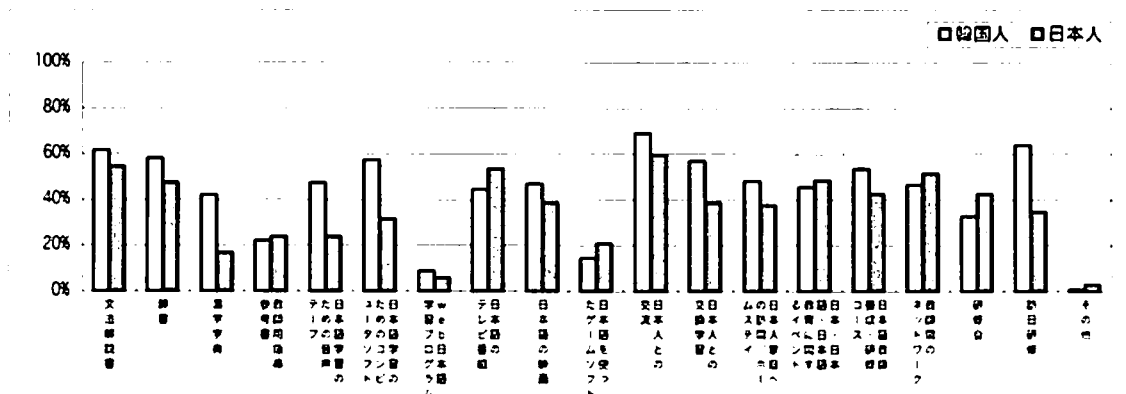


図4-56: 充実を希望するもの（国籍別）（複数回答可）

〈表4-13: 充実を希望するもの〉（ ）内は%

順位	韓 国 人	日 本 人
1位	日本人との交流 (69.0)	日本人との交流 (59.4)
2位	訪日研修 (63.8)	文法解説書 (54.5)
3位	文法解説書 (61.6)	日本語のテレビ番組 (53.5)

（複数回答可）

「その他」としては少数であるが、韓国人教師から「韓日ネイティブの共同授業」「日本語教師の資格の質的な向上」（各1名）、日本人教師からは「日本の文化、風俗を簡単に紹介したVTR・CD-ROM」「ビジネス

ス関係のコミュニケーションの知識に関する概説書」(各1名)などが挙げられた。

韓国人・日本人教師の所属別に見ると、以下のようになる。

韓国人教師

所属別の大きな違いは見られないが、「日本語学習のためのコンピュータソフト」(66.1%)「教師間のネットワーク」(56.8%)「研修会」(43.2%)「訪日研修」(76.7%)の割合が中等教育で比較的高い。逆に、学校教育以外では「研修会」(15.4%)の割合が比較的低い(図4-57)。所属別の上位3項目については表4-14に示した。

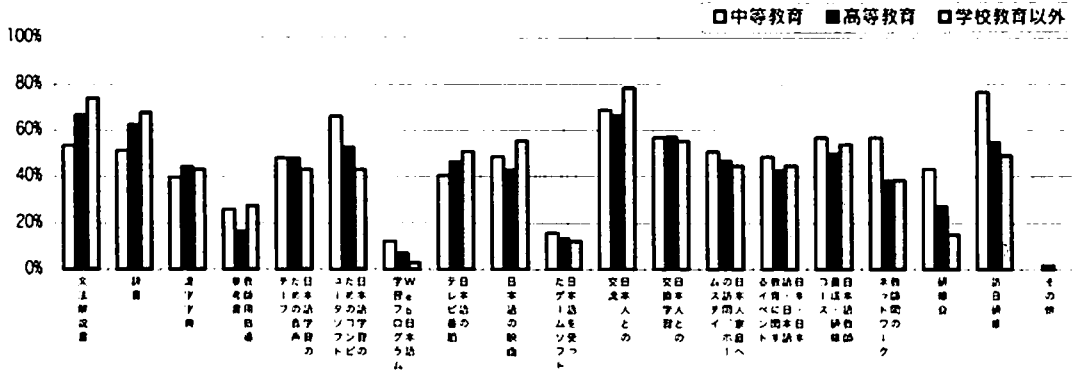


図4-57: 充実を希望するもの (所属別・韓国人) (複数回答可)

表4-14: 充実を希望するもの (韓国人) ()内は%

順位	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	訪日研修 (76.7)	文法解説書/ 日本人との交流 (66.5)	日本人との交流 (78.5)
2位	日本人との交流 (68.7)		文法解説書 (73.8)
3位	日本語学習のための コンピュータソフト (66.1)	辞書 (62.5)	辞書 (67.7)

(複数回答可)

日本人教師

図4-58のように、人数は少ないが中等教育で「日本語の映画」(66.7%)「日本人との交流」(83.3%)「日本人との交換学習」(83.3%)「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(66.7%)の希望が高く、逆に「研修会」(16.7%)が低い。学校教育以外では、「辞書」(63.6%)の希望が比較的高い。上位3項目を表4-15に示した。

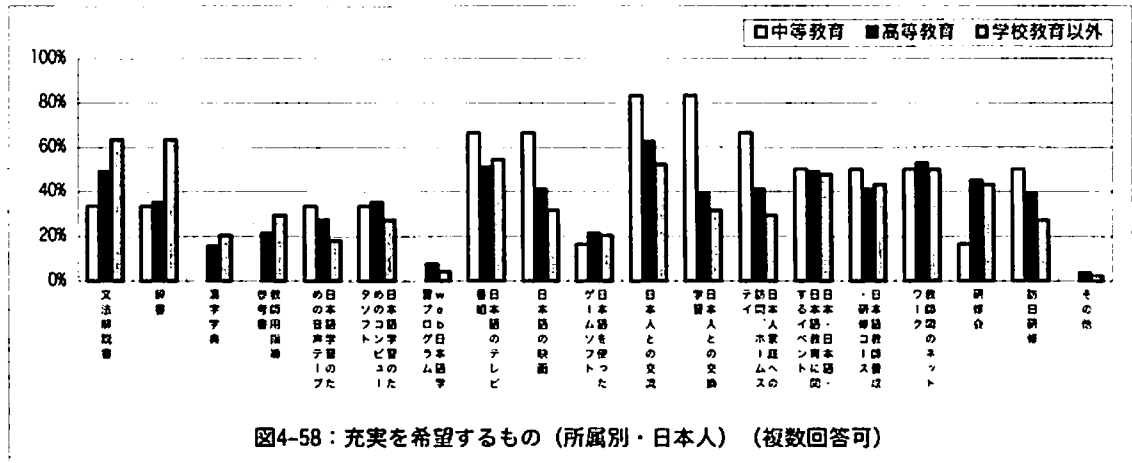


図4-58：充実を希望するもの（所属別・日本人）（複数回答可）

〈表 4-15：充実を希望するもの（日本人）（ ）内は%〉

順位	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人との交流／ 日本人との交換学習 (83.3)	日本人との交流 (62.7)	文法解説書／辞書 (63.6)
2位		教師間のネットワーク (52.9)	
3位	日本語のテレビ番組／日本語 の映画／日本人家庭への訪 問，ホームステイ (66.7)	日本語のテレビ番組 (51.0)	日本語のテレビ番組 (54.5)

(複数回答可)

4-2-12-1. 充実を希望するもの：文法解説書

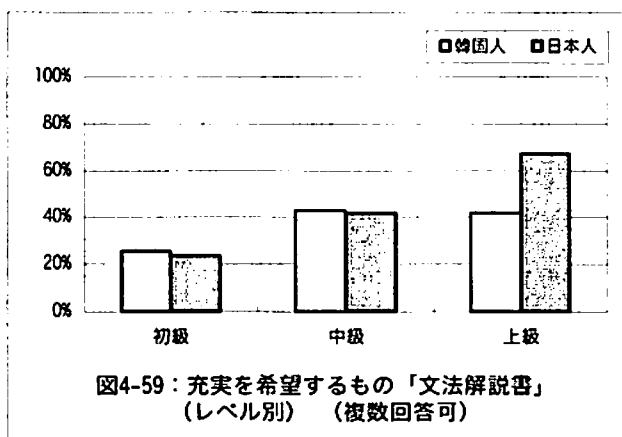
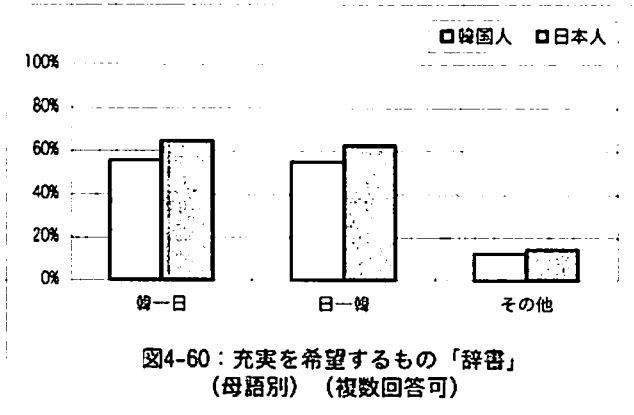


図4-59：充実を希望するもの「文法解説書」
(レベル別) (複数回答可)

今後充実を希望するものとして「文法解説書」を挙げた教師に対し、そのレベルについて尋ねたところ、図 4-59 のように日本人教師も韓国人教師も初級より中・上級のニーズが高い。特に、日本人教師は上級のニーズが高い。所属別による違いはあまり見られない。

(教IQ11)

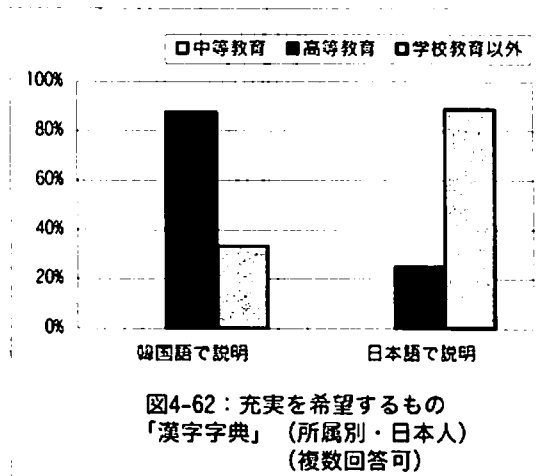
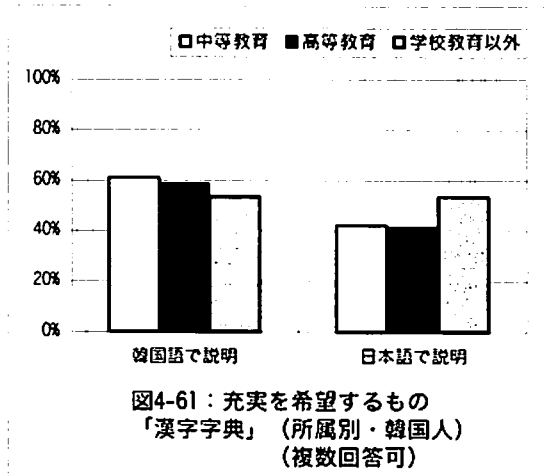
4-2-12-2. 充実を希望するもの：辞書



今後充実を希望するものとして「辞書」を挙げた教師に対し、その種類について尋ねたところ、図 4-60 のように所属に共通して韓国人教師も日本人教師も「韓-日」「日-韓」の希望がほぼ半々となっている。その他としては「日-日」辞典の希望が多かった。(教 I Q11)

4-2-12-3. 充実を希望するもの：漢字字典

今後充実を希望するものとして「漢字字典」を挙げた教師に対し、その使用言語について尋ねたところ、図 4-61 のように韓国人教師は韓国語と日本語がほぼ半々となっている。日本人教師は図 4-62 のように高等教育では韓国語、学校教育以外では日本語のニーズが高い。(教 I Q11)

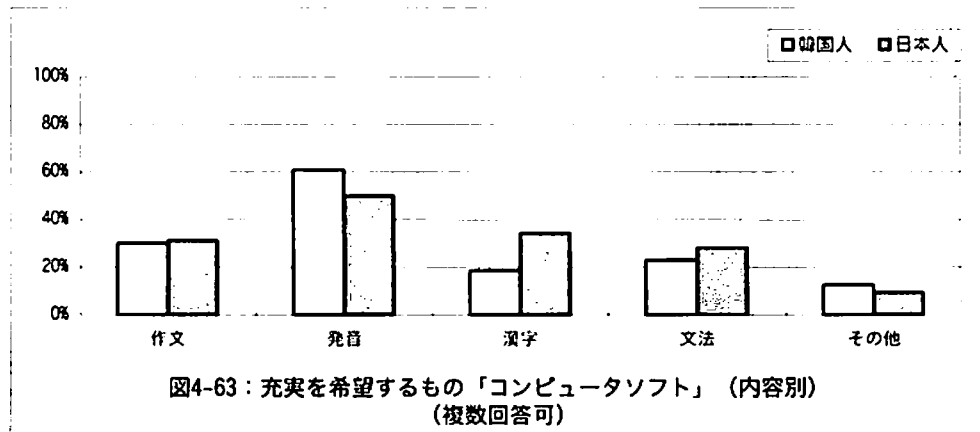


4-2-12-4. 充実を希望するもの：教師用指導参考書

図4-56にあるように、全体的には、充実希望項目の優先順位は低いですが、希望する教師から具体的にどのようなものを希望するのか自由記述で尋ねたところ、国籍・所属によらず、「クラス活動集（ロールプレイ、ゲーム等）」の希望が多い。韓国人教師からは、中等教育では「教科書用の指導書」の希望が高い。また、所属を問わず「文法指導書」の希望が挙げられた。日本人教師からは、高等教育で「日韓言語対照の視点からの指導書」、高等教育・学校教育以外で「会話指導書」の希望が多く挙げられた。その他に、「教授法」「文化・日本事情」に関する指導参考書の希望が複数挙げられた。（教1Q11）

4-2-12-5. 充実を希望するもの：コンピュータソフト

今後充実を希望するものとして「日本語学習のためのコンピュータソフト」を挙げた教師に対し、その学習内容について尋ねたところ、図4-63のように所属に共通して韓国人教師も日本人教師も「発音」を希望している。「その他」としては、中等教育の韓国人教師から「会話」が多く挙げられた。（教1Q11）



〈表 4-16：充実を希望するもの「コンピュータソフト」(所属別・回答数)〉

項目	韓 国 人				日 本 人			
	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
作 文	89	40	36	13	10	0	6	4
発 音	180	91	73	16	16	0	11	5
漢 字	55	20	31	4	11	0	5	6
文 法	68	27	34	7	9	0	7	2
そ の 他	37	29	7	1	3	1	2	0

(複数回答可)

4-2-12-6. 充実を希望するもの：Web 日本語学習プログラム

〈表 4-17：充実を希望するもの「Web 日本語学習プログラム」(所属別・回答数)〉

項目	韓 国 人				日 本 人			
	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
希 望	40	24	14	2	6	0	4	2
強く希望	6	4	2	0	0	0	0	0
合 計	46	28	16	2	6	0	4	2

全体的には、Web 日本語学習プログラムの希望は低いですが、希望する教師から具体的にどのようなものを希望するのか自由記述で尋ねたところ、表 4-17 のように、中等教育の韓国人教師からの希望がみられる。具体的には少数であるが「会話（動画を利用した資料，ロールプレイ等）」「文化（文化体験等）」（各 2 名）「興味を持たせるようなゲームの活用」「文法を体系的に知ることができるもの」「発音」（各 1 名）が挙げられた。また、高等教育の韓国人教師から「オンライン日本語講座」（1 名）が挙げられた。

（教 I Q11）

4-3. 日本語を使っているやりとりについて（以下、韓国人教師対象）

ここでは、韓国人教師のみを対象として、日本語の授業以外で教師が実際に日本語を使っているどのようなやりとりをしているのか、やりとりの有無、相手、頻度、手段、内容、理由等について尋ねた結果をまとめる。なお、本節で扱う項目は「学習者」と「教師」の比較のため3-2で学習者に尋ねた項目と一致させており、その比較・分析結果については「報告書：分析編」で報告する。具体的な項目等は巻末資料の調査票を参照されたい。

4-3-1. 日本語を使っているやりとりの有無

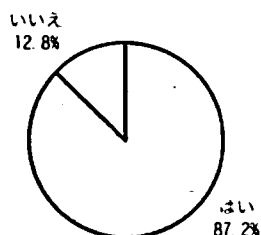


図4-64：日本語を使っているやりとりの有無（全体）

日本語の授業以外での日本語でのやりとりについては、全体で448人（87.2%）が「はい」、66人（12.8%）が「いいえ」と答え、多くの教師が何らかのやりとりをしている（図4-64・65、表4-18）。
（教ⅡQ13）

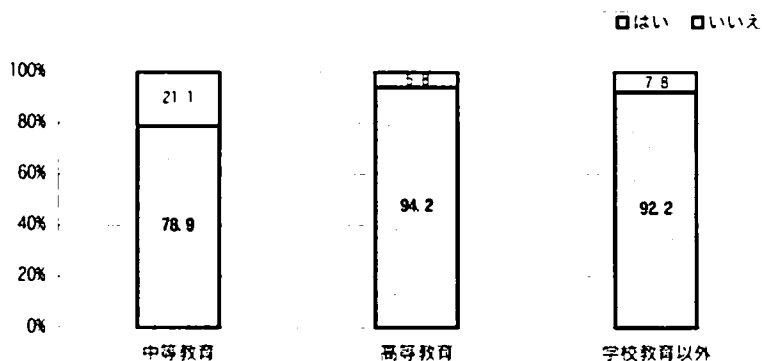


図4-65：日本語を使っているやりとりの有無（所属別）

〈表4-18：日本語を使っているやりとりの有無〉（ ）内は%

	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外	
回答者数	はい	448 (87.2)	179 (78.9)	210 (94.2)	59 (92.2)
	いいえ	66 (12.8)	48 (21.1)	13 (5.8)	5 (7.8)
	無回答	13	3	7	3

4-3-2. やりとりの相手とその方法

やりとりの相手は、表 4-19・図 4-66 のとおりである。全体的に、①「日本語の教師」(269 名)、②「知り合い」(263 名)が多いが、中等教育のみその順位が逆転しており、割合も高等教育・学校教育以外よりも低い。続く 3 位は、高等教育・学校教育以外では「日本人留学生」となっているが、中等教育では「日本の関係機関の人」「日本人アシスタント」が続いている。割合は低いが、「その他」としては、「友人」「先輩」「日本にいる人」「教会」(各 1 名)などが挙げられた。(教ⅡQ13-1)

〈表 4-19：やりとりの相手〉() 内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1 位	日本語の教師 (60.0)	知り合い (49.2)	日本語の教師 (70.0)	日本語の教師 (79.7)
2 位	知り合い (58.7)	日本語の教師 (41.9)	知り合い (64.3)	知り合い (67.8)
3 位	日本人留学生 (36.4)	日本の関係機関の人 (19.6)	日本人留学生 (54.3)	日本人留学生 (40.7)

(複数回答可)

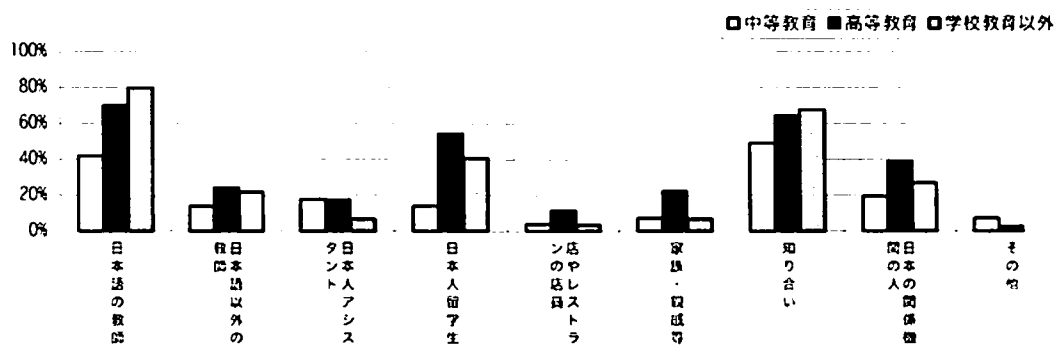


図 4-66 やりとりの相手 (項目別) (複数回答可)

〈表 4-20：やりとりの相手〉(回答数)

相手	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
日本語の教師	269	75	147	47
日本語以外の教師	89	25	51	13
日本人アシスタント	73	32	37	4
日本人留学生	163	25	114	24
店やレストランの店員	33	7	24	2
家族・親戚等	64	13	47	4
知り合い	263	88	135	40
日本の関係機関の人	133	35	82	16
その他	19	13	6	0

(複数回答可)

やりとりの方法は全体的にやりとりの多い上位2位までについて所属別にみる。「日本語の教師」が相手の場合は、図4-67のように共通して直接会っての「会話」(78.1%)が多い。「知り合い」が相手の場合は、図4-68のように「会話」(55.5%)「電話」(60.1%)「電子メール」(59.3%)によるやりとりがほぼ同程度に行われている。

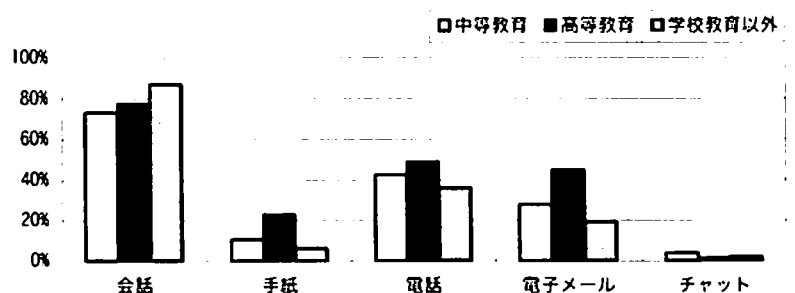


図4-67：やりとりの相手「日本語の教師」(項目別)
(複数回答可)

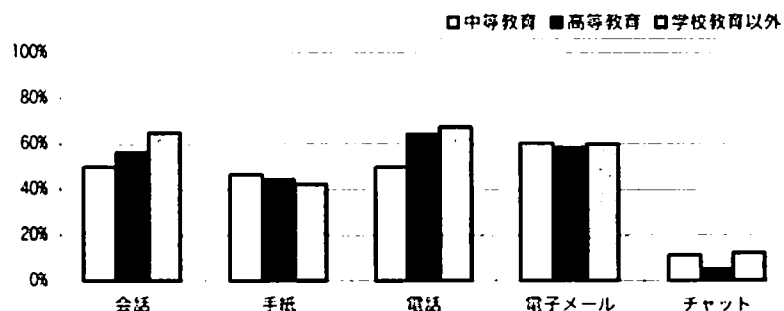


図4-68：やりとりの相手「知り合い」(項目別)
(複数回答可)

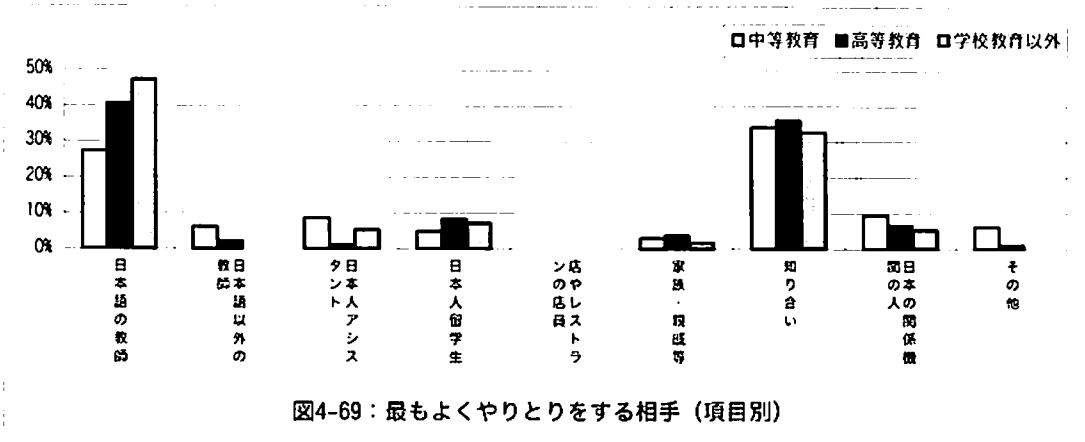
4-3-3. 最もよくやりとりをする相手

4-3-2の日本語でやりとりをする相手の中でも、最もよくやりとりをする相手について尋ねた結果は、表4-21・図4-69のとおりである。全体的に①「日本語の教師」(36.1%)、②「知り合い」(34.8%)が多く、4-3-2とほぼ同様の結果になっている。 (教ⅡQ13-2①)

〈表4-21：最もよくやりとりをする相手〉()内は%

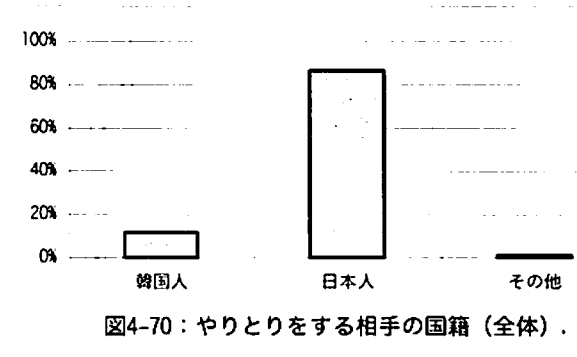
順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語の教師 (36.1)	知り合い (34.2)	日本語の教師 (40.6)	日本語の教師 (47.3)
2位	知り合い (34.8)	日本語の教師 (27.3)	知り合い (36.1)	知り合い (32.7)
3位	日本の関係機関の人 (7.6)	日本の関係機関の人 (9.3)	日本人留学生 (8.3)	日本人留学生 (7.3)

(複数回答可)



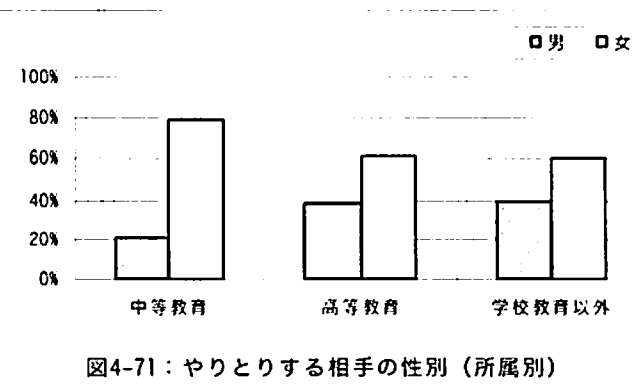
以下、4-3-11まで、この最もやりとりをする相手を対象に尋ねた結果について報告する。
 なお、最もよくやりとりする相手ごとの集計結果については、他の項目との関係を考慮して「報告書：分析編」にて詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

4-3-4. やりとりをする相手の国籍



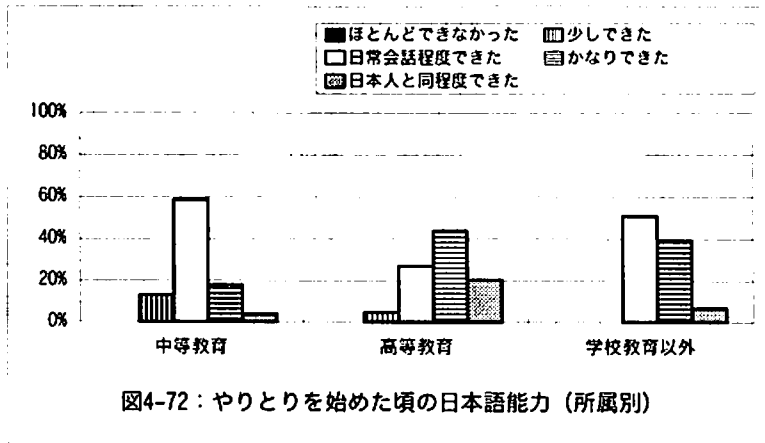
やりとりをする相手の国籍は、図 4-70 のように「日本人」が 86.8%と多い。所属による差はあまりみられない。
 (教ⅡQ13-2②)

4-3-5. やりとりをする相手の性別



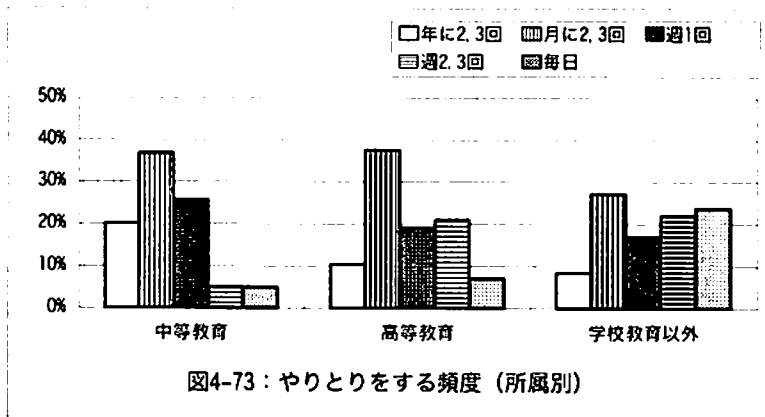
やりとりをする相手の性別は、全体的に 61.3%と「女性」が多い。
 (教ⅡQ13-2③)

4-3-6. やりとりを始めた頃の日本語力



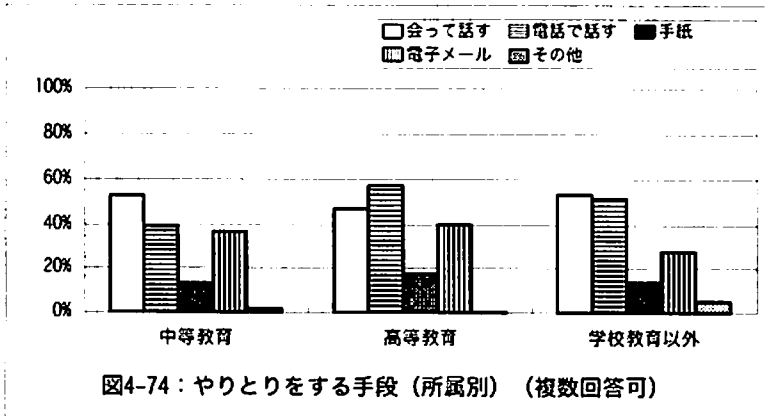
やりとりをするようになった頃の日本語力について5段階で自己評価してもらったところ、図4-72のように中等教育・学校教育以外では「日常会話程度できた」(58.7%・50.8%)、高等教育では「かなりできた」(43.8%)が最も多くなっている。〈教ⅡQ13-2④〉

4-3-7. やりとりをする頻度



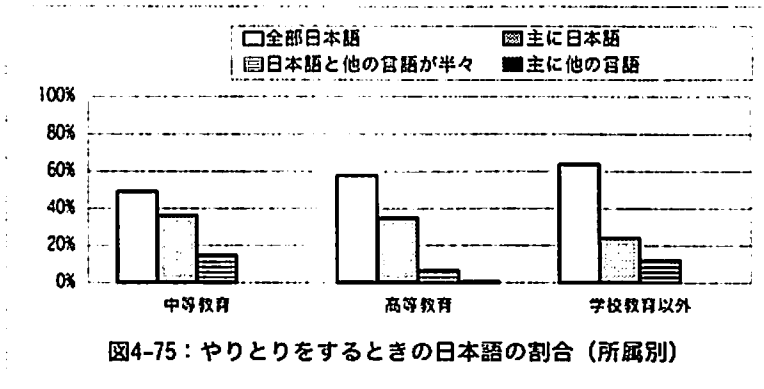
日本語でのやりとりをする頻度は、全体的に「月に2,3回」が38.0%で最も多いが、学校教育以外では「毎日」(23.7%)も同程度に多い(図4-73)。〈教ⅡQ13-2⑤〉

4-3-8. やりとりをする手段



やりとりをするときの手段は、全体的に直接相手と「会って話す」(50.4%)「電話で話す」(49.4%)が多く、「電子メール」は37.2%となっている(図4-74)。割合は低いですが、「その他」には「チャット」「ファックス」(各1)などが挙げられていた。〈教ⅡQ13-2⑥〉

4-3-9. やりとりをするときの日本語の割合

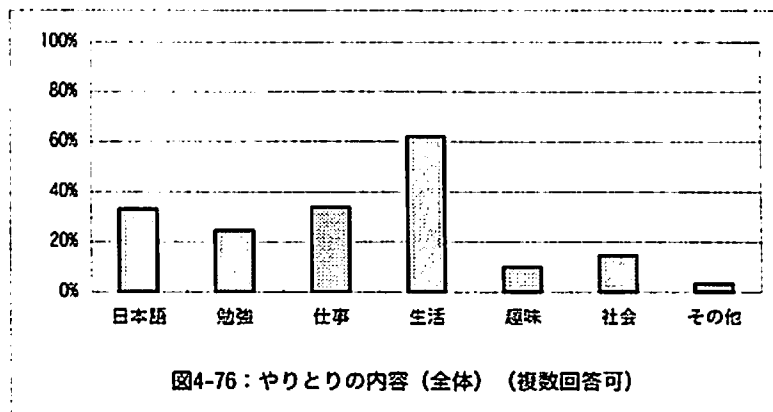


やりとりをするときに日本語を使用する割合はどのぐらいかについて尋ねたところ、共通して「全部日本語」が最も多い（図4-75）。特に、学校教育以外（63.8%）はその割合が高い。 〈教ⅡQ13-2⑦〉

4-3-10. やりとりの内容

やりとりをして話す内容については、所属による違いはあまりなく、図4-76、表4-22のように①「生活について」（62.0%）、②「仕事について」（33.8%）、③「日本語について」（33.1%）の順になっている。割合は低い「その他」としては「研究テーマ」「ビジネス」（各2）などが挙げられていた。

〈教ⅡQ13-2⑧〉



〈表4-22：やりとりの内容〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	生 活 (62.0)	生 活 (68.0)	生 活 (52.7)	生 活 (77.6)
2位	仕 事 (33.8)	日 本 語 (29.6)	仕 事 (43.9)	仕 事 (36.2)
3位	日 本 語 (33.1)	仕 事 (20.7)	日 本 語 (35.6)	日 本 語 (34.5)

（複数回答可）

4-3-11. 日本語でやりとりをする理由

日本語でやりとりをする理由を尋ねたところ、図 4-77 のようになった。表 4-23 は各理由についての 5 段階評価の平均値を示す。全体的に「日本語能力向上や維持のため」「相手が使うから」が共通して高い。所属別では、中等教育で「仕事として義務付けられているから」(3.1)「日本語が最もわかりあえる言葉だから」(3.0)「習慣になっているから」(2.8)が比較的低い。(教ⅡQ13-2⑨)

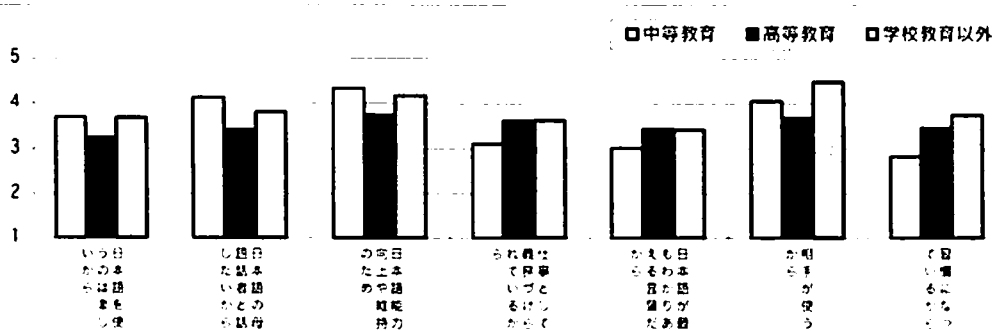


図4-77：日本語でやりとりをする理由 (5段階評価平均値)

〈表 4-23：日本語でやりとりする理由〉

理 由	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
日本語を使うのは楽しいから	3.5	3.7	3.2	3.7
日本語の母語話者と話したいから	3.8	4.1	3.4	3.8
日本語能力向上や維持のため	4.0	4.3	3.7	4.2
仕事として義務づけられているから	3.4	3.1	3.6	3.6
日本語が最もわかりあえる言葉だから	3.3	3.0	3.4	3.4
相手が使うから	3.9	4.1	3.7	4.5
習慣になっているから	3.3	2.8	3.5	3.8

(5段階評価平均値)

4-3-12. 授業以外で日本語を使わない理由

4-3-1で示したように、87.2%とほとんどの教師が授業以外で日本語を使っているが、使っていない教師 66 人に対して、使わない理由を尋ねたところ、図のように「日本語を使う相手がいないから」が所属に共通して多い (図 4-78)。(教ⅡQ13-3)

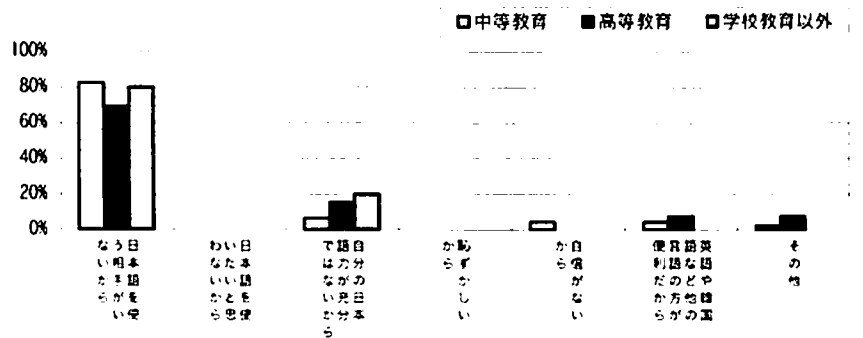


図4-78：授業以外で日本語を使わない理由（所屬別）

4-4. 日本語が使われているものとの接触について

ここでは、日本語の授業以外で教師が日本語で書かれたものや日本語が使われているものの中でどのようなものをどのように見たり聞いたりしているのか等について、教師に尋ねた結果をまとめる。

4-4-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無

まず、教師の身の回りで、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりしたことがあるかについて尋ねたところ、表4-24のように482人（94.7%）の教師が「はい」と答え、所屬に共通して見たり聞いたりしている教師が多い。（教ⅡQ14）

〈表4-24：身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無〉（ ）内は%

	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数				
はい	482 (94.7)	207 (91.6)	215 (97.7)	60 (95.2)
いいえ	27 (5.3)	19 (8.4)	5 (2.3)	3 (4.8)
無回答	18	4	10	4

4-4-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無

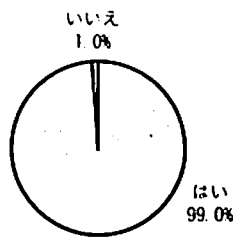


図4-79：日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無（全体）

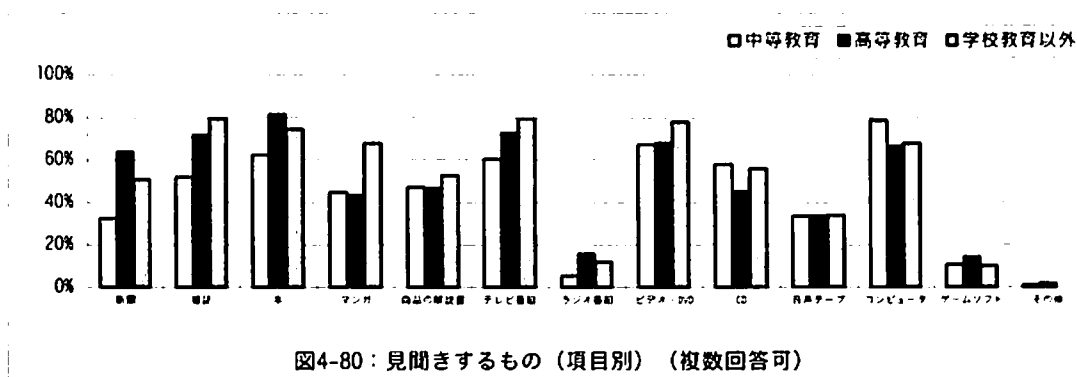
次に、4-4-1で「はい」と答えた482人の教師に、特に日本語の授業以外の時間に、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりすることがあるかについて尋ねたところ、99.0%の教師が「はい」と答え、日本語の授業以外でも何らかの日本語を見聞きしている（図4-79）。（教ⅡQ14-1）

〈表 4-25：日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無〉（ ）内は%

		全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	477 (99.0)	206 (99.5)	212 (98.6)	59 (98.3)
	いいえ	5 (1.0)	1 (0.5)	3 (1.4)	1 (1.7)
	無回答	0	0	0	0

4-4-3. 見聞きするもの

どのようなものを見聞きするのか尋ねたところ、図 4-80 のようになり、上位 3 位までを表 4-26 に示した。中等教育では、「コンピュータ」(78.4%) が最も高く、「新聞」「雑誌」「本」が比較的低い。高等教育では「本」(81.4%) が最も高く、「CD」(45.2%) が他の所属に比べて低い。学校教育以外では「テレビ番組」「雑誌」(各 79.7%) が最も高く、「マンガ」(68.7%) が他の所属に比べて高い。 (教ⅡQ14-2)



〈表 4-26：見聞きするもの〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	本 (72.3)	コンピュータ (78.4)	本 (81.4)	テレビ番組／雑誌 (79.7)
2位	コンピュータ (71.9)	ビデオ・DVD (67.2)	テレビ番組 (72.9)	
3位	ビデオ・DVD (68.9)	本 (62.3)	雑誌 (71.9)	ビデオ・DVD (78.0)

(複数回答可)

4-4-4. 最もよく見聞きするもの

4-4-3の見聞きするものの中でも、特に最も見聞きするものについては、図 4-81 のようになり、上位 3 位までを表 4-27 に示した。4-4-3 と同様に、中等教育では「コンピュータ」(37.3%)、高等教育では「本」(46.1%)、学校教育以外では「テレビ番組」(29.1%) がそれぞれ最も高くなっている。

(教ⅡQ14-3①)

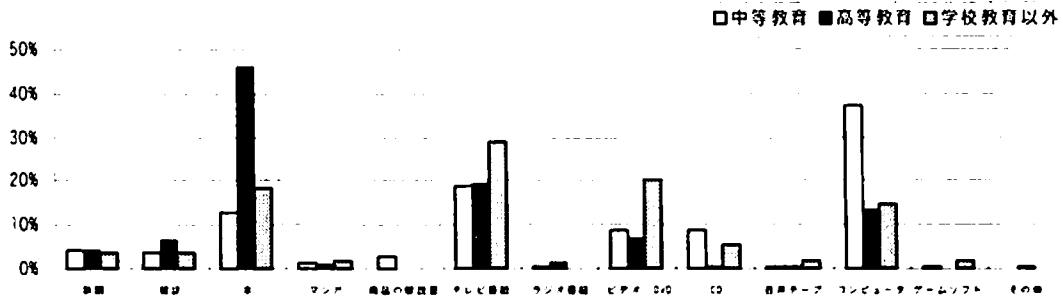


図4-81：最もよく見聞きするもの（項目別）

〈表 4-27：最もよく見聞きするもの〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	本 (28.0)	コンピュータ (37.3)	本 (46.1)	テレビ番組 (29.1)
2位	コンピュータ (23.9)	テレビ番組 (18.7)	テレビ番組 (19.4)	ビデオ・DVD (20.0)
3位	テレビ番組 (18.2)	本 (13.3)	コンピュータ (13.1)	本 (18.2)

以下、4-4-8まで、この最もよく見聞きするものを対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよく見聞きするものごとの集計結果については、他の項目との関係を考慮して「報告書：分析編」にて詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

4-4-5. 見聞きする頻度

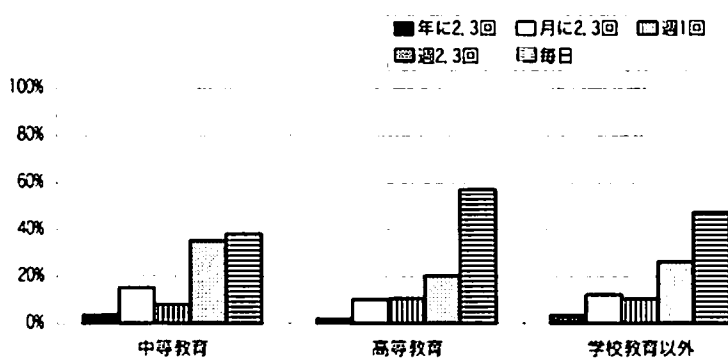


図4-82：見聞きする頻度（所属別）

日本語のものを見聞きする頻度は、全体的に「毎日」（47.7%）が最も多いが、中等教育では「週 2.3 回」（35.2%）も同程度に多い（図 4-82）。

〈教ⅡQ14-3②〉

4-4-6. 見聞きするものの所有者

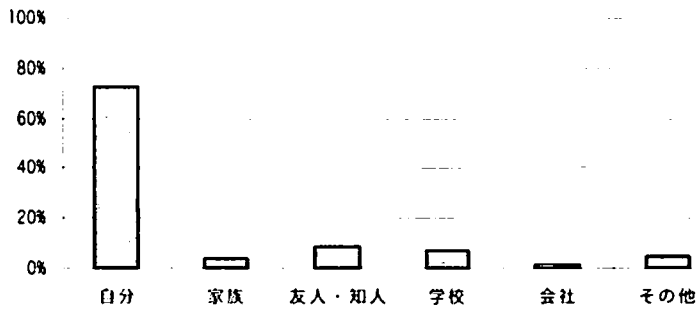


図4-83：見聞きするものの所有者 (全体)

見聞きするものの所有者は、「自分」(72.8%)が最も多く、所属による差はない。「その他」としては、少ないが「放送」(5)「インターネット」(3)「レンタルビデオ屋」(2)などが挙げられた(図4-83)。

(教ⅡQ14-3③)

4-4-7. 見聞きするものの内容

見聞きするものの内容については、全体的に「日本語・日本語学習」(45.4%)、「スポーツ・趣味」「文化・芸術」(各43.8%)が高い。所属別にみると、学校教育以外では「社会・生活」(47.4%)が最も高い(表4-28・図4-84)。「その他」としては、「文学」(8)、「ニュース」「ドラマ」(各7)などが挙げられた。

(教ⅡQ14-3④)

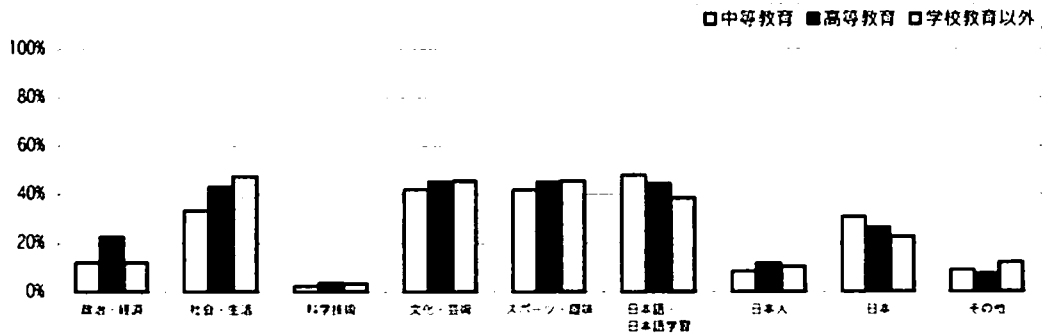


図4-84：見聞きするものの内容 (項目別) (複数回答可)

〈表4-28：見聞きするものの内容〉()内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語・日本語学習 (45.4)	日本語・日本語学習 (48.0)	文化・芸術 (45.2)	社会・生活 (47.4)
2位	文化・芸術 (43.8)	文化・芸術 (41.9)	日本語・日本語学習 (44.7)	文化・芸術 (45.6)
3位	社会・生活 (39.5)	社会・生活 (33.3)	社会・生活 (43.3)	日本語・日本語学習 (38.6)

(複数回答可)

4-4-8. 見聞きする理由

日本語のものを見たり聞いたりする理由を尋ねたところ、図4-85のようになった。表4-29は各理由についての5段階評価の平均値を示す。共通して「日本語能力の向上や維持のため」(4.2)「様々な情報が得られるから」(4.3)「日本や日本人について知ることができるから」(4.2)が比較的高く、逆に「仕事のため」(2.5)が低い。所属別では、高等教育では「日本語に触れたいから」(4.4)「日本語の力を試してみたいから」(3.5)が他の所属に比べて低く、逆に「研究のため」(4.2)が高い。 (教ⅡQ14-3⑤)

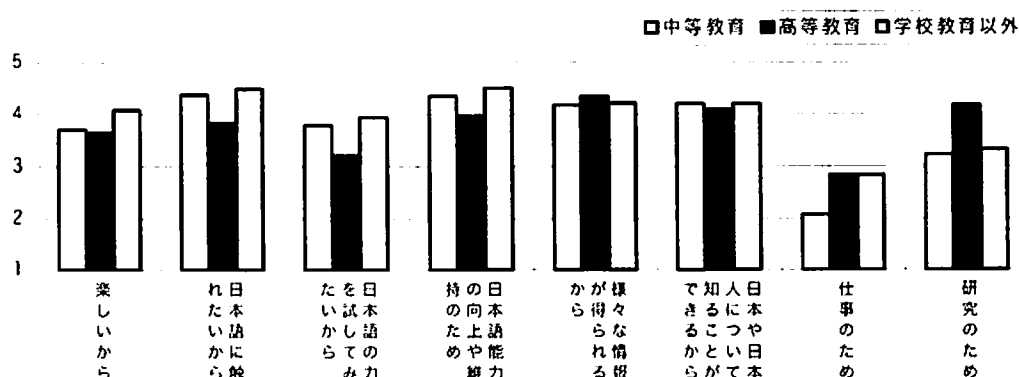


図4-85：見聞きする理由 (5段階評価平均値)

(表4-29：見聞きする理由)

理由	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
楽しいから	3.7	3.7	3.6	4.1
日本語に触れたいから	4.2	4.4	3.8	4.5
日本語の力を試してみたいから	3.5	3.8	3.2	3.9
日本語能力の向上や維持のため	4.2	4.3	4.0	4.5
様々な情報が得られるから	4.3	4.2	4.3	4.2
日本や日本人について知ることができるから	4.2	4.2	4.1	4.2
仕事のため	2.5	2.1	2.8	2.8
研究のため	3.7	3.2	4.2	3.3

(5段階評価平均値)

4-5. 利用経験のある機会や場所について

ここでは、授業以外の様々な日本語学習の機会や場所をどれぐらい利用しているのか等について、教師に尋ねた結果をまとめる。

4-5-1. 利用経験の有無

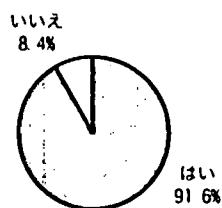


図4-86：利用経験の有無
(全体)

まず、これまでに何らかの日本語学習に関する機会や場所を利用した経験があるかどうかについて尋ねたところ、全体で445人(91.6%)が経験があり、経験したことがないと答えた教師は41人(8.4%)となっている(図4-86)。

〈教ⅡQ15〉

4-5-2. 利用経験のある機会や場所

利用経験のある教師445人に対して、これまでに韓国国内で利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、中等教育では「日本・日本語に関する資料センター・図書館」(47.6%)、高等教育では「日本人との交流会」(50.9%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(81.1%)がそれぞれ最も多い(表4-30・図4-87)。

〈教ⅡQ15-1〉

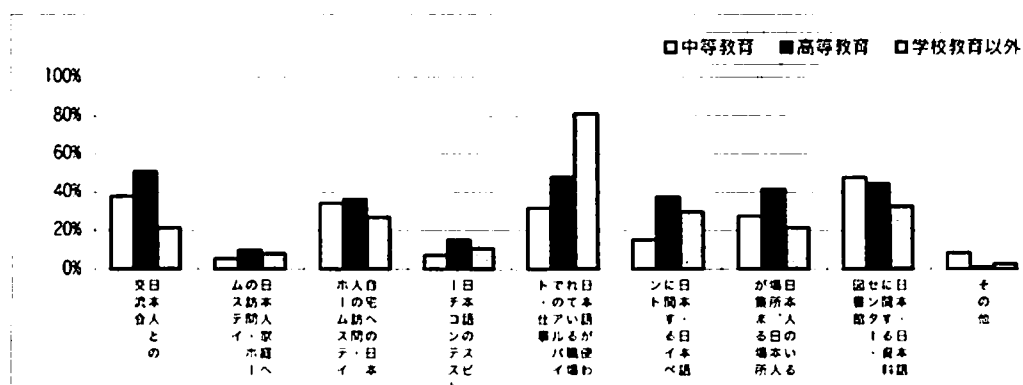


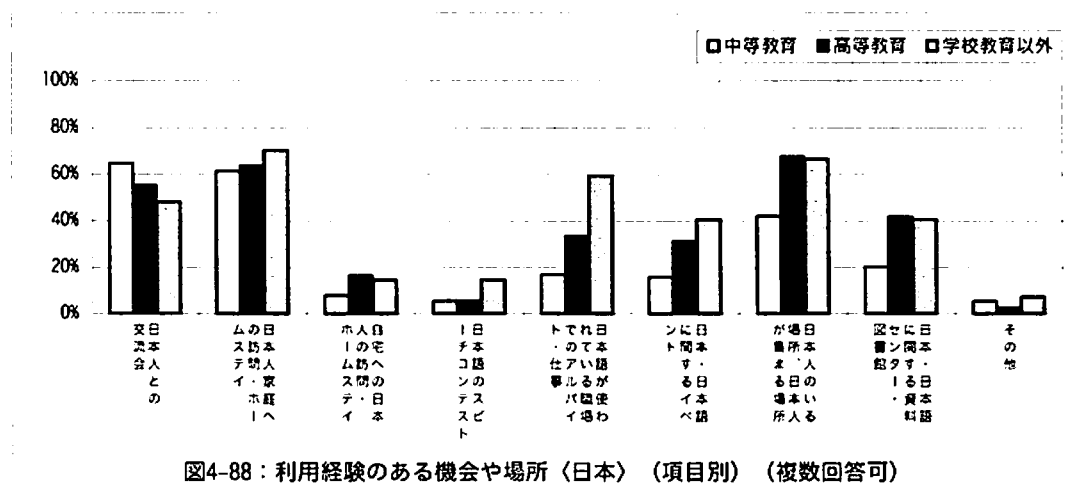
図4-87：利用経験のある機会や場所(韓国) (項目別) (複数回答可)

〈表4-30：利用経験のある機会や場所-韓国-〉()内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語に関する資料センター・図書館 (44.6)	日本語に関する資料センター・図書館 (47.6)	日本人との交流会 (50.9)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (81.1)
2位	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (44.1)	日本人との交流会 (37.8)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (48.0)	日本語に関する資料センター・図書館 (32.4)
3位	日本人との交流会 (42.2)	自宅への日本人の訪問・ホームステイ (34.1)	日本語に関する資料センター・図書館 (47.6)	日本語に関するイベント (29.7)

(複数回答可)

続いて、利用経験のある教師 445 人に対して、日本国内においてこれまでに利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、258 人から回答が得られた。表 4-31 のように全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(63.6%)、②「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(58.9%)、③「日本人との交流会」(57.8%) の順となっている。所属別では、中等教育で「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」「日本・日本語に関する資料センター・図書館」がそれぞれ 42.0%・20.5%と高等教育・学校教育以外に比べて低い。学校教育以外では、「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」が 59.3%と比較的高い(図 4-88)。(教ⅡQ15-1)

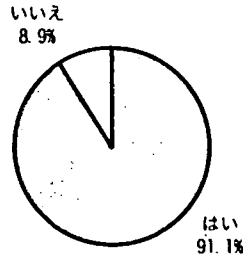


〈表 4-31：利用経験のある機会や場所—日本—〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人家庭への訪問・ホームステイ (63.6)	日本人との交流会 (64.8)	日本人のいる場所・日本人が集まる場所 (67.8)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (70.4)
2位	日本人のいる場所・日本人が集まる場所 (58.9)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (61.4)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (63.6)	日本人のいる場所・日本人が集まる場所 (66.7)
3位	日本人との交流会 (57.8)	日本人のいる場所・日本人が集まる場所 (42.0)	日本人との交流会 (55.2)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (59.3)

(複数回答可)

4-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無



利用した経験のあるものの中で、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したい機会や場所があるかどうかについて尋ねたところ、図4-89のように全体で91.1%が「はい」と答え、所属に共通して多い。 (教ⅡQ15-2)

図4-89：再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無(全体)

〈表4-32：再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無〉()内は%

		全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	326 (91.1)	150 (98.0)	132 (82.5)	44 (97.8)
	いいえ	32 (8.9)	3 (2.0)	28 (17.5)	1 (2.2)
	無回答	85	36	40	9

4-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所

もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思う機会や場所の中で、最も経験したいものについて尋ねたところ、表4-33のように①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(29.0%)、②「日本人との交流会」(28.4%)が共通して多い。 (教ⅡQ15-2)

〈表4-33：再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人家庭への訪問・ホームステイ (29.0)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (33.6)	日本人との交流会 (27.0)	日本人家庭への訪問・ホームステイ/日本人との交流会 (24.4)
2位	日本人との交流会 (28.4)	日本人との交流会 (30.8)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (25.4)	

所属別では、図4-90のように、割合は低いが高専で「日本・日本語に関するイベント」「日本・日本語に関する資料センター・図書館」(各15.9%)、学校教育以外で「自宅への日本人の訪問・ホームステイ」(14.6%)「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(12.2%)が他の所属に比べて高い。

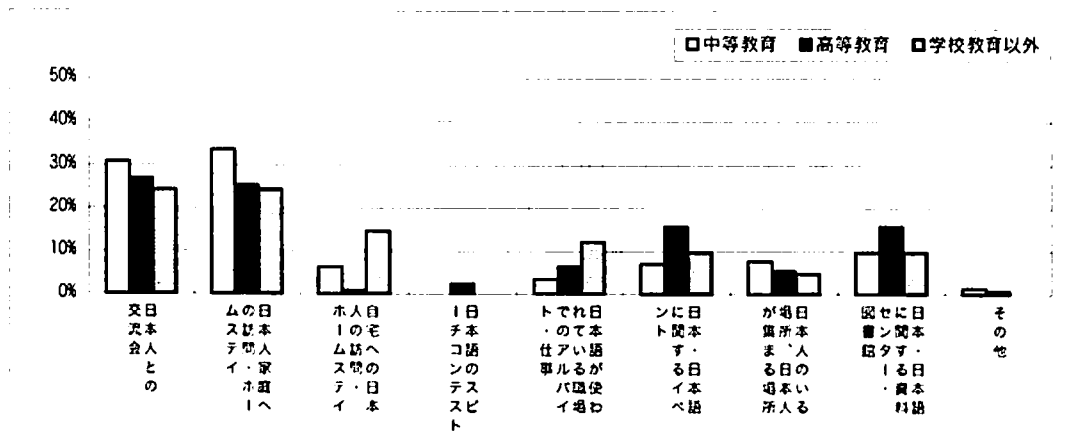


図4-90：再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所（項目別）

第5章 課 題

本調査の目的は、ミクロ（個々の日本語学習や教育）・マクロ（日本語教育が置かれている社会環境）の視点から、学習者・教師の両面からアプローチし、アンケート・インタビューの手法を用いて韓国の学習環境と学習手段についての多様性の現状を把握することにあつた。そのうち、本報告書では特にアンケート調査の集計結果についてその概要を報告し、韓国の学習手段と学習環境の全体的な傾向について、所属別（中等教育・高等教育・学校教育以外）、教師については国籍別（韓国人教師・日本人教師）にその現状を示した。

しかし、本報告書は巻頭の「本報告書について」で述べたように、記述統計的な集計結果にとどまり、項目間の関係等の分析には敢えて踏み込んでいない。集計・分析の観点についても、上記の所属別・国籍別以外に地域、学年別等、様々な可能性が考えられる。また、アンケートは全体的な把握はできても、学習者・教師がなぜ、どのように個別のリソース（物、人、機会、場所等）を使っているのかについての個別的・具体的な実態について把握するには限界がある。そのため、同時並行で行った学習者・教師に対する個別インタビューの調査結果とをあわせた分析が今後重要になってくる。

また、本調査研究は、日本語教育における学習環境と学習手段の実態把握を目的とした初めての海外調査の試みであり、今後の関連する調査研究に向けたパイロット的な役割も担っていた。そのため、調査方法のあり方、アンケートやインタビュー調査の内容・技術に関する検討自体も重要な課題の一つであった。その意味で、データ数は比較的確保することはできたが、内容的に本調査だけで現状を十分に把握しているとは言い切れない。

さらに、本調査結果はこれまで「多様である」としてその実態に踏み込んで来なかった現状に対して、リソースという新たな観点からこれからの日本語教育のあり方を議論・改善していくための契機、基礎的な資料としての役割も担っている。そのため、このような調査は一度で終らせるのではなく、調査結果を踏まえ、現地協力機関・協力者とのネットワークを広げながら、継続して調査・分析し、その成果を教育現場に還元していくことが重要である。

そこで、本調査結果を最大限に活用するべく、今後の分析の観点について、「今後の検討課題」として以下に挙げ、まとめとする。

- 本調査結果とインタビュー結果との関係
- 本調査結果と学習環境（社会状況や教育制度等）との関係
- 日本語学習に関する教師と学習者の比較
- 地域差
- 各項目間の関係（リソース、及びリソース利用の現状に影響を与えている要因の検討）
 - ・リソースとリソースの関係
 - ・あるリソースの利用と、他のリソース及び他のリソースの利用との関係

- ・学習者の背景的情報（学年，訪日経験の有無，動機の種類，日本語力自己評価等）・教師の背景的情報（日本語学習歴，訪日経験の有無，日本語教育経験，日本語以外の教育経験，日本語以外の専門領域の有無，日本語力自己評価，日本語教育に関する研修経験，教師として重視する能力，教師の資質・能力を向上させるために役に立つと思うもの，コンピューター・リテラシー等）とリソース及びリソース利用の関係（どのような学習者・教師が何をリソースとして捉え，どのようなリソースをどのように利用しているのか）
- 日本語教師や友人等，日本語で最もよくやりとりをする相手（3-2-3・4-3-3）ごとの集計結果と比較，他の項目との関係
- 新聞，テレビ放送，ビデオ等，日本語を最もよく見聞きするもの（3-3-4・4-4-4）ごとの集計結果と比較，他の項目との関係
- その他，他調査地域（第1章1-1，p.1）との比較検討等

資 料

日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究

韓国アンケート調査

調査票

機関調査票—中等・高等教育機関用—

(日本語版・韓国語版)

<協力校に関する情報> ※選択肢のあるものは番号に○をつけてください。

学校名： _____

住 所： _____

記入者名/職名： _____ / _____

F1 日本語教員数

常 勤 _____ 名 (日本語非母語話者 _____ 名 日本語母語話者 _____ 名)
 非常勤 _____ 名 (日本語非母語話者 _____ 名 日本語母語話者 _____ 名)

F2 学生数 全学生数： _____ 人

日本語を受講している学生数：

中学 1年 _____ 人 2年 _____ 人 3年 _____ 人
 高校 1年 _____ 人 2年 _____ 人 3年 _____ 人
 大学 教養課程 _____ 人 専攻課程 _____ 人
 大学院 修士 _____ 人 博士 _____ 人

F3 学校で日本語関係の教師や学生が使用できるものに○をつけてください。

1. コンピューター (教師用 _____ 台 学生用 _____ 台)
2. インターネットの利用 →主な利用者 (1. 学生 2. 教師 3. 両方)
3. テレビやビデオの視聴 →主な利用者 (1. 学生 2. 教師 3. 両方)
4. LL
5. OHP
6. テープレコーダー, CD プレイヤー
7. 日本語関係の図書

F4 貴校が行っている, または参加している日本語関係の行事に○をつけてください。

1. 日本人との交流会 (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
2. 日本への留学または交換留学制度 (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
3. 日本でのホームステイなど短期研修制度 (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
4. スピーチコンテスト (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
5. その他： _____ (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)

ご協力ありがとうございました。貴校の日本語コース/日本語クラスのカリキュラム, シラバスなどが分かる資料を同封していただければ幸いです。

<협력교에 관한 정보> ※선택지에 답해야 하는 것은 번호에 ○표를 해 주십시오.

학교명 : _____

주 소 : _____

가입자명 : _____

F1 일본어 교원수 상근 _____명 (일본어 비모어 화자수 _____명
 일본어 모어 화자수 _____명)
 비상근 _____명 (일본어 비모어 화자수 _____명
 일본어 모어 화자수 _____명)

F2 학생수 전학생수 : _____명
 일본어를 수강하고 있는 학생수 :
 중학 1년 _____명 2년 _____명 3년 _____명
 고교 1년 _____명 2년 _____명 3년 _____명
 대학 교양과정 _____명 전공과정 _____명
 대학원 석사 1년 _____명 석사 2년 _____명 박사 _____명

F3 학교에서 일본어 관계의 교원 및 학생이 사용할 수 있는 것에 ○표를 해 주십시오.

1. 컴퓨터 (교사용 _____대 학생용 _____대)
2. 인터넷이용 (주이용자: 1. 학생 2. 교사 3. 양쪽)
3. TV 및 VIDEO 의 시청 (주이용자: 1. 학생 2. 교사 3. 양쪽)
4. LL
5. OHP
6. 녹음기, CD 플레이어
7. 일본어 관계의 장서

F4 귀교에서 하고있는, 또는 참가하고 있는 일본어 관계의 행사에 ○표를 해 주십시오.

1. 일본인과의 교류회 (1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
2. 일본에의 유학 또는 교환 유학제도 (1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
3. 일본에서의 홈스테이 등의 단기연수제도
(1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
4. 스피치 콘테스트 (1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
5. 기타 : _____
(1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)

협력해주셔서 감사합니다. 귀교의 일본어 코스/일본어 학급의 커리큘럼, 실라버스 등을 파악할 수 있는 자료를 동봉해 주시면 감사하겠습니다.

機関調査票—学校教育以外機関用—

(日本語版・韓国語版)

<協力校に関する情報> ※選択肢のあるものは番号に○をつけてください。

機関名： _____ 電話： _____

住 所： _____

記入者名/職名： _____ / _____

Q1 日本語教員数

常 勤 _____ 名 (日本語非母語話者 _____ 名 日本語母語話者 _____ 名)
 非常勤 _____ 名 (日本語非母語話者 _____ 名 日本語母語話者 _____ 名)

Q2 受講生数： _____ 人

中学生 _____ 人

高校生 _____ 人

大学生 _____ 人

大学院生 _____ 人

浪人生 _____ 人

社会人 _____ 人 その他 (_____) _____ 人

Q3 貴学院で日本語関係の教師や学生が使用できるものに○をつけてください。

1. コンピューター (教師用 _____ 台 受講生用 _____ 台)
2. インターネットの利用 →主な利用者(1. 受講生 2. 教師 3. 両方)
3. テレビやビデオの視聴 →主な利用者(1. 受講生 2. 教師 3. 両方)
4. LL
5. OHP
6. テープレコーダー, CD プレイヤー
7. 日本語関係の図書

Q4 貴学院が行っている, または参加している日本語関係の行事に○をつけてください。

1. 日本人との交流会 (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
2. 日本への留学または交換留学制度 (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
3. 日本でのホームステイなど短期語学研修制度
(1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
4. スピーチコンテスト (1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)
5. その他： _____
(1. 主催 2. 他機関が主催 3. 両方)

ご協力ありがとうございました。貴学院の日本語コースのカリキュラム, シラバスなどが分かる資料を同封していただければ幸いです。

<협력교에 관한 정보> ※선택지에 답해야 하는 것은 번호에 ○표를 해 주십시오.

학교명 : _____

주 소 : _____

가입자명 : _____

F1 일본어 교원수 상근 _____명 (일본어 비모어 화자수 _____명
일본어 모어 화자수 _____명)
비상근 _____명 (일본어 비모어 화자수 _____명
일본어 모어 화자수 _____명)

F2 수강생수 : _____명
중학생 _____명
고교생 _____명
대학생 _____명
대학원생 _____명
재수생 _____명
사회인 _____명 기타() _____명

F3 학교에서 일본어 관계의 교원 및 학생이 사용할 수 있는 것에 ○표를 해 주십시오.

1. 컴퓨터 (교사용 _____대 학생용 _____대)
2. 인터넷이용 (주이용자: 1. 학생 2. 교사 3. 양쪽)
3. TV 및 VIDEO의 시청 (주이용자: 1. 학생 2. 교사 3. 양쪽)
4. LL
5. OHP
6. 녹음기, CD 플레이어
7. 일본어 관계의 장서

F4 귀교에서 하고있는, 또는 참가하고 있는 일본어 관계의 행사에 ○표를 해 주십시오.

1. 일본인과의 교류회 (1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
2. 일본에의 유학 또는 교환 유학제도 (1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
3. 일본에서의 홈스테이 등의 단기연수제도
(1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
4. 스피치 콘테스트 (1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)
5. 기타 : _____
(1. 주최 2. 타기관이 주최 3. 양쪽)

협력해주셔서 감사합니다. 귀교의 일본어 코스/일본어 학급의 커리큘럼, 실라버스 등을 파악할 수 있는 자료를 동봉해 주시면 감사하겠습니다.

学習者用調査票（日本語版・韓国語版）

韓国学習者用

「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」への

御協力をお願い

国立国語研究所日本語教育部門では、「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を行っております。

インターネットを始めとする様々な情報流通のあり方の変化に伴い、日本語を学習する、あるいは教える環境や手段も多様化し、支援のあり方も柔軟に対応する必要があります。そのためには、まず国内外で日本語を学習、あるいは教えている方々がどのような環境で日本語を学習、あるいは教え、どのような手段で日本語を学習、あるいは教えているかについて広く情報収集し、「多様化」している現状を把握する必要があります。その一環として、本年度は、日本語教育支援のための基礎研究として、韓国での日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査を行っております。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解くださり、ご回答くださるようお願い致します。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所日本語教育部門
TEL:+81-3-5993-7660
FAX:+81-3-3906-3530
<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

<学習者用アンケート>

•選択肢のあるものは番号に○をしてください。

- F1 性別 1 男 2 女
- F2 居住地域 _____ (特別市・広域市・道) _____ (市・郡)
- F3 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60歳以上
- F4 母語<最もよく話せることば> _____ 語
- F5 身分 1 中学校 _____ 年生
2 高校
1-一般高校 _____ 年生 2 実業高校 _____ 年生
3 外国語高校 _____ 年生 4 その他(_____ 高校) _____ 年生
3 専門大学 _____ 年生 専攻 _____
4 大学 _____ 年生 学部 _____ 専攻 _____
5 大学院
1 修士 _____ 年 専攻 _____ 2 博士 _____ 年 専攻 _____
6 その他 _____
- F6 日本語学習を開始した学年
1 小学校 _____ 年生
2 中学校 _____ 年生
3 高校 _____ 年生
4 専門大学 _____ 年生
5 大学 _____ 年生
6 大学院 _____ 年生
7 その他 _____
- F7 あなたは今どこで日本語を勉強していますか。(複数回答可)
1 高校 2 大学 3 専門大学 4 大学院
5 その他の教育機関(学院など) 6 その他 _____
- F8 日本に行った経験がありますか。
1. ない 2. ある
- F8-1 「2. ある」と答えた方におたずねします。日本に行った回数と期間をお書きください。
回数 _____ 回 期間(延べ) _____ 年 _____ か月 _____ 日
- F8-2 日本に行った目的は何ですか。(複数回答可)
1 観光 2 短期留学(6ヶ月未満) 3 短期留学(6ヶ月以上～1年未満)
4 長期留学(1年以上) 5 仕事 6 企業研修 7 国際交流
8 ワーキングホリデー 9 家族滞在 10 その他 _____

F9 日本語の学習を始めた理由や動機は何ですか。理由や動機として強い順に3つ選んで表に記入してください。

1. 大学の入試科目にあるから/大学入学に有利だから
2. 学校の授業にあるから
3. 就職に有利だから
4. 現在の仕事に必要なだから
5. 日本人の知り合いがいるから
6. 親や知人などに勧められたから
7. 日本語を学ぶのは知的なこととしてまわりから評価されるから
8. 日本語は難しそうで、やりがいがあるから
9. 学びやすそうだから
10. 日本語に興味があるから
11. 国際的に重要な言語だから
12. 日本の文化や社会についての情報を得たいから
13. 日本の文学や歴史に興味があるから
14. 日本に興味があるから
15. 日本に行きたいから
16. 日本のもの(テレビ、映画、ゲーム、歌など)が好きだから
17. その他 _____

↑ 17.を選んだ場合は記入してください。

1	2	3

F10-3 【聞くこと】

1. 全くできない。
2. 相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる。
3. 日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる。
4. 会話の中で、相手の考えや意見をだいたい理解することができる。
5. テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる。
6. 母語と同じように聞いて理解できる。

①現在	②将来

F10-4 【話すこと】

1. 全くできない。
2. 挨拶ができる。
3. 簡単な自己紹介ができる。
4. 日常生活に必要な表現を状況に応じて使える。
5. 自分の意見や考えを話すことができる。
6. 母語と同じように話せる。

①現在	②将来

13

F10 あなたは現在、日本語がどのぐらいできますか(①)。そして、将来どのぐらいできるようになりたいと思っていますか(②)。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」それぞれについて、最も適当なものを選んで、表の中に記入してください。

F10-1 【読むこと】

1. 全くできない。
2. ひらがなが読める。
3. やさしい漢字なら日本式に読める。
4. 簡単な文章ならだいたい理解できる。
5. 新聞や雑誌、興味のある分野の本などがだいたい理解できる。
6. 母語と同じように読める。

①現在	②将来

F10-2 【書くこと】

1. 全くできない。
2. ひらがなで知っている言葉が書ける。
3. 簡単な短い文を書くことができる。
4. 親しい友人などへの簡単な手紙やメールを書くことができる。
5. まとまった文章が書ける。
6. 母語と同じように書ける。

①現在	②将来

Q1 日本語の授業以外で日本語を使ってやりとり（会話、電話、手紙、電子メールなど）をすることはありますか。

1. はい (→01-1, 01-2へ) 2. いいえ (→01-3へ)

Q1-1 日本語の授業以外でどんな人と日本語でやりとりますか。やりとりする人全員の番号に○をし、その方法を選んで○をつけてください。(複数回答可)

○	相手	方法				
		会話	手紙	電話	電子メール	チャット
1	日本語の教師					
2	学校の友人					
3	学院・語学堂等のクラスメート					
4	職場の同僚					
5	職場の上司					
6	仕事上の取引相手					
7	勤務先（レストラン等）の客					
8	家族・親戚等					
9	知り合い					
10	その他					

	全く(そう)ない			どちらともいえない			全く(そう)多い			
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1. 日本語を使うのは楽しいから	5	4	3	2	1					
2. 日本語の母語話者と話したいから	5	4	3	2	1					
3. 日本語能力向上や維持のため	5	4	3	2	1					
4. 仕事として職務づけられているから	5	4	3	2	1					
5. 日本語が最もわかりあえる言葉だから	5	4	3	2	1					
6. 相手が使うから	5	4	3	2	1					
7. 習慣になっているから	5	4	3	2	1					
8. その他	5	4	3	2	1					

Q1-3 (01で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外で日本語を使わない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

- 日本語を使う相手がいないから
- 日本語を使いたいと思わないから
- 自分の日本語力が充分ではないから
- 恥ずかしいから
- 自信がないから
- 英語や韓国語などの言語の方が便利だから
- その他

Q2 身の回りに、日本語が使われているものはありますか。(日本語学習教材は除きます。)

1. はい (→02-1へ) 2. いいえ (→02へ)

Q2-1 日本語の授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりすることはありますか。

1. はい (→02-2, 02-3へ) 2. いいえ (→02-4へ)

Q2-2 授業以外でどんなもの（日本語が使われているもの）を見たり聞いたりしますか。あてはまるもの全てに○をしてください。(複数回答可)

- 新聞
- 雑誌
- 本
- マンガ
- 商品のパッケージ・解説書
- テレビ番組
- ラジオ番組
- ビデオ・DVD
- CD
- 音声テープ
- コンピューター（インターネット等）
- ゲームソフト
- その他

Q2-3 Q2-2で○をした中で、もっともよく見たり聞いたりするもの一つについて、教えてください。

①それはQ2-2の1～13のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
②頻度はどのぐらいですか。○を付けてください。												
1. 年に2,3回	2. 月2,3回	3. 週1回	4. 週2,3回	5. 毎日								
③それは誰のものですか。												
1. 自分のもの	2. 家族のもの	3. 友人や知り合いのもの	4. 学校のもの	5. 会社のもの	6. その他							
④主にどんな内容ですか。(複数回答可)												
1. 政治・経済	2. 社会・生活	3. 科学技術	4. 文化・芸術	5. スポーツ・趣味	6. 日本語・日本語学習	7. 日本人	8. 日本	9. その他				

Q1-2 Q1-1で○をした中で、もっともよく日本語でやりとりをする人あるいは人達について、教えてください。

①その人はQ1-1の1～10のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
②どこの人ですか。									
1. 韓国人	2. 日本人	3. その他							
③性別									
1. 男	2. 女								
④やりとりをするようになった頃、あなたの日本語はどうでしたか。○を付けてください。									
1. ほとんどできなかった	2. 少しできた	3. 日常会話程度できた							
4. かなりできた	5. 日本人と同程度できた								
⑤やりとりをする頻度はどのぐらいですか。1つ選んでください。									
1. 年に2,3回	2. 月2,3回	3. 週1回	4. 週2,3回	5. 毎日					
⑥やりとりの主な手段は何ですか。(複数回答可)									
1. 会って話す	2. 電話で話す	3. 手紙	4. 電子メール	5. その他					
⑦その人とやりとりをする時、日本語をどのぐらい使いますか。									
1. 全部日本語	2. 主に日本語	3. 日本語と他の言語が半々	4. 主に他の言語						
⑧主にどんなことについて話しますか。(複数回答可)									
1. 日本語について	2. 勉強について	3. 仕事について	4. 生活について	5. 趣味について	6. 社会について	7. その他			

⑤見たり聞いたりする理由は何ですか。下の項目それぞれについて、5~1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。

	全く(その事)	どちらともいえない	全く(その事)知らない
1. 楽しいから	5	4	3 2 1
2. 日本語に触れたいから	5	4	3 2 1
3. 日本語の力を試してみたいから	5	4	3 2 1
4. 日本語能力の向上や維持のため	5	4	3 2 1
5. 様々な情報が得られるから	5	4	3 2 1
6. 日本や日本人について知ることができるから	5	4	3 2 1
7. 仕事のため	5	4	3 2 1
8. 研究のため	5	4	3 2 1
9. その他 _____	5	4	3 2 1

Q2-4 (Q2-1で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりしない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

1. 見たり、聞いたりしたいと思わないから
2. 時間がないから
3. 自分の日本語力が充分でないから
4. 利用するのにお金がかかるから
5. 手に入りにくいから
6. その他 _____

Q3 現在使っている日本語の教科書や授業で先生から渡される学習資料を授業以外の時間にも使いますか。

1. はい (→Q3-1へ)
2. いいえ (→Q3-2へ)

Q3-1 授業以外の時間に教科書や授業で先生から渡される学習資料を使って勉強するときに行っていることは、次のうちどれですか。()に○をつけてください。またその中でよくするものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 語句の意味を調べる
- () 2. 漢字にふりがなをふる
- () 3. 韓国語に訳す
- () 4. 日本語がわかる人に質問する
- () 5. 練習問題を解く
- () 6. 付属のカセットテープを聞く
- () 7. 単語帳を作る
- () 8. 自分で文を作る
- () 9. 暗記、暗唱する
- () 10. 練習相手を見つけて会話の練習をする
- () 11. その他 _____

Q3-2 (Q3で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

日本語の教科書や授業で先生から渡される学習資料を授業以外の時間に使わない理由は何ですか。

1. 学校から持ち帰ることができないから
2. 授業以外の時間に日本語の勉強をしないから
3. どうやって使ったらいいかわからないから
4. 特に日本語に興味がないから
5. わかりにくいから
6. その他 _____

Q4 過去3年の間に、韓国、あるいは日本で次の表(Q4-1)のような日本人や日本語に接する機会や場所を経験したことがありますか。

1. はい (→Q4-1, Q4-2へ)
2. いいえ (→Q5へ)

Q4-1 経験したことがあるものの番号に○をし、韓国、日本のどちらで経験したか○をつけてください。

	機会・場所	韓国	日本
1	日本人との交流会		
2	日本人家庭への訪問・ホームステイ		
3	自宅への日本人の訪問・ホームステイ		
4	日本語のスピーチコンテスト		
5	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事		
6	日本・日本語に関するイベント		
7	日本人のいる場所、日本人が集まる場所		
8	日本・日本語に関する資料センター・図書館 (例：ソウル日本文化センター、在釜山日本国総領事館)		
9	その他 _____		

Q4-2 経験したことがある場合、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思うものはありますか。最も経験したいと思うものを Q4-1 の選択肢の中から一つだけ選んで記入してください。

1. ある →Q4-1 の選択肢の番号を一つ記入してください
2. ない

Q5 次の中で、日本語学習のために、現在使っているものはどれですか。()に○をつけてください。またその中でよく使うものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 学習参考書・問題集 一次のどれですか
[1. 文法 2. 作文 3. 語彙 4. 漢字 5. 会話 6. 試験対策 7. 読解 8. その他 _____]
- () 2. 辞書(書名: _____)
- () 3. 漢字字典(書名: _____)
- () 4. 日本語学習のための音声テープ
- () 5. ビデオ教材
- () 6. 日本語の放送講座
- () 7. 日本語学習のためのコンピューターソフト
- () 8. インターネットによる資料収集
- () 9. web 教材による日本語学習

- () 10. e-mail・チャット
- () 11. 日本語のテレビ番組
- () 12. 日本語の映画
- () 13. 日本語のマンガ
- () 14. 日本語の小説や雑誌、新聞などの読み物
- () 15. 日本語を使ったゲームソフト
- () 16. 日本語の歌
- () 17. その他 _____

Q6 次の中で、日本語学習や日本理解のために、今後、もっと充実したらいいと思うものはどれですか。()に○をつけてください。またその中で特に充実したらいいと思うものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 教科書—どんなものですか。 _____
- () 2. 学習参考書・問題集—次のどれですか。
 (1. 文法 2. 作文 3. 語彙 4. 漢字
 5. 会話 6. 試験対策 7. 読解 8. その他 _____)
- () 3. 辞書—次のどれですか。
 (1. 韓-日 2. 日-韓 3. その他 _____)
- () 4. 漢字字典
- () 5. 日本語学習のための音声テープ
- () 6. ビデオ教材
- () 7. 日本語の放送講座
- () 8. 日本語学習のためのコンピューターソフト
- () 9. web 学習プログラム
- () 10. 日本語の小説や雑誌、新聞などの読み物
- () 11. 日本語のテレビ番組
- () 12. 日本語の映画
- () 13. 日本語を使ったゲームソフト
- () 14. 日本人との交流会 (パーティー、ハイキング、料理教室など)
- () 15. 日本人家庭への訪問、ホームステイ
- () 16. 日本語のスピーチコンテスト
- () 17. 日本や日本語に関するイベント
- () 18. 日本語を使うアルバイト
- () 19. 留学の機会
- () 20. その他 _____

ご協力ありがとうございました。

「일본어교육 학습환경과 학습수단에 관한 조사연구」에 대한

협조문

국립국어연구소 일본어교육 부문에서는 「일본어교육의 학습환경과 학습수단에 관한 조사연구」를 실시하고 있습니다.

인터넷을 비롯한 다양한 정보환경의 변화에 따라, 일본어를 배우고 또는 가르치는 환경과 수단도 다양화해짐에 따라, 지원방법도 이에 부응할 필요가 있다고 봅니다. 이를 위해서는, 우선 국내외에서 일본어를 학습 또는 교육하시는 분들이 어떠한 환경에서 일본어를 배우고 또는 가르치고 있는가에 대해 광범위하게 정보를 수집하여, "다양화"되고 있는 현황을 파악할 필요성을 느낍니다.

그 일환으로, 올해는 일본어교육 지원용 위한 기초연구로써 한국에서의 일본어교육 학습환경과 학습수단에 관한 조사를 실시하고 있습니다.

바쁘신 가운데 죄송합니다만, 본조사의 취지를 널리 이해해 주시고, 질문에 답해 주셨으면 합니다. 감사합니다.

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所日本語教育部門
TEL:+81-3-5993-7660
FAX:+81-3-3906-3530
http://www.kokken.go.jp/jsl/

< 학습자유 양케이트 > • 해당되는 번호에 O를 표시해 주십시오.

F1 성별 1. 남 2. 여

F2 거주지역 _____ (특별시·광역시·도) _____ (시·군)

F3 연령 1. 10대 2. 20대 3. 30대 4. 40대 5. 50대 6. 60세이상

F4 모국어(母國語)< 가장 능숙한 언어 > _____어

F5 신분 1. 중학교 _____학년
2. 고등학교
3. 일반고 _____학년 2. 실업고 _____학년
3. 외국어고 _____학년 4. 기타 (_____고) _____학년
3. 전문대학 _____학년 전공 _____
4. 대학교 _____학년 학부 _____ 전공 _____
5. 대학원
1. 석사 _____년 전공 _____ 2. 박사 _____년 전공 _____
6. 기타 _____

F6 일본어 학습을 시작한 학년을 적어 주십시오.

1. 초등학교 _____학년
2. 중학교 _____학년
3. 고등학교 _____학년
4. 전문대학 _____학년
5. 대학교 _____학년
6. 대학원 _____학년
7. 기타 _____

F7 당신은 지금 어디에서 일본어를 공부하고 있습니까? (복수응답 가능)

1. 고등학교
2. 대학교
3. 전문대학
4. 대학원
5. 기타교육시설 (학원 등)
6. 기타 _____

F8 일본에 가 본 경험이 있습니까?

1. 없다
2. 있다

F8-1 「2. 있다」라고 답변하신 분에게 해당합니다. 일본에 간 횟수와 기간을 적어 주십시오.

횟수 _____회 기간 (합계) _____년 _____개월 _____일

F8-2 일본에 간 목적은 무엇입니까? (복수응답 가능)

1. 관광 2. 단기유학 (6개월이만) 3. 단기유학 (6개월이상 1년미만)
 4. 장기유학 (1년이상) 5. 비즈니스 6. 기업연수 7. 국제교류
 8. 워킹홀리데이 9. 가족체재 10. 기타 _____

F9 일본어학습을 시작한 이유와 동기는 무엇입니까? 아래에서 3가지를 선택하여 가장 중요하다고 생각하는 순서로 표에 기입해 주십시오.

1. 대학 입시과목에 있어서/대학입학에 유리해서
2. 학교수업에 있어서
3. 취직에 유리해서
4. 현재의 일에 필요해서
5. 알고 있는 일본사람이 있어서
6. 부모, 아는 사람 등의 권유가 있어서
7. 일본어를 배우면 지식(知的)이다라고 주위에서 평가해 줌으로서
8. 일본어는 어려운 것 같아서 보람이 있어서
9. 배우기 쉬운 것 같아서
10. 일본어에 흥미가 있어서
11. 국제적으로 중요한 언어여서
12. 일본문화와 사회에 관한 정보를 알고 싶어서
13. 일본문학과 역사에 관심이 있어서
14. 일본에 관심이 있어서
15. 일본에 가고 싶어서
16. 일본의 TV, 영화, 게임, 노래 등을 좋아해서
17. 기타 _____

↑17.을 선택한 경우 기입해 주십시오

1	2	3

F10 당신은 현재 일본어를 어느정도 할 수 있습니까? ① 그리고 앞으로 어느정도 할 수 있었으면 좋겠다고 생각합니까? ② 「읽기」 「쓰기」 「듣기」 「말하기」 의 각각에 대해, 가장 가까운 것을 선택하여 표에 기입해 주십시오.

F10-1 [읽기]

1. 전혀 못한다
2. 헤리거나는 읽을 수 있다
3. 쉬운 한자라면 일본어로 읽을 수 있다
4. 간단한 문장정도는 대개 이해할 수 있다
5. 신문, 잡지, 흥미가 있는 분야의 책 등을 거의 문제없이 이해할 수 있다
6. 우리말(모국어)수준으로 읽을 수 있다

①현재	②장래

F10-2 [쓰기]

1. 전혀 못한다
2. 알고 있는 말을 히라가나로 쓸 수 있다
3. 짧고 간단한 문장을 쓸 수 있다
4. 친한 친구 등에게 간단한 편지나 메일을 쓸 수 있다
5. 정리된 문장을 쓸 수 있다
6. 우리말(모국어)수준으로 쓸 수 있다

①현재	②장래

F10-3 [듣기]

1. 전혀 못한다
2. 상대방의 이름과 인사정도는 듣고 이해할 수 있다
3. 일상생활에서 사용하는 간단한 표현, 지시 등을 이해할 수 있다
4. 대화 중의 상대방의 생각이나 의견을 대개 이해할 수 있다
5. TV 뉴스, 학교강의 등을 거의 이해할 수 있다
6. 우리말(모국어)수준으로 듣고 이해할 수 있다

①현재	②장래

F10-4 [말하기]

1. 전혀 못한다
2. 인사는 할 수 있다
3. 간단한 자기소개는 할 수 있다
4. 일상생활에 필요한 표현을 상황에 맞게 사용할 수 있다
5. 자신의 의견과 생각을 말할 수 있다
6. 우리말(모국어)수준으로 말할 수 있다

①현재	②장래

Q1 일본어수업 이외에 일본어를 사용하여 대화, 전화, 편지, e-메일을 한 적이 있습니까?

1. 있다 (→Q1-1, Q1-2로) 2. 없다 (→Q1-3으로)

Q1-1 일본어수업 이외에 어떤 사람과 일본어를 사용하고 있습니까? 해당되는 번호에 ○를 하고, 그 방법을 골라 ○로 표시해 주십시오. (복수응답 가능)

○	대상	방법					
		회화	편지	전화	e-메일	채팅	
1	일본어교사						
2	학교친구						
3	학원, 어학당등의 클래스메이트						
4	직장동료						
5	직장상사						
6	사업 거래처의 직원						
7	근무처 (레스토랑 등) 의 손님						
8	가족·친척 등						
9	아는 사람						
10	기타 _____						

Q1-2 Q1-1 에서 ○로 표현 것 중에서, 가장 자주 일본어를 주고받는 사람 또는 사람들에 대해서 답해 주십시오.

①그 사람은 Q1-1 의 1~10 중 어디에 해당합니까? *하나만 골라 아래의 번호에 ○를 해 주십시오.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

②어느나라 사람입니까?

1. 한국인 2. 일본인 3. 기타 _____

③성별

1. 남 2. 여

④일본어로 대화 등을 주고받을 수 있게 되었을 때, 당신의 일본어는 어느정도 있었습니까? ○로 표기해 주십시오.

1. 거의 불가능하였다 2. 조금 할 수 있었다 3. 일상회화 정도는 가능했다
4. 상당히 잘 했다 5. 일본인과 같은 수준이었다

⑤대화 등을 하는 빈도는 어느 정도입니까? 하나를 골라 주십시오.

1. 일년에 2, 3회 2. 월 2, 3회 3. 주 1회 4. 주 2, 3회 5. 매일

⑥그 주요수업은 무엇입니까? (복수응답 가능)

1. 만나서 이야기한다 2. 전화로 이야기한다 3. 편지 4. e-메일
5. 기타 _____

⑦대화등의 상대방 사람과의 대화시, 일본어를 어느정도 사용하십니까?

1. 전부 일본어 2. 주로 일본어 3. 일본어와 그 외 언어가 반반 4. 주로 다른 언어
5. 기타 _____

⑧주로 대화의 화제는 무엇입니까? (복수응답 가능)

1. 일본어에 대하여 2. 공부에 대하여 3. 일에 대하여 4. 생활에 대하여
5. 취미에 대하여 6. 사회에 대하여 7. 기타 _____

⑨대화를 할 경우 일본어를 사용하는 이유는 무엇입니까? 아래의 각각의 항목에 대해서 5~1 의 척도로 답해주시시오. 그리고 이외의 이유가 있는 경우는, 「기타」에 기입한 후 같은 방법으로 답해주시시오.

	회화	문자	전화	이메일
	5	4	3	2
1. 일본어로 말하는 것이 재미 있어서	5	4	3	2
2. 일본어 네이티브와 이야기하고 싶어서	5	4	3	2
3. 일본어 능력향상과 유지할 위해서	5	4	3	2
4. 업무상 반드시 필요해서	5	4	3	2
5. 일본어가 가장 알기쉬운 외국어여서	5	4	3	2
6. 상대방이 사용해서	5	4	3	2
7. 습관이 되어 있어서	5	4	3	2
8. 기타 _____	5	4	3	2

Q1-3 (Q1 에서 「1」로 답변 받은 기입하신 필요가 없습니다)

수업 이외에서 일본어를 사용하지 않는 이유는 무엇입니까? 다음 중에서 당신의 생각과 가장 가까운 것을 하나 골라 주십시오.

1. 일본어로 말할 상대가 없어서
2. 일본어로 말하고 싶지 않아서
3. 자신의 일본어실력이 부족하다고 생각해서
4. 참피해서
5. 자신이 없어서
6. 영어와 한국어 등 다른 언어가 더 편리해서
7. 기타 _____

Q2 주위에 일본어로 된 것이 있습니까? (일본어 학습교재 제외)

1. 예 (→Q2-1로) 2. 아니오 (→Q3으로)

Q2-1 일본어수업 이외의 시간에 일본어로 된 것을 보거나 들은 적이 있습니까?

1. 예 (→Q2-2, Q2-3으로) 2. 아니오 (→Q2-4로)

Q2-2 수업 이외에 어떤 것 (일본어가 사용된 것) 을 보거나 듣고 있습니까? 해당되는 사항에 모두 ○를 해 주십시오. (복수응답 가능)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|-------------|
| 1. 신문 | 2. 잡지 | 3. 책 | 4. 만화 |
| 5. 상품전단지, 해설서 | 6. TV 프로그램 | 7. 라디오프로그램 | 8. 비디오, DVD |
| 9. CD | 10. 음성테이프 | 11. 컴퓨터 (인터넷 등) | |
| 12. 게임소프트 | 13. 기타 _____ | | |

Q2-3 Q2-2에서 ○를 한 것 중에서, 가장 자주 접하는 것, 하나에 대해서 답해 주십시오.

① 그것은 Q2-2의 1~13 중 어느 것입니까? • 하나만 선택하여 아래 번호에 ○를 해 주십시오.															
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
② 인도는 어느 정도입니까? ○를 표시해 주십시오.															
1. 일년에 2, 3회			2. 월 2, 3회			3. 주 1회		4. 주 2, 3회		5. 매일					
③ 그것은 누구의 것입니까?															
1. 본인		2. 가족		3. 친구 및 아는 사람			4. 학교		5. 회사			6. 기타 _____			
④ 주로 어떤 내용입니까? (복수응답 가능)															
1. 정치, 경제		2. 사회, 생활		3. 과학기술		4. 문화, 예술		5. 스포츠, 취미			6. 일본어/일본어 학습		7. 일본인	8. 일본	9. 기타 _____
⑤ 보거나 읽거나 하는 이유는 무엇입니까. 아래 항목에 대해 각각 다음의 5~1의 척도로 답해 주십시오. 그 외에 이유가 있는 경우는 「기타」에 이유를 기입하여 답해 주십시오.															
					매우 그렇다	유리하고 많아서 그렇다	중간	유리하고 적어서 그렇다	적어						
1. 즐겨워서	5	4	3	2	1										
2. 일본어를 접하고 싶어서	5	4	3	2	1										
3. 일본어 실력을 시험해보고 싶어서	5	4	3	2	1										
4. 일본어 능력 향상과 유지할 위해서	5	4	3	2	1										
5. 여러가지 정보를 얻을 수 있어서	5	4	3	2	1										
6. 일본과 일본인에 대해 알 수 있어서	5	4	3	2	1										
7. 사업상 필요해서	5	4	3	2	1										
8. 연구상 필요해서	5	4	3	2	1										
9. 기타 _____	5	4	3	2	1										

Q2-4 (Q2-1에서 「1」로 답하신 분은 기입하실 필요 없습니다)

수업 이외의 시간에 일본어가 사용된 것을 보거나 듣지 않는 이유는 무엇입니까? 아래에서 당신의 생각에 가장 가까운 것을 하나 골라 주십시오.

1. 보거나 듣고 싶은 생각이 없어서
2. 시간이 없어서
3. 자신의 일본어 실력이 부족해서
4. 경제적으로 부담이 되어서
5. 암송하기 어려워서
6. 기타 _____

Q3 현재 사용하고 있는 일본어 교과서나 수업시간에 교사로 부터 받은 학습자료들 수업 이외의 시간에도 사용합니까?

1. 예 (→Q3-1로)
2. 아니오 (→Q3-2로)

Q3-1 수업 이외의 시간에 교과서나 교사한테 받은 학습자료들 사용하여 공부할 때, 어떤 방법으로 공부하고 있습니까?

아래의 보기 중에서 해당되는 사항을 모두 골라 ()에 ○를 해 주십시오. 그리고 그 중에서 자주 사용하는 방법에는 ◎로 표시해 주십시오. (복수응답 가능)

- () 1. 어구(語句)의 의미를 알아본다
- () 2. 한자에 후리가나(일본식 발음)를 단다
- () 3. 한국어로 옮긴다
- () 4. 일본어를 아는 사람에게 전문한다
- () 5. 연습문제를 푼다
- () 6. 부록 카세트테이프를 듣는다
- () 7. 단어장을 만든다
- () 8. 스스로 문장을 만들어 본다
- () 9. 읽기, 암송한다
- () 10. 연습상대를 만들어서 회화연습을 한다
- () 11. 기타 _____

Q3-2 (Q3에서 「1」로 답하신 분은 기입하실 필요 없습니다)

일본어 교과서와 수업시간에 교사로 부터 받은 학습자료들 수업 이외의 시간에 사용하지 않는 이유는 무엇입니까?

1. 학교에서 학습자료들 가지고 올 수 없어서
2. 수업 이외의 시간에 일본어 공부할 시간 없어서
3. 어떻게 사용하면 좋을지 몰라서
4. 별로 일본어에 관심이 없어서
5. 어렵기 때문에
6. 기타 _____

Q4 과거 3년간 한국 또는 일본에서 다음(Q4-1의 표)과 같은 일본인 혹은 일본어를 접한 기회나 장소를 경험한 적이 있습니까?

1. 있다(→Q4-1, Q4-2로)
2. 없다(→Q5로)

Q4-1 경험한 적이 있는 모든 곳에 ○를 하고 한국에서인지 일본에서인지 ○를 해 주십시오.

	기회, 장소	한국	일본
1	일본인과의 교류회		
2	일본인 거장방문, 홈스테이		
3	지역에 일본인이 방문, 홈스테이		
4	일본어 스미지 컨테스트		
5	일본어가 사용되는 직장에서의 업무·마르베이트		
6	일본, 일본어에 관한 이벤트		
7	일본인이 있는 장소, 일본인이 모이는 장소		
8	일본, 일본어에 관한 자료센터, 도서관 (예: 서울 일본문화센터, 부산일본문화센터 등)		
9	기타 _____		

Q4-2 다시 한번 더 경험하고 싶은, 또는 계속 경험해 보았으면 하는 것이 있습니까?
가장 경험하고 싶은 것을 Q4-1의 선택사항에서 하나만 골라 기입해 주십시오.

1. 있다 →Q4-1에서 번호를 하나 골라 기입하십시오
2. 없다

Q5 아래 보기 중에서 현재 일본어학습을 위해서 사용하고 있는 것은 어떤 것입니까?
()에 ○를 해 주십시오. 그리고 그 중에서 자주 사용하는 것에는 ◎로 표시해 주십시오. (복수응답 가능)

- () 1. 학습참고서·문제집 → 다음 중 어느 분야입니까?
[1. 문법 2. 직문 3. 어휘 4. 한자 5. 회화 6. 시험대비
7. 독해 8. 기타 _____]
- () 2. 사전 (책명: _____)
- () 3. 한자사전 (책명: _____)
- () 4. 일본어학습을 위한 음성테이프
- () 5. 비디오교재
- () 6. 일본어 교육방송 강좌
- () 7. 일본어학습을 위한 컴퓨터소프트
- () 8. 인터넷 자료수집
- () 9. web 교재의 이용한 일본어학습
- () 10. e-메일, 채팅
- () 11. 일본어 TV 프로그램
- () 12. 일본어 영화
- () 13. 일본어 민화

- () 14. 일본어 소설이나 잡지, 신문등 서적류
- () 15. 일본어로 된 게임소프트
- () 16. 일본 노래
- () 17. 기타 _____

Q6 아래 보기 중에서 일본어학습과 일본에 대한 이해를 위해서 앞으로 좀 더 중점해 줬으면 하는 것은 어느 것입니까? ()안에 ○를 해 주십시오. 그리고 그 중에서 특히 중점해 줬으면 좋겠다고 생각하는 것에는 ◎로 표시해 주십시오. (복수응답 가능)

- () 1. 교과서→ 어떤 것인지 써 주십시오. _____
- () 2. 학습참고서·문제집 → 다음 중 어느 분야입니까?
[1. 문법 2. 직문 3. 어휘 4. 한자 5. 회화 6. 시험대비
7. 독해 8. 기타 _____]
- () 3. 사전→ 다음 중 어느 것입니까?
[1. 한-일 2. 일-한 3. 기타 _____]
- () 4. 한자사전
- () 5. 일본어학습을 위한 음성테이프
- () 6. 비디오교재
- () 7. 일본어 교육방송 강좌
- () 8. 일본어학습을 위한 컴퓨터소프트
- () 9. web 일본어학습 프로그램
- () 10. 일본어 소설이나 잡지, 신문등 서적류
- () 11. 일본어 TV 프로그램
- () 12. 일본어 영화
- () 13. 일본어로 된 게임소프트
- () 14. 일본인과의 교류회(파티, 하이킹, 요리교실 등)
- () 15. 일본인거장 방문, 홈스테이
- () 16. 일본어 스미지대회
- () 17. 일본어나 일본어에 관한 이벤트
- () 18. 일본어를 사용한 마르베이트
- () 19. 유학 기회
- () 20. 기타 _____

법조해 주셔서 감사합니다

教師用調査票（日本語版・韓国語版）

「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」への
御協力をお願い

国立国語研究所日本語教育部門では、「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を行っております。

インターネットを始めとする様々な情報流通のあり方の変化に伴い、日本語を学習する、あるいは教える環境や手段も多様化し、支援のあり方も柔軟に対応する必要があります。そのためには、まず国内外で日本語を学習、あるいは教えている方々がどのような環境で日本語を学習、あるいは教え、どのような手段で日本語を学習、あるいは教えているかについて広く情報収集し、「多様化」している現状を把握する必要があります。その一環として、本年度は、日本語教育支援のための基礎研究として、韓国での日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査を行っております。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解くださり、ご回答くださるようお願い致します。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所日本語教育部門
TEL:+81-3-5993-7660
FAX:+81-3-3906-3530
<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

<教師用アンケート>

※選択肢のあるものは番号に○をしてください。日本語が母語の方はF5、F6、F9の質問には答える必要はありません。

F1 性別 1. 男 2. 女

F2 居住地域 _____ (特別市・広域市・道) _____ (市・郡)'

F3 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60歳以上

F4 母語<最もよく話せることば> _____ 語

F5 日本語学習歴 _____ 年 (日本での学習歴 _____ 年)

【内訳】 専門大学・大専校・大学院 _____ 年
高校 _____ 年
中学 _____ 年
小学校 _____ 年
その他の教育施設(学院など) _____ 年
企業 _____ 年
その他 _____ 年

F5-1 その他の外国語学習歴 _____ 語 _____ 年
_____ 語 _____ 年

F6 日本に行った経験がありますか 1. ない 2. ある

F6-1 「2」と答えた方はその目的は何ですか

1. 観光 2. 仕事 3. 短期留学(6ヶ月未満) 4. 短期留学(6ヶ月以上～1年未満)
5. 長期留学(1年以上) 6. 企業研修 7. 国際交流 8. ワーキングホリデー
9. 家族滞在 10. その他 _____

F7 日本語教育経験 合計 _____ 年

【内訳】 専門大学・大専校・大学院 _____ 年
高校 _____ 年
中学 _____ 年
その他の教育施設(学院など) _____ 年
企業 _____ 年
その他 _____ 年

F8 日本語以外の教育経験 _____ 年 科目名 _____

F9 あなたは現在、日本語がどのくらいできますか (①)。そして、将来どのくらいできるようになるまで勉強したいと思っていますか (②)。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」それぞれについて、最も適当なものを選んで、表の中に記入してください。

【読むこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. よく知っているトピックであれば新聞や雑誌の記事が理解できる。
3. 簡単な文章ならだいたい理解できる。
4. 辞書を使って新聞や雑誌、興味のある分野の本などがだいたい理解できる。
5. 母語と同じように読める。

①現在	②将来

【書くこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 短い文を書くことができる。
3. 友人や身近な人への手紙を書くことができる。
4. 改まった手紙・レポートなど、まとまった文章が書ける。
5. 母語と同じように書ける。

①現在	②将来

【聞くこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる。
3. 会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる。
4. テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる。
5. 母語と同じように聞いて理解できる。

①現在	②将来

【話すこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 簡単な自己紹介ができる。
3. 日常生活に困らない程度の表現を使える。
4. 自分の意見や考えをまとめて話すことができる。
5. 母語と同じように話せる。

①現在	②将来

F10 日本語教師になった理由は何ですか。(自由記述)

F11 日本語教育に関する学会、研究会、教師会などに参加したことがありますか。

1. いいえ (→F12へ)
2. はい

参加したことがある学会・研究会・教師会名を記入し、発表経験や役員経験があれば○をつけてください。

学会・研究会・教師会名	発表経験	役員経験

F12 教師になってから日本語教育の研修を受けたことがありますか。

1. いいえ (→Q1へ)
2. はい

全部で何回、研修を受けましたか。 _____ 回

そのうちの主なものについて記入してください。

研 修 名	期間(例：2日間、1ヶ月)

□ 普段なさっている御自分の授業について質問をします。

Q1 授業ではどんなものを使いますか。

どのくらいの頻度で使っているか、それぞれについてお答えください。

	いつも 使う	よく 使う	ときどき 使う	1、2回使った ことがある	使わない
1. 市販の教科書	5	4	3	2	1
2. 生教材	5	4	3	2	1
<「生教材」の種類は、Q2を参照してください>					
3. 問題集	5	4	3	2	1
4. プリント教材(自作)	5	4	3	2	1
5. 音声テープ(市販)	5	4	3	2	1
6. 音声テープ(自作)	5	4	3	2	1
7. ビデオ(市販)	5	4	3	2	1
8. ビデオ(自作)	5	4	3	2	1
9. 絵	5	4	3	2	1
10. 文字カード/フラッシュカード	5	4	3	2	1
11. 実物	5	4	3	2	1
12. その他 _____	5	4	3	2	1

Q2 授業で「2」生教材を使ったことがある人はどんなものを使いましたか。(複数回答可)

1. 新聞
2. 雑誌
3. 本
4. テレビ番組
5. ビデオ
6. インターネット
7. 写真
8. マンガ
9. テープ・CD
10. その他 _____

Q2-1 なぜそれらを使用しましたか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。(複数回答可)

1. 学習者に本物の日本語に触れさせるため
2. 日本の事物や文化に触れさせるため
3. 日本語能力の向上には欠かせないため
4. 学習者の興味・関心をひくため
5. 学習者が希望したから
6. その他 _____

Q3 授業で自作教材を使ったことがある人はどんな自作教材を使用しましたか。(複数回答可)

1. 活動用補助シート(タスクシート、ロールカードなど)
2. フラッシュカード(絵カード、文字カードなど)
3. 練習問題などのプリント
4. 読解用のプリント
5. 音声教材(テープ)
6. 学習項目説明のためのプリントなど
7. コンピューターを使って教える教材
8. その他 _____

Q4 授業で機材を使用しますか。 1. いいえ 2. はい

「2. はい」と答えた人はどんな機材を使用しますか。(複数回答可)

1. ビデオ
2. テープレコーダー
3. OHP
4. コンピューター
5. その他 _____

Q5 授業で日本語をどのくらい使いますか。レベル別に○を記入してください。

		初級	中級	上級
全て日本語を使う				
一部日本語を使う	あいさつ			
	例文や本文を読む			
	指示を出す			
	文法説明			
	アクティビティの説明			
	その他 _____			

Q6 次の中で、授業準備のためや、日本語や日本について知るために、利用するものや相談する相手はどれですか。()に○をつけてください。またその中でよく利用するものや相談する相手には◎をつけてください。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| () 1. 特に何もしない | () 2. 教科書 |
| () 3. 教科書に付随した指導書 | () 4. 文法解説書 |
| () 5. 参考書 | () 6. 日本語辞書(書名: _____) |
| () 7. 漢字辞典(書名: _____) | () 8. ビデオ |
| () 9. 日本語学習のための音声テープ | () 10. 日本語学習のためのコンピューターソフト |
| () 11. インターネット | () 12. テレビ番組 |

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| () 13. 映画 | () 14. 日本語の歌(テープ、CD) |
| () 15. 参加した研修会での資料等 | () 16. 他の韓国教師 |
| () 17. 日本人の同僚 | () 18. 日本人アシスタント |
| () 19. 教師以外の人 | () 20. 前回の授業 |
| () 21. その他 _____ | |

Q7 日本語教師の能力について、それぞれどのくらい重要だと思いますか。

	非常に重要	重要	重要ではない	重要ではない
1. 日本語運用能力	5	4	3	2 1
2. 言語教育能力	5	4	3	2 1
3. 日本語の知識	5	4	3	2 1
4. クラスマネージメント	5	4	3	2 1
5. 日本に関する知識	5	4	3	2 1
6. その他 _____	5	4	3	2 1

Q8 日本語教師としての資質・能力向上のために以下の1~7をどのくらいしていますか。

「ほとんどしない」場合、その理由は何ですか。下の□の中から選んで、____に記入してください。1~7それぞれについて答えてください。

	よくする	時々する	ほとんどしない	理由
1. 研修会や勉強会に出席する	3	2	1	→ 理由 _____
2. 参考書や専門書で勉強する	3	2	1	→ 理由 _____
3. 他の教師と話す	3	2	1	→ 理由 _____
4. 他の教師の授業を見学する	3	2	1	→ 理由 _____
5. 自分の授業を見てもらう	3	2	1	→ 理由 _____
6. 異なる指導法・教材を検討し、経験する	3	2	1	→ 理由 _____
7. テーマを決めて研究する	3	2	1	→ 理由 _____

<「ほとんどしない」理由>

1. 研修会等を知らなかったから	6. 現在の職場では問題がないから
2. 研修会等の機会がないから	7. 十分な日本語教育能力があるから
3. お金がかかるから	8. 忙しいから
4. 研修会等の場所が遠いから	9. その他 _____
5. 興味がないから	

Q8-1 日本語教師としての資質・能力向上のために、他にどんなものが役に立つと思いますか。何かございましたら、ご自由にお書きください。また、その中で経験したことがあるものには番号に○をしてください。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____

Q9 普段、コンピューターでどんなことをしていますか。していること全てに○をしてください。

1. ワードプロソフトを使って教材等を作成する
2. インターネットを利用して、情報を収集する
3. 電子メールを送受信する
4. チャット
5. プレゼンテーション用ソフト (Power point など) を使って、授業や発表を行う
6. ホームページ作成ソフトを使ってホームページを作る
7. コンピューターを使って教える教材 (CAI 教材/web 学習教材) を作成する
8. その他 _____

Q10 日本語教育のために、コンピューターを利用することは必要だと思いますか。

とても必要 5 4 どちらともいえない 3 2 全く必要ない 1

Q11 韓国の日本語教師の資質・能力向上のために、今後、充実を希望するものには () に○を、特に強く希望するものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 文法解説書 一次のどれですか。[1. 初級 2. 中級 3. 上級]
- () 2. 辞書 一次のどれですか。[1. 韓-日 2. 日-韓 3. その他 _____]
- () 3. 漢字辞典 一次のどれですか。[1. 韓国語で説明 2. 日本語で説明]
- () 4. 教師用指導参考書 一どんなものですか。 _____
- () 5. 日本語学習のための音声テープ
- () 6. 日本語学習のためのコンピューターソフト 一次のどれですか。
[1. 作文 2. 発音 3. 漢字 4. 文法 5. その他 _____]
- () 7. web 日本語学習プログラム 一どんなものですか。 _____
- () 8. 日本語のテレビ番組
- () 9. 日本語の映画
- () 10. 日本語を使ったゲームソフト
- () 11. 日本人との交流
- () 12. 日本人との交換学習
- () 13. 日本人家庭への訪問、ホームステイ
- () 14. 日本・日本語・日本語教育に関するイベント
- () 15. 日本語教師養成・研修コース (大学・大学院)
- () 16. 教師間のネットワーク
- () 17. 研修会
- () 18. 訪日研修
- () 19. その他 _____

Q12 日本語の授業のためにあったらいいと思うものや充実したほうがいいと思うものは何ですか。(自由回答)

II *以下は、日本語が母語でない方のみお答えください。

Q13 日本語の授業以外で日本語を使ってやりとり (会話、電話、手紙、電子メールなど) をすることはありますか。

1. はい (-013-1, 013-2へ)
2. いいえ (-013-3へ)

Q13-1 日本語の授業以外でどんな人と日本語でやりとりしますか。やりとりする人全員に○をし、その方法を選んで○をつけてください。(複数回答可)

O	相手	方法				
		会話	手紙	電話	電子メール	チャット
1	日本語の教師					
2	日本語以外の教師					
3	日本人アシスタント					
4	日本人留学生					
5	店やレストランの店員					
6	家族・親戚等					
7	知り合い					
8	日本の関係機関の人					
9	その他 _____					

Q13-2 Q13-1で○をした中で、もっともよく日本語でやりとりをする人あるいは人達について、答えてください。

① その人はQ13-1の1~9のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。
1 2 3 4 5 6 7 8 9
② どの国の人ですか。
1. 韓国人 2. 日本人 3. その他 _____
③ 性別
1. 男 2. 女
④ やりとりをするようになった頃、あなたの日本語はどうか。○を付けてください。
1. ほとんどできなかった 2. 少しできた 3. 日常会話程度できた 4. かなりできた 5. 日本人と同程度できた
⑤ やりとりをする頻度はどのくらいですか。1つ選んでください。
1. 年に2,3回 2. 月2,3回 3. 週1回 4. 週2,3回 5. 毎日
⑥ やりとりの主な手段は何ですか。(複数回答可)
1. 会って話す 2. 電話で話す 3. 手紙 4. 電子メール 5. その他 _____
⑦ その人とやりとりをする時、日本語をどのくらい使いますか。
1. 全部日本語 2. 主に日本語 3. 日本語と他の言語が半々 4. 主に他の言語
⑧ 主にどんなことについて話しますか。(複数回答可)
1. 日本語について 2. 勉強について 3. 仕事について 4. 生活について 5. 趣味について 6. 社会について 7. その他 _____

④ やりとりをその人とするとき、なぜ日本語を使うのですか。下の項目それぞれについて、5～1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。

	全く(1)使	どちらともいえない	全く(5)使わない
1 日本語を使うのは楽しいから	5	4	3
2 日本語の母語話者と話したいから	5	4	3
3 日本語能力向上や維持のため	5	4	3
4 仕事として義務づけられているから	5	4	3
5 日本語が最もわかりあえる言葉だから	5	4	3
6 相手が使うから	5	4	3
7 習慣になっているから	5	4	3
8 その他	5	4	3

Q13-3 (Q13で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外で日本語を使わない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

- 1 日本語を使う相手がいないから
- 2 日本語を使いたいと思わないから
- 3 自分の日本語力が充分ではないから
- 4 恥ずかしいから
- 5 自信がないから
- 6 韓国語や英語などの言語の方が便利だから
- 7 その他

Q14 身の回りに、日本語が使われているものはありますか。(日本語学習教材は除きます。)

- 1 はい (→Q14-1へ)
- 2 いいえ (→Q15へ)

Q14-1 日本語の授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりすることはありますか。

- 1 はい (→Q14-2, Q14-3へ)
- 2 いいえ (→Q14-4へ)

Q14-2 授業以外でどんなもの(日本語が使われているもの)を見たり聞いたりしますか。あてはまるもの全てに○をしてください。(複数回答可)

- 1 新聞
- 2 雑誌
- 3 本
- 4 漫画
- 5 商品のパッケージや解説書
- 6 テレビ番組
- 7 ラジオ番組
- 8 ビデオ・DVD
- 9 CD
- 10 音声テープ
- 11 コンピューター(インターネット等)
- 12 ゲームソフト
- 13 その他

Q14-3 Q14-2で○をした中で、最もよく見たり聞いたりするもの一つについて、答えてください。

① それはQ14-2の1～13のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
② 頻度はどのぐらいですか。○を付けてください。												
1. 年に2, 3回			2. 月2, 3回			3. 週1回			4. 週2, 3回		5. 毎日	
③ それは誰のものですか。												
1. 自分のもの			2. 家族のもの			3. 友人や知り合いのもの			4. 学校のもの			
5. 会社のもの		6. その他										

④ 主にどんな内容ですか。(複数回答可)

1 政治・経済	2 社会・生活	3 科学技術	4 文化・芸術	5 スポーツ・趣味
6 日本語・日本語学習	7 日本人	8 日本	9 その他	

⑤ 見たり聞いたりする理由は何ですか。下の項目それぞれについて、5～1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。

	全く(1)使	どちらともいえない	全く(5)使わない
1 楽しいから	5	4	3
2 日本語に触れたいから	5	4	3
3 日本語の力を試してみたいから	5	4	3
4 日本語能力の向上や維持のため	5	4	3
5 様々な情報が得られるから	5	4	3
6 日本や日本人について知ることができるから	5	4	3
7 仕事のため	5	4	3
8 研究のため	5	4	3
9 その他	5	4	3

Q14-4 (Q14-1で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりしない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

- 1 見たり、聞いたりしたいと思わないから
- 2 時間がないから
- 3 自分の日本語力が充分でないから
- 4 利用するのにお金がかかるから
- 5 手に入りにくいから
- 6 その他

Q15 過去3年の間に、韓国、あるいは日本で次の表(Q15-1)のような日本人や日本語に接する機会や場所を経験したことがありますか。

- 1 はい (→Q15-1, Q15-2へ)
- 2 いいえ (→以上です)

Q15-1 経験したことがあるものの番号に○をし、韓国、日本のどちらで経験したか○をつけてください。

	機会・場所	韓国	日本
1	日本人との交流会		
2	日本人家庭への訪問・ホームステイ		
3	自宅への日本人の訪問・ホームステイ		
4	日本語のスピーチコンテスト		
5	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事		
6	日本・日本語に関するイベント		
7	日本人のいる場所、日本人が集まる場所		
8	日本・日本語に関する資料センター・図書館 (例: ソウル日本文化センター、在釜山日本国総領事館)		
9	その他		

Q15-2 経験したことがある場合、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思うものはありますか。最も経験したいと思うものを Q15-1 の選択肢の中から一つだけ選んで記入してください。

1. ある

	015-1 の選択肢の番号を一つ記入してください
--	--------------------------

2. ない

ご協力ありがとうございました。

교사용

「일본어교육 학습환경과 학습수단에 관한 조사연구」에 대한

협조문

국립국어연구소 일본어교육 부문에서는 「일본어교육의 학습환경과 학습수단에 관한 조사연구」를 실시하고 있습니다.

인터넷을 비롯한 다양한 정보환경의 변화에 따라, 일본어를 배우고 또는 가르치는 환경과 수단도 다양화해짐에 따라, 지원방법도 이에 부응할 필요가 있다고 봅니다. 이를 위해서는, 우선 국내외에서 일본어를 학습 또는 교육하시는 분들이 어떠한 환경에서 일본어를 배우고 또는 가르치고 있는가에 대해 광범위하게 정보를 수집하여, "다양화"되고 있는 현황을 파악할 필요성을 느낍니다.

그 일환으로, 올해는 일본어교육 지원을 위한 기초연구로써 한국에서의 일본어교육 학습환경과 학습수단에 관한 조사를 실시하고 있습니다.

바쁘신 가운데 죄송합니다만, 본조사의 취지를 널리 이해해 주시고, 질문에 답해 주셨으면 합니다. 감사합니다.

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所 日本語教育部
TEL:+81-3-5993-7660
FAX:+81-3-3906-3530
http://www.kokken.go.jp/js/

<교사용 양케이트>

※대당되는 번호에 O를 해 주십시오. 일본어가 모국어이신 분은 F5, F6, F9 의 질문에 답하지 않으셔도 됩니다.

F1 성별 1. 남 2. 여

F2 거주지역 _____(특별시·광역시·도) _____(시·군)

F3 연령 1. 10대 2. 20대 3. 30대 4. 40대 5. 50대 6. 60세 이상

F4 모국어(母國語)<가장 능숙한 언어> _____어

F5 일본어학습경력 _____년 (이중 일본에서의 학습경력 _____년)

[구분] 전문대학, 대학교, 대학원 _____년
고등학교 _____년
중학교 _____년
초등학교 _____년
기타교육시설 (학원 등) _____년
기업 _____년
기타 _____년

F6-1 기타 외국어학습경력 _____어 _____년
_____어 _____년

F6 일본에 가 본 경험이 있습니까?

1. 없다 2. 있다

F6-1 '2' 리고 답하신 경우의 방문목적은 무엇입니까?

1. 관광 2. 업무 3. 단기유학 (6개월미만) 4. 단기유학 (6개월이상 1년미만)
5. 장기유학 (1년이상) 6. 기업연수 7. 국제교류 8. 취업 준비(태)
9. 가족체재 10. 기타 _____

F7 일본어교육경험 합계 _____년

[구분] 전문대학, 대학교, 대학원 _____년
고등학교 _____년
중학교 _____년
기타교육시설 (학원 등) _____년
기업 _____년
기타 _____년

F8 일본어 이외의 교육경력 _____년 과목명 _____

F9 당신은 현재 일본어를 어느정도 할 수 있습니까? ① 그리고, 앞으로 어느정도 할 수 있었으면 좋겠다고 생각합니까? ② 「읽기」 「쓰기」 「듣기」 「말하기」 의 각각에 대해, 가장 적당하다고 생각하는 것을 선택하여 표에 기입해 주십시오.

[읽기]

1. 모르겠다. 생각해 본 적이 없다.
2. 잘 알고 있는 책이나 신문과 잡지의 기사를 이해할 수 있다.
3. 간단한 문장이려면 대개 이해할 수 있다.
4. 시전을 사용해서 신문, 잡지, 흥미가 있는 책 등을 거의 문제없이 이해할 수 있다.
5. 우리말(모국어)과 비슷한 수준으로 읽을 수 있다.

①현재	②장래

[쓰기]

1. 모르겠다. 생각해 본 적이 없다.
2. 짧은 문장을 쓸 수 있다.
3. 친구나 가까운 사람에게 편지를 쓸 수 있다.
4. 시식을 갖춘 편지·리포트 등 정당한 문장을 쓸 수 있다.
5. 우리말(모국어)과 비슷한 수준으로 쓸 수 있다.

①현재	②장래

[듣기]

1. 모르겠다. 생각해 본 적이 없다.
2. 일상생활에서 사용하는 간단한 표현, 지시 등을 이해할 수 있다.
3. 회화중에 상대의 생각이나 의견을 대체로 이해할 수 있다.
4. TV 뉴스, 학교 강의 등 정당한 말을 거의 이해할 수 있다.
5. 우리말(모국어)과 비슷한 수준으로 들을 수 있다.

①현재	②장래

[말하기]

1. 모르겠다. 생각해 본 적이 없다.
2. 간단한 자기소개할 수 있다.
3. 일상생활에 불편하지 않을 정도의 표현을 사용할 수 있다.
4. 자신의 의견과 생각을 정리해서 말할 수 있다.
5. 우리말(모국어)수준으로 말할 수 있다.

①현재	②장래

F10 일본어교사가 된 이유는 무엇입니까? (자유기술)

F11 일본어교육에 관한 학회, 연구회, 교사회 등에 참가한 적이 있습니까?

1. 예니오 (→F12문)
2. 예

참가한 적이 있는 학회, 연구회, 교사회의 요인명을 기입하여, 발표를 하거나 임원이 된 적이 있으시면 ○로 표시해 주십시오.

학회, 연구회, 교사회 요인명	발표경험	임원경험

F12 교사가 된 후, 일본어교육을 위한 연수를 받은 적이 있습니까?

1. 아니오 (→Q1문)
2. 예

전부 몇 회, 연수를 받았습니까? _____회

그 중에서 주요한 연수명을 기입해 주십시오.

연 수 명	기간(예: 2월간, 1달)

I 평소 하고 계시는 수업에 대해서 묻겠습니다.

Q1 수업에서는 어떠한 교재를 사용하시며, 얼마나 자주 사용하십니까? 각각 답해 주십시오.

	항상 사용	자주 사용	가끔 사용	1,2번사용 꼭이없음	사용안함
1.시판된 교재	5	4	3	2	1
2.실용교재 (실생활의 여러 가지 예제를 활용한 자료) < '실용교재'의 종류는 Q2를 참고해 주십시오.>	5	4	3	2	1
3.문서집	5	4	3	2	1
4.본인이 만든 프란트교재	5	4	3	2	1

5.시판된 음성테이프	5	4	3	2	1
6.본인이 만든 음성테이프	5	4	3	2	1
7.시판된 비디오	5	4	3	2	1
8.본인이 만든 비디오	5	4	3	2	1
9.그림	5	4	3	2	1
10.문자카드 / 플래쉬카드	5	4	3	2	1
11.설문	5	4	3	2	1
12. 기타 _____	5	4	3	2	1

Q2 수업에서 「2」의 실용기자재들 사용한 적이 있다고 하신 분은 어떠한 것을 사용하셨습니다?

(복수응답 가능)

1. 신문 2. 잡지 3. 책 4. TV프로 5. 비디오 6. 인터넷 7. 사진
8. 만화 9. 테이프,CD 10. 기타 _____

Q2-1 사용하신 이유는 무엇입니까.

다음 보기 중에서 가장 가까운 것을 골라 주십시오. (복수응답 가능)

1. 학습자에게 살아있는 일본어를 접하게 하기 위해
2. 일본의 문화를 접하게 하기 위해
3. 일본어능력 향상에 필수적이기 때문에
4. 학습자의 흥미, 관심을 끌기 위해
5. 학습자가 위해서
6. 기타 _____

Q3 수업에서 자신이 만든 교재들 사용한 적이 있다고 하신 분은 어떠한 교재였습니까?

(복수응답 가능)

1. 활동용 보조시트 (과제활동시트<task sheet>, 역할연습카드 등)
2. 플래쉬카드 (□판카드, 글자카드 등)
3. 연습문제들의 프린트
4. 독해용 프린트
5. 음성교재 (테이프)
6. 학습형목 설명을 위한 프린트 등
7. 컴퓨터를 활용한 교재
8. 기타 _____

Q4 수업에서 기자재들 사용합니까?

1. 아니오 2. 예

「2. 예」로 답하신 분은 어떤 기자재들 사용하십니까? (복수응답 가능)

1. 비디오 2. 테이프레코더 3. OHP 4. 컴퓨터
5. 기타 _____

Q5 수업에서 일본어를 어느 정도 사용하십니까. 레벨별로 ○로 기입해 주십시오.

		초급	중급	상급
전부일본어로 한다				
일부만 일본어로 한다	인사			
	예문과 문법을 읽는다			
	지시를 한다			
	문법설명			
	활동에 대한 설명			
기타 _____				

Q6 아래 보기 중에서 수업준비를 위해, 또는 일본어나 일본에 대해서 알기 위해 이용하는 것이나, 상담하는 상대는 누구인지 ()에 ○를 표시해 주십시오. 그리고 그 중에서 자주 이용하는 것이나 상담하는 상대에는 ⊙를 표시해 주십시오. (복수응답 가능)

- () 1. 특별히 아무것도 하지 않는다 () 2. 교과서
() 3. 교과서에 딸린 지도서 () 4. 문법해설서
() 5. 참고서 () 6. 일본어사전 (서명:)
() 7. 한자사전 (서명:) () 8. 비디오
() 9. 일본어학습을 위한 음성테이프 () 10. 일본어학습을 위한 컴퓨터소프트
() 11. 인터넷 () 12. TV 프로
() 13. 영화 () 14. 일본노래 (테이프, CD)
() 15. 참가한 연수회에서 받은 자료 등 () 16. 다른 한국인 교사
() 17. 일본인 동료 () 18. 일본인 보조원
() 19. 교사이외의 사람 () 20. 전에 사용한 지도안
() 21. 기타 _____

Q7 일본어교사의 능력은 어느 정도 중요하다고 생각하십니까? 각각 답해 주십시오.

	아주 중요					중요하지 않다				
1. 일본어운용능력	5	4	3	2	1					
2. 언어교육능력	5	4	3	2	1					
3. 일본어지식	5	4	3	2	1					
4. 클래스 매니지먼트	5	4	3	2	1					
5. 일본에 관한 지식	5	4	3	2	1					
6. 기타 _____	5	4	3	2	1					

Q8 일본어교사로서의 자질·능력향상을 위해서 다음의 1~7을 어느 정도 하고 있습니까?
「거의 안한다」를 선택한 경우, 그 이유는 무엇입니까. 아래의 □에서 끝라 _____에
기입해 주십시오. 1~7 각각에 대해 답해 주십시오.

	자주한다	거끔 한다	거의 안한다
1. 연수회나 공부모임에 참가한다	3	2	1→ 이유 _____
2. 참고서나 전문서로 공부한다	3	2	1→ 이유 _____
3. 다른 교사와 얘기한다	3	2	1→ 이유 _____
4. 다른 교사의 수업을 견학한다	3	2	1→ 이유 _____
5. 자신의 수업을 들어보게 한다	3	2	1→ 이유 _____
6. 다른 지도법·교재를 검토하고 경험한다	3	2	1→ 이유 _____
7. 테이핑 정해서 연구한다	3	2	1→ 이유 _____

< '거의 안한다'를 선택한 이유 >

1. 연수회 등을 열리지	6. 현재의 직장에서 문제가 없어서
2. 연수회 등에 참가할 기회가 없어서	7. 충분히 일본어교육 능력이 있어서
3. 경제적 부담이 되므로	8. 비해서
4. 연수회 등의 장소가 멀어서	9. 기타 _____
5. 흥미가 없어서	

Q8-1 이 외에 어떤 것이 도움이 된다고 생각하십니까? 적어주십시오. (자유 기술)
또한 그 중에서 정중한 것에 ○를 해 주십시오.

1. _____ 2. _____
3. _____ 4. _____

Q9 평소, 컴퓨터로 어떠한 것을 하고 있습니까? 해당사항 모두에 ○를 해 주십시오.

- 워드프로세서를 사용하여 교재 등을 작성한다.
- 인터넷을 이용하여 정보를 수집한다.
- e-메일을 주고받는다.
- 채팅

- 프리젠테이션용 소프트웨어 (Power point 등) 을 사용하여 수업과 발표를 한다.
- 홈페이지 작성소프트웨어를 사용하여 홈페이지를 만든다.
- 컴퓨터를 사용하여 가르치는 교재 (CAI 교재, web 학습교재) 를 작성한다.
- 기타 _____

Q10 일본어교육을 위해서 컴퓨터를 이용할 필요가 있다고 생각하십니까?

매우 필요함	필요없음			전혀 필요하지 않음
5	4	3	2	1

Q11 한국의 일본어교사의 자질·능력향상을 위해서, 앞으로 충실해 지기를 희망하는 것에는
○를, 그 중에서도 특히 충실해 지기를 희망하는 것에는 ◎를 표시해 주십시오.
(복수응답 가능)

- () 1. 문법해설서 →다음중 어느 것입니까? (1. 초급 2. 중급 3. 고급)
- () 2. 사진 →다음중 어느 것입니까? (1. 한-일 2. 일-한 3. 기타 _____)
- () 3. 한자사전 →다음중 어느 것입니까? (1. 한국어로 설명 2. 일본어로 설명)
- () 4. 교사용지도참고서 →어떤 것입니까? _____
- () 5. 일본어학습을 위한 음성테이프
- () 6. 일본어학습을 위한 컴퓨터소프트웨어 →다음중 어느 것입니까?
(1. 작문 2. 발음 3. 한자 4. 문법 5. 기타 _____)
- () 7. web 일본어학습 프로그램 →어떤 것입니까? _____
- () 8. 일본어 TV 프로그램
- () 9. 일본어 영화
- () 10. 일본어로 된 게임소프트웨어
- () 11. 일본연극의 교육
- () 12. 일본연극의 교원학습
- () 13. 일본민가청 방문, 홈스테이
- () 14. 일본, 일본어, 일본어교육에 관한 이벤트
- () 15. 일본어교사양성, 연수코스 (대학교, 대학원)
- () 16. 교사간 네트워크
- () 17. 연수회
- () 18. 일본연수
- () 19. 기타 _____

Q12 일본어 수업을 위해 있었으면 좋겠다고 생각하는 것이나 충실함을 기렸으면 좋겠다고
생각하는 것은 무엇입니까? (자유 기술)

II • 다음은 일본어가 모국어가 아닌 분면 뒤에 주십시오.

Q13 일본어수업 이외에 일본어를 사용하여 대화, 전화, 편지, e-메일을 하는 경우가 있습니까?

1. 있다 (-Q13-1, Q13-2로) 2. 없다 (-Q13-3으로)

Q13-1 일본어수업 이외에 어떤 사람과 일본어를 사용하고 있습니까? 해당되는 번호에 ○를 하고, 그 방법을 골라 ○로 표시해 주십시오. (복수응답 가능)

○	방법					
		대화	편지	전화	e-메일	채팅
1	상대					
1	일본어교사					
2	일본어이외의 교사					
3	일본인보조자					
4	일본인유학생					
5	성심이나 레스토링의 직원					
6	가족, 친척 등					
7	여는 사람					
8	일본 관련기관의 사람					
9	기타 _____					

Q13-2 Q13-1 에서 ○로 표한 것 중에서, 가장 자주 일본어를 주고받는 사람 또는 사람들에 대해서 답해 주십시오.

① 그 사람은 Q13-1 의 1~9 중 어디에 해당합니까? • 하나만 골라 아래의 번호에 ○를 해 주십시오.

1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---

② 어느나라 사람입니까?

1. 한국인 2. 일본인 3. 기타 _____

③ 성별

1. 남 2. 여

④ 대화 등을 주고받을 수 있게 되었을 때, 당신의 일본어는 어느정도 있었습니까? ○로 표기해 주십시오.

1. 거의 불가능하였다 2. 조금 할 수 있었다 3. 일상회화 정도는 가능했다
4. 상당히 잘 했다 5. 일본인과 같은 수준이었다

⑤ 주고받는 빈도는 어느 정도입니까? 하나를 골라 주십시오.

1. 일년에 2,3회 2. 월 2,3회 3. 주 1회 4. 주 2,3회 5. 매일

⑥ 그 주요수단은 무엇입니까? (복수응답 가능)

1. 면담서 얘기한다 2. 전화로 얘기한다 3. 편지 4. e-메일
5. 기타 _____

⑦ 대화중의 상대방 사람과의 대화시, 일본어를 어느정도 사용하십니까?

1. 전부 일본어 2. 주로 일본어 3. 일본어와 그 외 언어가 반반 4. 주로 다른 언어

⑧ 주로 대화의 화제는 무엇입니까? (복수응답 가능)

1. 일본어에 대하여	2. 공부에 대하여	3. 일에 대하여	4. 생활에 대하여
5. 취미에 대하여	6. 사회에 대하여	7. 기타 _____	

⑨ 대화를 할 경우 일본어를 사용하는 이유는 무엇입니까? 아래의 각각의 항목에 대해서 5~1 의 척도로 답해주시시오. 그리고 이외의 이유가 있는 경우는, '기타'에 기입한 후 같은 방법으로 답해주시시오.

	매우 그렇다		중간정도		전혀 아니다	
	5	4	3	2	1	0
1. 일본어로 말하는 것이 재미 있어서	5	4	3	2	1	0
2. 일본어 테이티브와 이야기하고 싶어서	5	4	3	2	1	0
3. 일본어 능력 향상과 유지할 위해서	5	4	3	2	1	0
4. 업무상 반드시 필요해서	5	4	3	2	1	0
5. 일본어가 거창 알기쉬운 외국어여서	5	4	3	2	1	0
6. 상대방이 시달해서	5	4	3	2	1	0
7. 습관이 되어 있어서	5	4	3	2	1	0
8. 기타 _____	5	4	3	2	1	0

Q13-3 (Q13에서 '1'로 답한 분은 기입하신 필요가 없습니다)

수업 이외에서 일본어를 사용하지 않는 이유는 무엇입니까? 다음 중에서 당신의 생각과 가장 가까운 것을 하나 고르시오.

1. 일본어로 말할 상대가 없어서
2. 일본어로 못하고 싶지 않아서
3. 자신의 일본어실력이 부족하다고 생각해서
4. 참피해서
5. 자신이 없어서
6. 영어와 한국어 등 다른 언어가 더 편리해서
7. 기타 _____

Q14 주위에서 일본어로 된 것이 있습니까? (일본어 학습교재 제외)

1. 예 (-Q14-1로) 2. 아니오 (-Q15로)

Q14-1 일본어수업 이외의 시간에, 일본어로 된 것을 보거나 들은 적이 있습니까?

1. 예 (-Q14-2, 14-3으로) 2. 아니오 (-Q14-4로)

Q14-2 수업 이외에는 어떠한 것(일본어로 된 것 중에서)을 접했습니까? 해당되는 모든 것에

○를 해 주십시오. (복수응답 가능)

1. 신문
2. 잡지
3. 책
4. 만화
5. 상품의 포장면이나 해설서
6. TV 프로그램
7. 라디오프로그램
8. 비디오, DVD
9. CD
10. 음성테이프
11. 컴퓨터 (인터넷 등)
12. 게임소프트
13. 기타 _____

Q14-3 Q14-2에서○를 한 것 중에서 가장 자주 접하는 것 하나를 골라 답해 주십시오.

①그것은 Q14-2 의 1~13 중 어느 것입니까? • 하지만 신중하여 아래 번호에 ○를 해 주십시오.														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
②어느 정도 자주 접하십니까? ○를 해 주십시오.														
1. 월 2,3 회			2. 월 2,3 회			3. 주 1 회			4. 주 2,3 회			5. 매일		
③그것은 누구의 것입니까?														
1. 자신			2. 가족			3. 친구나 아는사람			4. 학교			5. 회사		
6. 기타 _____														
④구로 어떠한 내용입니까? (복수응답 가능)														
1. 정치,경제			2. 사회,생활			3. 과학기술			4. 문화,예술			5. 스포츠,취미		
6. 일본어/일본어 학습			7. 일본인			8. 일본			9. 기타 _____					
⑤보거나 듣거나 하는 이유는 무엇입니까? . 아래의 각각의 항목에 대해서 5~1 의 기준으로 답해 주십시오. 그 이외의 이유가 있는 경우는, 「기타」에 기입한 후, 답해 주십시오.														
			II부		III부		IV부							
			그중		중간		중간							
			5		4		3		2		1			
1.듣거워서														
2.일본어를 접하고 싶어서														
3.일본어능력을 체크해보고 싶어서														
4.일본어능력의 향상과 유지법 위해서														
5.여러가지 정보를 얻을 수 있어서														
6.일본과 일본인에 대해서 알 수 있어서														
7.사업상 필요해서														
8.연구상 필요해서														
9.기타 _____														

Q14-4 (Q14-1에서 「1」로 답변 내용은 해당되지 않습니다)

수업이외의 시간에 일본어로 된 것을 보거나 듣지 않는 이유는 무엇입니까? 다음중에서 가장 가까운 것을 하나 골라 주십시오.

1. 보거나 듣고 싶다고 생각하지 않아서
2. 시간이 없어서
3. 자신의 일본어능력이 충분하지 않아서
4. 경제적으로 부담이 되어서
5. 구하기 어려워서
6. 기타 _____

Q15 과거 3년간 한국 또는 일본에서 다음(Q15-1 의 표)과 같은 일본인 혹은 일본이류 접한 기회나 장소들 경험한 적이 있습니까?

1. 있다 (→Q15-1, Q15-2로)
2. 없다(→이상입니다.)

Q15-1 경험한 적이 있는 모든 곳에 ○를 하고 한국에서인지 일본에서인지 ○를 해 주십시오.

	기회, 장소	한국	일본
1	일본인과의 교류회		
2	일본인기상방송, 홈스테이		
3	지역에 일본인이 방문, 홈스테이		
4	일본어 스미지 콘테스트		
5	일본어가 사용되는 직경에서의 업무·미르비어드		
6	일본, 일본어에 관한 이벤트		
7	일본인이 있는 장소, 일본인이 모이는 장소		
8	일본, 일본어에 관한 자료센터, 도서관 (예: 서울 일본문화센터, 부산일본총영사관 등)		
9	기타 _____		

Q15-2 다시 한번 더 경험하고 싶은, 또는 계속 경험해 보았으면 하는 것이 있습니까? 가장 경험하고 싶은 것을 Q15-1의 선택사항에서 하나만 골라 기입해 주십시오.

1. 있다 →Q15-1에서 번호를 하니 골라 기입하십시오

2. 없다

협조해 주셔서 대단히 감사합니다.

■担当者

杉戸清樹（国立国語研究所日本語教育部門長）
石井恵理子（国立国語研究所日本語教育部門第一領域長）
金田智子（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）
小河原義朗（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）
笠井淳子（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）

■刊行物検討委員会

杉戸清樹（委員長：国立国語研究所日本語教育部門長）
山口昌也（国立国語研究所研究開発部門第一領域）
森本祥子（国立国語研究所情報資料部門第二領域）
小河原義朗（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）

■学習手段海外委員会

李徳奉（韓国・同徳女子大学校）
工藤節子（台湾・東海大学）
ロビン・スペンス・ブラウン（オーストラリア・モナシュ大学）
阿久津智（マレーシア・日本マレーシア高等教育大学連合／拓殖大学）

■所外協力

〈調査協力機関〉

韓国日本学会
韓国日本語文学会
大韓日語日文学会
同日語文学会
ソウル中等日本語教育研究会
京畿中等日本語教育研究会
大邱中等日本語教育研究会
全南中等日本語教育研究会
独立行政法人国際交流基金ソウル日本語センター
在釜山日本国総領事館日本語教育室
時事日本語社
日本語バンク

〈調査協力者〉

姜錫祐（韓国・カトリック大学校）
金世恩（韓国・同徳女子大学院博士課程）

〈研究協力者〉

木山登茂子（独立行政法人国際交流基金日本語国際センター）
佐藤純（タイ・タイ商工会議所大学）
タナサーンセーニー美香（タイ・アサンブション大学）
藤井彰二（台湾・財団法人交流協会台北事務所）
吉田真宏（マレーシア・日本マレーシア高等教育大学連合）

■調査委託会社

藤田茂（株式会社ストーム）

■編集協力

中山健一 高谷美彩子 伊藤啓子 辻聖子

平成 15 年度
日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究
韓国アンケート調査集計結果報告書

平成 16 年 3 月 31 日

独立行政法人 国立国語研究所 日本語教育部門
〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14

TEL : 03-5993-7660

FAX : 03-3906-3530

URL : <http://www.kokken.go.jp>

(平 15-18)